

T-ACT

つくばアクションプロジェクト

活動報告書

2017.JUNE



筑波大学
University of Tsukuba

目 次 -T-ACT活動報告書-

はしがき

アクション / プラン

みんなでbeatboxしませんか！？ (15027A)	1
異文化交流～超えよう異文化の壁を・繋がろう異文化の人と～ (15037A)	3
つくばグ2016 土壌生物の観察を通した体験学習 (15039A)	5
TEDxTsukuba2016 (15042A)	7
サイエンス・コミュニケーショントレーニング3 (15043P)	9
つくばアイドル誘致プロジェクト（企画編）(15044A)	11
サイエンス・コミュニケーショントレーニング4 (16001P)	13
盆踊りプロジェクト 一盆LIVE— (16002A)	15
ソーシャルビジネスってなんだろう？@Tsukuba (16003A)	18
筑波大学公務員志望者の会 第3期 (16004A)	20
香風寮学習ボランティア vol.2 (16005A)	22
Namaste Tsukuba (Supporting Indians Students) volume 3 (16006A)	23
おもしろ@研究会 (16007A)	25
Young Americans つくばスペシャル2016に参加しよう！ (16009A)	27
しゃべっぺ (16010A)	30
技術交流 LT (16012A)	32
Open University Life ～高校生×大学生による化学反応！！ part1～ (16014A)	34
あなたの小説が読みたい！	
—第九回筑波学生文芸賞の作品及び一般選考委員の募集— (16015A)	37
世界一大きな授業2016@TSUKUBA (16017A)	39
ゆめ花火プロジェクト2016 (16018A)	42
「つくプロ！」メンバー募集！！市役所と一緒につくば市のPRします！ (16019A)	46
つくばグ2016 “つくばのむし”を発信！展示を通した“むし”普及活動 (16020A)	47
re+—学生生活で悩んだときに読む本@筑波大学— produced by 希死回生 (16021A)	49
宙（そら）見る？～暗いからこそ星空へ～ (16022A)	51
“留学生のための”、筑波大学サークルサイト (16023A)	54
障がい者スポーツを体験しよう！ (16026A)	57
つくばアイドル誘致プロジェクト（実行編）(16027A)	58
わたしたちの松美池をきれいに vol.1現状を知る (16028A)	60
むし食うべ2：昆虫食をはじめに考える (16029A)	62
T-1 グランプリ2016 ～つくばでお笑いライブを～ (16030A)	64
つくば国際チェス交流会 (16031A)	67
学生プレゼンバトル2016 (16032A)	68

MENA Week (16033A)	70
Omochi Language Club 2016 Fall (16034A).....	74
TEDxUTsukuba 2016 (16035A)	75
技術交流 LT# 2 (16037A)	77
「春日講堂で演劇を」プロジェクト (16038A).....	79
分野の垣根を越えた「人」の輪を広げる ACADEMIC PARTY! (16041A)	80
リアル謎解きゲーム (16049A)	82
ボランティア	
知的障がい者サッカークラブ アシスタントコーチ (16001V)	85
トワイライト音楽祭2016 よろずの灯り (16006V)	86
鹿嶋市フロンティア・アドベンチャー (16007V)	88
Startup Weekend Tsukuba (16008V)	89
Summer Art Camp 2016 (16011V)	90
菅間小学校で夏休みの学習支援ボランティアを募集します!! (16018V)	92
いばらき子ども大学県南キャンパス運営スタッフ募集!! (16020V)	93
第2回 つくば小中学生将棋大会 (16021V)	95
英語学習中の小学生との異文化交流日本食パーティ (16022V)	96
みずき野夏祭り運営サポート (16031V)	98
中高生の「TEENS CAFÉ」スタッフ募集 (16033V).....	99
蹴ろケロフェスタ (16054V)	101
第5回子どものための救命教室 (16055V)	102
12月度きれいきれい大作戦 (16056V)	103
第6回子どものための救命教室 (16058V)	104
2016年度実施状況報告	105
編集後記	

※報告書内にある学生の学年は活動終了時のものです。

はしがき

「つくばアクションプロジェクト」(T-ACT) の『活動報告書(2017年6月発行)』をお届けします。本プロジェクトは、平成20年度に採択された「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」にはじまります。学生の自主性と社会性の育成を図るために、学生生活の中で学生が「やりたい」と考える健全で多様な活動を大学として支援することを目標としています。学生支援GPは平成23年度末で終了となりましたが、本企画の成果が認められ、その翌年からは筑波大学における人間力育成支援事業の一環として継承されています。したがって、T-ACTがスタートしてから今年で9年になります。

T-ACTには、学生が主体となって企画するT-ACTアクションと、教職員が主体となって企画するT-ACTプランがありますが、平成25年度からは、学生による主体的なボランティア活動を支援するT-ACTボランティアという枠が設立されています。学外から各種のボランティア情報を収集して、その情報を参考に学生が自ら主体的にボランティア活動を企画するプロジェクト型にすることで、学生の「やりたい」という活力を、学内に留まらず学外にも展開させています。社会に出て学外の人とふれあい、様々な経験を積んでもらうことにより、社会貢献・地域貢献を通して学生の成長を支援するものです。活動の拡大に伴い、平成26年度には、T-ACTプロジェクトはT-ACT推進室へと発展的に改組されました。T-ACTにおいて大学公認の活動として承認された企画の総数は、この9年間で650件を超えました。最近はT-ACTボランティア枠の件数が伸びています。

本報告書には、主に昨年度に実施された企画のうち、活動報告が提出された企画について掲載されています。本年度も文字通り多種多様な活動が実施されました。その中で特に印象に残った企画は、下半期の最優秀賞を受賞した「つくばアイドル誘致プロジェクト」です。これは雙峰祭の野外ステージに、あこがれのアイドルを呼ぼうという企画です。屋内トークショーを有料にするなどの工夫でお金集めに苦労したようですが、学生達の「やりたい」という思いが濃縮されていて、高く評価されました。

また、秋に開催された公開シンポジウムでは、「つくばと世界をつなぐT-ACT：留学生と創る筑波大学の未来」をテーマに、本学の国際化に向けた将来像について議論していただきました。近年、本学の留学生数は急増し、人数の比率では国内2位の大学となりました。国際交流の促進に、学生達の「やりたい」を支援するT-ACTのメカニズムが貢献できることを願います。今後は、国際化対応やボランティア関連の機能強化を図りながら、本学独自の注目企画としてさらに展開していくことでしょう。これまでにT-ACTの発展のためにご尽力いただいた学内外の皆様、それから、活動を大いに盛り上げることにより、T-ACTの高評価をもたらしてくれた学生および関係者の皆さんにお礼を申し上げます。皆様のこれまで以上のご支援とご助力をお願いいたします。

平成29年6月

T-ACT推進室長

田中 博

みんなでbeatboxしませんか！？(15027A)

T-ACT プランナー 松尾 優樹(人間学群教育学類2年)

活動内容

活動内容と目的

みなさんは、HumanBeatBoxを知っていますか？

最近でこそ「名前だけなら聞いたことが・・・」「テレビでやってたかも」って人がいると思います！

が、「ボイスパーカッション」と混同されがち。。

さらに、beatboxが実際どういうものなのかを知らない人が多いように感じます。

そこで！！

beatboxerの一人である僕がみなさんにbeatboxのことをもっと知っていただきたく、この企画を立ち上げました！

企画の内容

週に1回か、月2、3回 大学内の教室または部屋を借りて交流

基本的にはみんなでbeatboxをやってみようというものの流れ

1. beatboxの例として私がbeatboxをする。

2. beatbox lecture

3. Session

こんな感じです！

難しいと思っているbeatboxも、実は簡単！？

誰でもできる技なんていいくらでもあるんです。

例えば、舌打ち。

これは「インワードハイハット」という技に当たります。

他にもただ息を吸うだけ、吐くだけのものも・・・

あなたが知らないだけで既にいくつか技ができている可能性も高いのです！！

ゆくゆくは団体（サークル）にするつもりです。

ちなみに、この交流でボイスパーカッションもできるようになります。

活動計画

8～9月 メンバーを集め、集まり次第開始

8～11月 週1回または月に2、3回 大学内の教室または部屋を借りて交流を行う

11月 活動報告

活動期間

平成27年8月19日～27年11月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

○：稻葉大輝（教育学類）

△：漆原健太（医学医療エリア支援室）

活動報告

活動成果

活動はしていない。

目標達成出来ず。

成果は得られず。

今後の課題

課題としては人数を集めることにまず時間がかかった為、活動期間がかなり短くなってしまった。

T-ACT実施期間前から人数はある程度集めておく、または宣伝をしておくことが重要と思われる。

経験者からのメッセージ

計画性をもってT-ACTを行えばかなり自由度の高く自分のしたいことを出来るはずです。まずはトライして

みましょう。

運営者側から見たパーティシパントの変化

参加者は活動に参加せず。

T-ACT に関する感想

気軽に出来る点はいいと思います。

活動報告凄く遅くなってすみませんでした。

● 異文化交流～超えよう異文化の壁を・繋がろう異文化の人と～ (15037A)

T-ACT プランナー 福田 哲郎 (人文・文化学群比較文化学類2年)

活動内容

活動内容と目的

現在筑波大学には多くの留学生が在籍しているが、彼らと日本人の交流の場は少ない。また、留学生の「日本文化に触れる機会が少ない」という話を頻繁に耳にする。そのため、今回この企画を通して、留学生に日本文化を体験する場を提供すると共に、留学生と日本人学生の交流の場を設けることができたらな、と考えている。

活動計画

- 12月 活動開始
メンバー集め、計画
- 1月 ミーティング
交流会【日本の伝統的な遊び体験（仮）】
反省会、ミーティング
- 2月 ミーティング
交流会【豆まき】
反省会、ミーティング
交流会【お別れ会】
- 3月 活動終了
最終反省会、活動報告書作成

活動期間

平成27年12月1日～28年3月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：杉山萌依子（比較文化学類）、油井原このみ（比較文化学類）、ZHOU JUNJIE（情報科学類）、野崎凌太（比較文化学類）、吉川健人（生物学類）、染谷菊乃（比較文化学類）、横山舜（比較文化学類）

P：木村周平（人文社会系）

活動報告

活動成果

・活動内容

- 1月12日 ミーティング
- 1月18日 本番雨のため延期
- 1月21日 ミーティング
- 2月6日 イベントの実施

・目標達成度

あまり達成できたとは言えない。

当初予定していた、1月18日が大雨のため延期となってしまい参加者が大幅に減ってしまった。2月6日に一応実施したが、テスト前ということもあり参加者は少なかった。

・得られた成果

参加してくれた台湾人の方にはとても楽しんでいただけた。やはり、日本にいるからと言って日本人と関わったり日本の文化にふれる機会は少ないようで、こうした機会づくりが大切だと感じた。

今後の課題

このような会を開く際には日時の設定をしっかりしないといけないと感じた。テスト前は特に人が集まらない。留学生との連絡は早め早めにやらないと返事が遅いことがあった（日本人も然り…か）。

経験者からのメッセージ

時期設定は慎重に。

留学生対象の広報は留学生センター前で休み時間に行うと効果が大きい。

運営者側から見たパーティシパートの変化

留学生の方は、独楽や凧揚げをやったことがなかったそうで、とても良い経験になったと思う。

日本人にとっても、留学生と関わることがそれほどハードルの高いことではないと感じていただけたと思う。



つくバグ2016 土壌生物の観察を通しての体験学習 (15039A)

T-ACT プランナー 田中 千聰 (生命環境学群生物学類3年)

活動内容

活動内容と目的

人類の持続可能な未来を実現するために、次世代を担う子供たちへの環境教育は欠かせないものである。しかし、子ども達が環境について体験的に学ぶ機会は、景観や学校教育の変化によって減少しつつある。「つくバグ」は生物学を専攻する学生による自然体験教室を開催し、実感を伴った自然学習の場を提供してきた。今回は、土壌生態系という身近な環境に焦点を当て、自然と人間との関わり方について足元から学ぶ。

活動計画

- 1月14日 観察会の行程および場所決定
- 1月21日 観察会の募集にむけた広報活動の開始
- 1月24日 スタッフの安全講習受講日
- 2月6日 観察会参加者募集開始
- 2月27日 参加者募集締め切り
- 3月5日 参加者への参加要項等の発送
- 3月19日 土壌生物観察会当日
- 3月20日 観察会の反省

活動期間

平成28年1月1日～28年3月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O：矢野更紗（生物学類）、山本鷹之（生物学類）、平野靖也（生物学類）、鈴木佑弥（生物学類）、相澤良太（生物資源学類）、吉橋佑馬（生物学類）、井戸川直人（生物学類）、林靖人（生物学類）、岩田基晃（生物学類）、桑原良輔（生物学類）
 P：木下奈都子（生命環境系）

活動報告

活動成果

- 1月 観察会の行程および場所決定
 観察会の募集にむけた広報活動の開始（ラジオ番組を通じた広報）
 スタッフの安全講習受講会受講
- 2月 広報雑誌への掲載延期などにより、開催日延長（4月24日に）
 会場および行程の変更
- 3月 観察会に使用する虫（生体）の採集
 公共施設などにおける観察会広報ポスター掲示
- 4月 参加者への参加要項等の発送
 土壌生物観察会当日
- 5月 観察会の反省
- 6月 観察会での反省を踏まえた課題の提示

今後の課題

広報活動の遅れによって開催時期をずらざるを得なくなってしまいました。今後は、広報記事掲載の際は相手（雑誌社の方など）としっかりとコミュニケーションをとることで今回のようなミスを防ごうと思います。

経験者からのメッセージ

学外に向けた活動を行う際には、「外」の人とのコミュニケーションが必要です。

外部の方との連絡でえた情報をメンバー同士で積極的に情報共有してより円滑な運営をしましょう。

運営者側から見たパーティシパントの変化

参加した子どもたちははじめにムカデやヤスデなど大きな土壌生物に興味を示しており、メンバーの分類の解説（ムカデとヤスデの違いなど）を生体を実際に目にしたことで、土壌生物の存在をより身近なものとして感じ

ることができるようにになったのではないかと思う。また、土壤生物のソーティングやボールペンを用いたシロアリとダンゴムシの迷路実験によって虫たちの行動やその生活について興味をもったようであった。さらに、野外にて土壤生物以外の虫（蝶など）も観察することは、子ども達が土壤生物の役割やその環境について考えるきっかけとなっただろう。

TEDxTsukuba2016 (15042A)

T-ACT プランナー 山本 有希子 (医学群看護学類4年)

活動内容

活動内容と目的

TEDxとは、TED 同様「Ideas Worth Spreading (価値あるアイディアを広めよう)」という価値観のもと、理念に賛同した各地域の意欲ある主催者によって、世界各都市で独自に開催されるイベントです。厳選された講演者による講演や TED Talks の鑑賞を中心としたプログラムを組み、新たな人々のつながりや熱い議論を生み出すことを目的としています。

その価値観に基づき、私たちは「つくばの魅力的なアイディアを発掘・伝えることで多様なコミュニティを活性化したい」という理念のもと活動しています。この理念を実現するために「地域の情報発信と共有」という切り口から、つくば市を拠点に活躍する方々を多分野から招き、講演会を開催しています。魅力的なアイディアの交流による新たなアイディアの創出、その場を共有する人々の交流から生まれる新たな繋がりは地域を活性化し、それが社会貢献に繋がると信じています。

活動計画

- 2月 チラシ・ポスター第一弾配布に向けて広報活動の方針固め
HP、twitter、FB、PVによる団体・イベントのPR
講演会後の懇親会の会場と内容検討 & 決定
講演者、協賛者の検討 & 交渉 (4月下旬にかけて講演者・協賛者の決定)
- 3月 チラシ・ポスター第一弾配布開始 / 第二弾のデザイン検討
講演者の講演内容の検討
- 4月 チラシ・ポスター第二弾配布開始
講演者・協賛者の最終決定 & 講演内容、協賛内容の決定
チケットの販売開始
- 5月21日 リハーサル
- 5月22日 本番
- 5月22日～ イベントの振り返り (反省と今後の方向性)
*活動報告を行う

活動期間

平成28年2月3日～28年8月2日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：黒澤翔 (理工学類)、佐々木美樹 (地球学類)、岡元紀 (心理学類)、土井ひらく (工学システム学類)、大矢裕之 (生物資源学類)、海津綾夏 (工学システム学類)、山中万里 (工学システム学類)、藤井梨紗 (人間総合科学研究科)、榎原さくら (看護学類)、橋爪智 (情報メディア創成学類)、松田ひかり (工学システム学類)、照屋心之助 (生物資源学類)、山中哲太 (社会工学類)、服部暉 (生物資源学類)、松永有里菜 (人間総合科学研究科)、後藤琢磨 (人間総合科学研究科)、高柴慶人 (生物資源学類)、クレイグ聰良 (生物資源学類)
P：須藤英世 (連携・渉外室)

活動報告

活動成果

・活動内容

2月：

チラシ・ポスター第一弾配布に向けて広報活動の方針固め

HP、twitter、FB、PVによる団体・イベントのPR

講演会後の懇親会の会場と内容検討 & 決定

講演者、協賛者の検討 & 交渉

3月：

チラシ・ポスター第一弾配布開始 / 第二弾のデザイン検討

講演者の講演内容の検討

4月：

チラシ・ポスター第二弾配布開始

講演者・協賛者の最終決定 & 講演内容、協賛内容の決定

チケットの販売開始

5月21日：リハーサル

5月22日：本番

22日～：イベントの振り返り

・目標達成度

目標をおおよそ達成することができた。

→イベント後のパーティシパント側の反応として、「新しいアイディアに触れることができた。」「自分にはない視点に触れ、日々の生活に取り入れてみようと思った。」「実際に難民（難民支援についてのプレゼンがありました）に会いに行った。」などがあった。イベントを通して、新たなアイディアやつながりが生まれた。

→運営側として、イベント準備がイベント直前まで終わっていなかったり、当日の運営でも準備不足からトラブルがあつたりした。

・得られた成果

＞メンバーのイベント運営に関するノウハウ、経験値を向上することができた。

＞参加者どうし（パートナー、スピーカー、スタッフ、参加者）の交流が生まれ、一部の参加者に意識・行動の変化のきっかけを与えることができた。

今後の課題

会場決定：条件に合う会場が見つからず、決定に時間がかかり、スピーカー、パートナーに交渉するタイミングが遅くなってしまった。

スピーカー：打ち合わせ日程などの連絡に不備があり、十分の打ち合わせができないなどのトラブルがあった。

パートナー（スポンサー）：会場決定が遅くなつたために、提供してもらう物品の連絡が遅くなってしまった。提供物品に配慮を欠く扱いをしてしまつた。

広報：チラシ・ポスターの作成・印刷が遅くなつてしまい、十分な広報活動ができないこともあった。

ボランティアスタッフ：当日ボランティアスタッフに対して、仕事内容の伝達が不十分であり、困惑させてしまつた。

イベントの事後報告：トーク内容の動画作成、スピーカー・パートナーに提出する報告書作成が遅くなつてしまつた。

経験者からのメッセージ

イベント運営は、大変なこともたくさんありますが、達成した時の充実感も大きいです。困つたり、悩んだりした時には、T-ACTのスタッフさんに相談してみてください。私たちもそうでしたが、貴重なアドバイスをくださいます。一人で運営するわけではないので、やりたいと思ったことをぜひプロジェクトとして形にしてください！

運営者側から見たパーティシパントの変化

アンケート集計結果によると、「新しいアイディアに触れることができた。」「自分にはない視点に触れ、日々の生活に取り入れてみようと思った。」「実際に難民（難民支援についてのプレゼンがありました）に会いに行った。」などの感想が見受けられた。イベントを通して、新たなアイディアやつながりが生まれた。

T-ACTに関する感想

イベント開催までに大変お世話になりました。

ありがとうございます！

サイエンス・コミュニケーショントレーニング3 (15043P)

T-ACT プランナー 吉川 元起 (数理物質系)

活動内容

活動内容と目的

一般の人々が、科学技術をめぐる問題に主体的に関与していく社会を確立することは、現代における喫緊の課題であり、とりわけ次世代を担う学生がサイエンス・コミュニケーションの意義を理解し、実践的なスキルを身につけることは重要である。2015年前期に引き続いだ、国立研究開発法人 物質・材料研究機構 国際ナノアーキテクtonics研究拠点 (MANA) は、大学との連携の上で、学生のサイエンス・コミュニケーション能力の向上の機会を提供し、サイエンス・コミュニケーショントレーニングの一環として、関連のアウトーチ、サイエンス・コミュニケーション、広報業務全般の補佐を行う。具体的には、イベントの運営やホームページ、SNS、刊行物、ビデオ等の各種媒体を通じた情報発信等に参画する。なお、これまで参画した学生から、コミュニケーションスキルをより深化させ社会に関わって行きたい旨の希望が出ていたことから、さらなる地域への貢献および国際的な視野の育成も念頭に置きながら活動を拡大する。

活動計画

下記行事等へ参画する

10月31日 (土) 11月1日 (日) つくば科学フェスティバル2015

その他、随時、SNSによる情報発信や小・中・高等学校への出前授業等

活動期間

平成27年10月1日～28年3月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

○：岡田孝春 (数理物質科学研究科)、新山瑛理 (数理物質科学研究科)

備考

- ・学生の皆さんは、物質・材料研究機構の研修生として登録されます（既に、ジュニア研究員として登録されている方は除く）。研修生登録にあたっては、所属する学群長もしくは学類長に許可をいただいた上で、所定の書類を物質・材料研究機構に提出する必要があります。
- ・学生の皆さんは、活動にあたって「付帯賠償責任保険」に入る必要があります、その費用（年間340円）を自身で負担する必要があります。
- ・学生の皆さんの参画にあたっては、事前に物質・材料研究機構並木地区において機構担当者との面談が必要となります。

【本企画に参加を希望される方は、まずは MANA 事務部門アウトーチチーム葉山さん（電話029-860-4710）までお問い合わせください。】

活動報告

活動成果

10月1日 (木)：つくば科学出前レクチャーへの協力：研究者が市内の小中学校を訪問して講演を行う、つくば市（教育局教育指導課）による企画「つくば科学出前レクチャー」に協力し、荏原充宏 MANA 研究者を補佐しながら、並木中学校科学クラブの生徒への指導を行い、中学生達とのやりとりをとおしてサイエンス・コミュニケーションの重要性について学びました。

10月31日 (土)・11月1日 (日)：つくば科学フェスティバル2015への参画：病気の診断・治療に応用可能な材料“スマートポリマー”について展示・実演を行い、一般市民の方々とのやりとりをとおしてサイエンス・コミュニケーションの実践を行いました。特に11月1日には、つくばカピオホールにて、「ナノ戦隊スマポレンジャー」のキャラクターによる子ども向けの大規模なショーも上演し、小さな子ども達に大変な人気を博しました。

その他、物質・材料研究機構国際ナノアーキテクtonics研究拠点 (MANA) の広報誌取材・編集業務の一環として、研究者インタビューや記事執筆等も行い、活動の様子が MANA の web サイトや広報誌上で報告されました。

今後の課題

広報活動（参加者募集やイベント開催などの情報拡散）について、大学関係者他に対してより効果的にアピール

ルできるよう、ブラッシュアップが必要であると考えています。

経験者からのメッセージ

T-ACT は学生が視野を大きく広げる契機になり得ます。

運営者側から見たパーティシパントの変化

学生が自身の分担に責任をもって取り組もうとする態度が見受けられ、成長を感じられました。サイエンス・コミュニケーションに関心のある様々な学生が集うことで、相互に有益な意見交換ができ、楽しんで参画できている様子でした。今回は特につくばカピオホールでの大規模なサイエンス・ショーの上演に成功したこと、子ども達や市民の方々とのコミュニケーションに大きな手ごたえを得られた様子でした。

T-ACT に関する感想

現状で必要最低限の情報は掲載されていますが、T-ACT のホームページがもっと充実していると内外の関係者に親切かと思います。



つくばアイドル誘致プロジェクト（企画編）(15044A)

T-ACT プランナー 猪狩 浩介（生命環境科学研究科 M2）

活動内容

活動内容と目的

私は、中学3年生の時から女性アイドルグループが多く所属するハロープロジェクトのファンになりました。特に、私と同じ年の方々が所属するBerryz工房や℃-uteが好きで、よく動画サイトでPVやライブ映像を観ていました。その後、

「実際にライブを観に行ってみたい！」

と思うようになり、地元から東京のライブ会場に何回か足を運びました。実際に観るアイドルは、映像を観ていただけではわからないような「魅力の塊」でした。

「この曲あまり聞かなかったけど、ライブではこんなに盛り上がる曲なんだ！」

「あ、この子そんなに可愛くないと思ってたけど、実際はこんなに可愛いんだ。」

「あの子凄い歌唱力とダンスパフォーマンスだなあ…。」

などなど、そのライブが終わる頃には、もっとそのアイドルが魅力的になり、もっと好きになりました。

最近は、私の好きなハロプロのライブだけではなく、他のアイドルグループのライブにも足を運ぶようになりました。それぞれにコンセプトがあり、曲が素晴らしいアイドル、歌唱力やダンスが凄いアイドル、ライブが大いに盛り上がるアイドル…、もちろんルックスが群を抜いているアイドルもいます。それぞれ同じ「アイドル」という括りでも、グループ毎にそれぞれの良さがあり、個性があり、またファンを楽しませる方法も異なります。それは実際にライブやイベントなどに足を運び、実際に目で観なければその魅力がわかりません。

最近では、全国各地で様々なアイドルグループがライブやイベントを行なっています。それはつくばも例外ではありません。私もつくばや周辺にアイドルが来れば「せっかく来てくれたのだから」と思い、イベントに参加しています。しかし、つくばでのアイドルに対する知名度や関心が低いのか、イベントには空席が多く、せっかく来てくださったアイドルの方々に申し訳なくなり、少し悲しい気持ちになります。それは、実際来ていただいたアイドルも思っているはずです。

「つくばの皆さんにもっとアイドルを知っていただきたい。」

と、私は強く思いました。特に、将来全国各地で活躍する方々がいらっしゃる筑波大学の学生に、アイドルを知り、魅力を感じていただきたい、そう思うようになりました。

そこで今回、筑波大学学園祭「雙峰祭」でアイドル誘致プロジェクトを立ち上げたいと思います。今後つくばがアイドルのライブやイベントなどの活動場所の一つになっていただけるようにすること、つくばにいる方々や筑波大学生によりアイドルを実際観て、魅力を感じていただくことで、アイドルを知っていただく、よければファンになっていただくような機会になればと考えております。

ただし、私一人では誘致は難しいです。賛同していただける方、やってみたいと思っていただける方のコアメンバーとしての参加を募集します！

また、当日運営スタッフをやってみたい、と興味を持っていただける方の参加も重ねて募集しております。

是非、つくばで一緒に「アイドル」を盛り上げていきましょう！

活動計画

3月下旬～ 内容・誘致アイドルなどの候補選定

順次アイドル事務所へのオファー

5月～ 学園祭準備（会場や設営、実行委員との相談など）

実行編に続く。

活動期間

平成28年3月1日～28年6月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：大竹裕太（工学システム学類）、天野優貴（人文学類）

P：鈴木伸崇（図書館情報メディア系）

備考

予定希望人数はコアメンバーの人数です。当日運営スタッフはさらに必要になります。

活動報告

活動成果

・活動内容

3月3日 出演アイドル事務所と交渉
4月上旬 交渉成立
5月3日 出演アイドルライブを視察
5月16日 「アイドルイベントセミナー」開催
※2週間に1～2回のMTを行なった。

・目標達成度

75/100

(アイドルイベントセミナーでの成果がなかったため)

・得られた成果

・アイドル事務所との交渉に成功

今後の課題

企画編を終えて、いよいよ学園祭での実行編となるが、そこでの成功を最低限の目標とする。更に、「つくば」という地がアイドルイベント地の一つとしていただくように、引き続き活動を行っていきたい。

経験者からのメッセージ

「これをやってみたい！成し遂げたい！」という強い意思があれば、賛同者が多数いなくともやり遂げることができると思います。と言いましても、私自身も今の所何も成し遂げていないので、成し遂げられるように頑張りたいと思います。

運営者側から見たパーティシパートの変化

自分も含めてアイドルの誘致の経験がないため、最初は手探りの状態で行なっていたが、出演アイドルも決まり、イベント開催が現実味を帯びてきはじめてから、より一層「やってやる」という意思がメンバー全体で固まりつつあるのを感じた。

サイエンス・コミュニケーショントレーニング4 (16001P)

T-ACT プランナー 荘原 充宏 (大学院数理物質科学研究科)

活動内容

活動内容と目的

一般の人々が、科学技術をめぐる問題に主体的に関与していく社会を確立することは、現代における喫緊の課題であり、とりわけ次世代を担う学生がサイエンス・コミュニケーションの意義を理解し、実践的なスキルを身につけることは重要である。2014年、2015年に引き続い、国立研究開発法人 物質・材料研究機構 国際ナノアーキテクトニクス研究拠点 (MANA) は、本学との連携の上で、学生のサイエンス・コミュニケーション能力の向上の機会を提供している。よってこれを利用する形で、サイエンス・コミュニケーショントレーニングの一環として、関連のアウトリーチ、サイエンス・コミュニケーション、広報業務全般に参画する。具体的には、イベントの運営やホームページ、SNS、刊行物、ビデオ等の各種媒体を通じた情報発信等を行う。なお、これまで参画した学生から、コミュニケーションスキルを深化させることで就職活動や国際協力活動等で高い評価を得られた旨報告されていることから、学生が自身と社会とのつながりについてより広い見地から考察を深められるよう、念頭に置いて活動する。

活動計画

下記行事等へ参画する：

4月20日（水）・4月24日（日） 一般公開

その他、随時、SNS による情報発信や広報誌の取材等

活動期間

平成28年4月1日～平成28年9月30日

URL

<http://www.nims.go.jp/mana/jp/>

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：新山瑛理（数理物質科学研究科 博士1年）

P：なし

備考

- ・学生の皆さんには、物質・材料研究機構の研修生として登録されます（既に、ジュニア研究員として登録されている方は除く）。研修生登録にあたっては、所属する学群長もしくは学類長に許可をいただいた上で、所定の書類を物質・材料研究機構に提出する必要があります。
- ・学生の皆さんには、活動にあたって「付帯賠償責任保険」に入る必要があります、その費用（年間340円）を自身で負担する必要があります。
- ・学生の皆さんの参画にあたっては、事前に物質・材料研究機構並木地区において機構担当者との面談が必要となります。

【企画に参加を希望される方は、まずは MANA 事務部門アウトリーチチーム葉山さん（電話029-860-4710）までお問い合わせください。】

活動報告

活動成果

4月20日（水）、24日（日）物質・材料研究機構（NIMS）の2016年度一般公開への出展：病気の診断・治療に応用可能な材料“スマートポリマー”について展示・実演を行い、一般市民の方々とのやりとりをとおしてサイエンス・コミュニケーションの実践を行いました。特に、24日には子ども向けの実験教室も実施し、小さな子ども達に大変な人気を博しました。

8月18日（木）イノベーションキャンパス in つくば（主催：茨城県、茨城県教育委員会、つくば市、つくば市教育委員会、読売新聞社）への協力：高校生たちが研究者・企業人から授業を受けるサマースクール「イノベーションキャンパス in つくば」にて、最莊原充宏 MANA 研究者を補佐しながら“スマートポリマー”について参加の生徒達へ紹介し、高校生達とのやりとりをとおしてサイエンス・コミュニケーションの重要性について学びました。

その他、物質・材料研究機構国際ナノアーキテクトニクス研究拠点 (MANA) の広報誌に係る研究者インタ

ビューや記事執筆等にも参画し、記名記事がMANAの広報誌上で発表されました。

今後の課題

広報活動（参加者募集やイベント開催などの情報拡散）について、大学関係者他に対してより効果的にアピールできるよう、プラッシュアップが必要であると考えています。

経験者からのメッセージ

T-ACTは学生が視野を大きく広げる契機になり得ます。

運営者側から見たパーティシパントの変化

学生が自身の分担に責任をもって取り組もうとする態度が見受けられ、成長を感じられました。また一般市民の方とのやりとりをとおして社会の中での科学技術の重要性についてそれぞれに考察し、特に理系の学生は自身が勉学に取り組むことの意義についても改めて再確認できた様子でした。また、サイエンス・コミュニケーションに関心のある様々な学生が集うことで、相互に有益な意見交換ができ、楽しんで参画していました。

T-ACTに関する感想

特に無し。

● 盆踊りプロジェクト —盆LIVE— (16002A)

T-ACT プランナー 杉山 萌依子 (人文・文化学群比較文化学類3年)

活動内容

盆踊りを題材に、つくばに暮らす様々な立場の人が担い手となり、共に楽しむことができる祭り（盆LIVE）の企画と、それらを通じた留学生・地域住民との交流を目指した諸活動を行う。

地域住民の方々は勿論、県外出身者が多い筑波大生や、海外出身の方が数多く暮らし、一堂に会しているつくばだからこそ、異なる個性を持つ者が共に楽しみ、一体となる空間をつくるためのプロジェクトである。将来的には、地域社会に認められる新しい文化活動となることで、つくばをさらに魅力ある姿に活性化させることを目指す。

活動計画

- 月1回程度 全体ミーティング
- 週1回程度 各部署のリーダーによるミーティング
各部署内のミーティング
- 4月 新たなメンバーの募集
企画書の完成と、前年度関係者への連絡
つくば市や公園管理会社への連絡と会場予約
コンテンツの詳細決定
外部交渉に必要な書類の作成
各種助成金の申請
踊り練習会（踊練）実施
- 5月 予算案決定
必要備品確認
出店者・出演者交渉
踊り練習会（踊練）実施
留学生との交流会など実施
- 6月 出店者・出演者交渉
グッズ・会場デザイン作成
SNS 広報など
協賛依頼書の作成
踊り練習会（踊練）実施
留学生との交流会など実施
- 7月 保健所等申請
協賛交渉
ポスター・チラシデザイン完成・入稿
各種祭りへの参加
プレイベントの開催
当日スタッフの募集
- 8月 広報活動
当日タイムスケジュールの決定
当日のスタッフマニュアル・シフト作成・連絡
備品・機材の借用申請
警備関係（警察・消防）への連絡・申請
- 9月 各業務調整
MC等台本制作・リハーサル
17日付近、研究学園駅前公園にてメインイベント「盆LIVE」開催予定
開催後、お礼・挨拶周り、報告書作成と反省
- 以降 10月 引き継ぎ
- 12・1月 お世話になった方へ年賀状など年末年始の挨拶
- 3月 帰国する留学生とのお別れ会など

活動期間

平成28年4月1日～28年9月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

○：大迫未歩（比較文化学類3年）、岡崎純豊（比較文化学類3年）、神尾悠介（人文学類2年）、菊嶋京子（比較文化学類3年）、喜瀬沙織（比較文化学類2年）、クレイグ聰良（生物資源学類1年）、小関渚月（比較文化学類3年）、ZHOU JUNJIE（情報科学類3年）、相馬愛（比較文化学類3年）、高野大（比較文化学類3年）、野崎凌太（比較文化学類2年）、福田哲郎（比較文化学類2年）、三浦希美（比較文化学類3年）、宮川月子（比較文化学類3年）、吉川健人（生物学類2年）

▷：木村周平（人文社会系）

備考

平成27年度実施「盆踊りプロジェクト－文明開化と交流－」の継続および発展を目指したものとなります。

活動報告

活動成果

2016年9月17日（土）15:00～20:00に研究学園駅前公園にて「盆LIVE2016」を開催。今年度開催した「盆LIVE 2016」は、昨年度に引き続き「つくば」という地に住む様々な人々が交流する場を作りたい。いざれはつくばを去っていく研究者や学生たちが地域の人と会うことで、離れた後も『もう一度つくばに訪れたい』と思ってくれるお祭りを作りたい」という目的で運営した。また今年度はコンセプトとして「満月」を取り入れ、満月幕、満月ライト等の作成を行い当日会場の装飾に使用した他、月をモチーフにした楽曲を使用した。

動員人数としては目標の1000名を達成し（団扇の配布枚数やサイリウムの配布本数からおおよその人数を計算）、5時間延べで大変多くの方にご来場頂いた。

来場者の方からは、以下のようなご意見を頂いている。

「ライブ演奏での盆おどり、うきうきしました」

「昔ながらの曲、Jpop ありでよかった」

「外国の方がたくさん来ていたことが印象的」

「（吉瀬のお囃子のように）伝統芸能も来ているところが良かった」

「進行の仕方がまだ不十分、時間も押していた」

「音量が大きかった」

（開催後、お客様から届いたメッセージ・会場にて直接伺ったお話の一部）。

昨年度以上の動員数を達成し、組織運営の面でも昨年度より計画的な運営が出来た。さらに、昨年度以上に地域との連携を取りながら進めることができ（地域のお囃子保存会・研究学園のまちづくり団体・飲食店など複数と事前に連絡をとりながら進めた）、「学生の祭り」ではなく、「地域の祭り」に近づいたように感じる。

学生の意欲もあり、達成した時の一体感は大きく、今後も祭りを続けたいと思えるようなものを当日実現できたと考える。

今後の課題

参加者の数、来場者の反応は悪くないものであったと感じる一方、子供の参加者が多いのに対し、そうした子供たちに対するケアの不十分さ、外国の方への対応の不十分さが今回目立ったと考えている。また、一件ではあるが16:00頃騒音に関してメッセージをいただき、スピーカーの音量を調整するという事案が発生した。今後イベントを続けていくうえで市民の方々の迷惑とならないよう、細心の注意を払っていきたいと考えている。

また、踊りに慣れた学生の目線でなく、市民の視点に立ったプログラム及びコンテンツ作りに一層の努力を必要とする。加えて、市民の声を聞く方法の確立が必要である。一番は、今後を期待してくれている人の為にも、



打ち合わせの様子



当日楽しむ人々

後輩への引き継ぎと組織の継続に向けて取り組む必要がある。

経験者からのメッセージ

やりたいと思うのは簡単ですが、行動に移すのは相応の熱量がいると思います。まずそれに気づかないと、いつまでも進みません。自分が動かなければ周りは決して動きません。だからこそ、自分が動いた時に協力してくれる仲間は大切にしてくださいね。社会に出る前に仲間とでっかい難題やってのけて、周りを驚かそうぜ！

運営者側から見たパーティシパントの変化

つくばの中にいる普段接することのない人々同士が、研究学園という新しい地域で輪になる様子は、確かなコミュニティづくりの1つを担った祭りであったと考える。参加者が戸惑いながらも手を繋いで踊った瞬間は、確実な変化であったと思う。

T-ACTに関する感想

十分にご協力頂きました。当日は皆さんに会場までお越し頂いて、いつも支えてくれていた皆さんに晴れ舞台を見せることが出来たのを、心から光栄に思います。ありがとうございました。欲を言うなら、来年もぜひ来てください。私たち以外の企画も、積極的に活動風景を見に行ってあげると、きっと皆喜ぶと思います。



盆 LIVE 実行委員会のみなさん

ソーシャルビジネスってなんだろう？@Tsukuba (16003A)

T-ACT プランナー 西森 千咲 (人間学群心理学類4年)

活動内容

活動内容と目的

問題意識：現在アメリカやイギリス・発展途上国などでは、社会的課題の増加や多様化に伴い、元来社会的課題の解決を担ってきた行政だけではなく、事業活動そのものが社会的課題の解決につながるソーシャルビジネスが発展し広がりを見せており。しかし、日本国内においてソーシャルビジネスは徐々に着目されつつあるが、人材面や資金面において課題を抱えている。大学生の立場からソーシャルビジネスを考えると、「社会に貢献したい」という気持ちが強くても、社会的企業やNPOは収入が安定しておらず就職先の選択肢として考えにくいという現状が考えられ、それは筑波大生においても同じ現状が見られる。そこで、ソーシャルビジネスや社会的企業について、その事業性の高さや働く人々のキャリアモデルの多様性など正しい情報を伝えることで学生の意識を変革し、より広い選択肢の中から進路選択を行えるきっかけが必要であると考える。

目的：イベントを通じて、まずは筑波大生に「社会貢献ってかっこいい！」と思ってもらうこと。その上で、ソーシャルビジネスやNPOを含めたより広い進路の選択を行うきっかけをつくり、筑波大生の社会貢献の輪を広げていくこと。

活動計画

4月 TFF申請

Twitter・Facebook開設、広報開始

4-7月 月1ペースでソーシャルビジネスに関する座談会（勉強会）を開催する。10月の講演会に向けて、講演者（現在未定）に講演依頼をする（10月の講演会は別途企画として申請する）。

※座談会 学内にて月に一度、貧困・地方創生・途上国支援・子育て・保育などの分野において、採算の見込みが低いとされる社会的課題を事業化したソーシャルビジネスの先行事例や、そのような社会的取り組みを支援する制度・仕組みを紹介する。また、知識を得るだけではなく、参加者自身が学びを深められるワークを実施する。直近では4/18（月）18:30～開催予定。

※講演会 ソーシャルビジネスを現在行っている社会人を主に講演者として招き、学生に向けてソーシャルビジネスとキャリアに関わる話をしていただくイベントを10月に開催予定。学生が主体的に参加できるような仕組み（講演者と学生をチームに分けてワークを行う、パネルディスカッションを行う等）を考案中。

活動期間

平成28年4月25日～28年9月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：伊藤佑希（生命環境科学研究科修士1年）、井本直花（教育学類2年）、富永佑介（社会工学類4年）、藤原清太郎（教育研究科2年）、山中哲太（社会工学類3年）、山ノ川純（心理学類4年）

P：久保田優（就職課課長）

活動報告

活動成果

4月18日 第一回座談会 テーマ「ソーシャルビジネスの基礎知識」参加者12名

5月26日 第二回座談会 テーマ「日本と海外のソーシャルビジネス」参加者6名

6月22日 第三回座談会 テーマ「ソーシャルビジネスの収益性」参加者6名

7月12日 第四回座談会 テーマ「ソーシャルビジネスとキャリア」参加者2名

目標達成度：座談会参加者に行ったアンケートから「SB（ソーシャルビジネス）について理解が深まり、興味関心がより増えた自分でもっと深く調べたいと思った。また、将来の自分の道の一つとしてSBのことも考えていきたいと思った。」「SBに関して、事業として難しそうなイメージであったが、利益の大きさにこだわらなければ可能だと分かった。」「もっとSBについて知りたいと思いました。」「SBの概要整理できた」「(SBについて)他の人の意見を聞けたのがよかったです。」「自分の選択肢の1つとしてもっと知りたいと思えるようになった。」「非常に分かりやすくソーシャルビジネスについて学ぶことができた。私がソーシャルビジネスに興味を持ったのも、ボランティアでは持続可能性が低いと思っていたからなので、今回の収益性の話は非常にためになった。」といった意見を得ることができ、イベントに参加した学生にソーシャルビジネスを通じた社会貢献に興味を持つ

もらうこと・進路の選択肢として考えてもらうことができた。

参加動員数目標の達成率=65%

(企画申請時掲げた目的・目標：イベントを通じて、まずは筑波大生に「社会貢献ってかっこいい！」と思ってもらうこと。その上で、ソーシャルビジネスやNPOを含めたより広い進路の選択を行うきっかけをつくり、筑波大生の社会貢献の輪を広げていくこと。勉強会参加動員数目標： $10 \times 4 = 40$ 名)

得られた成果：座談会参加者に行ったアンケートからは「SBについて学んでも、なかなか現実味がわからないので、実際にSBをやっている人にお会いしたい」といった今後取り組む予定のソーシャルビジネス講演会につながる意見や、ソーシャルビジネスを含めた社会貢献を仕事にすることに興味はあるが一歩踏み出すことに悩んでいる学生の声などを聞くことができ、今後の活動に生かしていきたいと思う。

自分たちの変化：メンバー自身もソーシャルビジネスに対する興味や理解が深まった。また、少ないメンバーでハイペースでの座談会を開催していたため、今までやったことのない役目やタスクを行うことで各々の幅が広がった。

今後の課題

集客の難しさ：ソーシャルビジネスに現段階で興味がある層は限られているため、潜在的な層にアプローチしたかったのだが、彼らに訴えかけイベントまで足を運んでもらうのが難しかった。

タスクの多さ：イベントを多く開催したため、メンバーの人数に比べてタスクが膨大になってしまった。外部に与えるインパクトと団体内の居心地の良さや働きやすさのバランスをとる必要を感じた。

経験者からのメッセージ

やるかやらないか迷うならやりましょう。

運営者側から見たパーティシパートの変化

目標達成度の欄と同様

筑波大学公務員志望者の会 第3期 (16004A)

T-ACT プランナー 金子 侑樹 (理工学群社会工学類3年)

活動内容

活動内容と目的

<目的>

筑波大学生のうち公務員を目指す人で集まり、「勉強会」や「試験情報共有」を行うことでより効果のある試験勉強を行う。同じ目標を持つ人々で協力しあい、最終採用に至るまでの一助とする。

<対象>

公務員を志望する、学類1～3年の筑波大学生を主な対象とします！

国家公務員総合職・一般職試験（大卒）、地方公務員上級試験、市役所などを主に想定。その他参加したい人歓迎！

アドバイスをくださる先輩方も大募集です！

活動計画

<日時>

月に2～4回程度 午後18:30～21:00

<場所>

大学内の教室や図書館のセミナー室を想定（人数により変化）

<内容>

* 行動計画 *

5月上旬 メンバー集め・顔合わせ。公務員志望者同士で話し合い、何が必要か具体的に決定すると同時に具体的な計画を練る。

5月下旬～9月末 勉強会開催。勉強内容は柔軟に対応していくが「数的処理」等一般的なものから、「企画提案試験的プレゼンの練習」や「面接模擬」「模擬討論」「模擬試験」など個人で行うには難しい演習も要望があれば検討。

また、適宜本会参加者に需要のある企画も検討していく。
情報共有や話し合いの場としても機能させていく。

* 企画等 *

独自開催、もしくは就職課と提携しOB、OG訪問・懇談会などを開催することも想定。

現役公務員と話す機会を設けることも要望があれば検討。

T-act、就職課等の大学内の各組織とも必要に応じて提携を依頼する。

※メンバーは隨時募集していく

活動期間

平成28年5月1日～28年9月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：中田将義（社会工学類3年）

P：牧野彩香（学生部就職課）

活動報告

活動成果

- 活動内容 -

・月に2回ほど勉強会を開催

試験対策として問題演習や自由討論、また公務員志望者同士のフリートークを行う。

また、国家公務員試験 総合職 教養区分試験後は受験者の体験談を聞き知見を深める。

就職課とも連携。模擬討論会の案内などを直接連絡して頂く。

- 目標達成度 -

・公務員志望者の会という名ではあるが、国家公務員志望者にターゲットを絞った活動であった。参加人数と内容共に広い範囲を押さえることは出来なかったが、公務員を選択肢として考える人の一助、特に1・2年生の志望者にとっては今後どういう意思決定をしていけば良いのか考える良い機会になったと考えられる。試験勉強自体は個人で行ったほうが効率の良い場合もあったが、公務員志望者が会し、試験についての情報を共有を行ったり、日常的な相談を行うことについては大きな成果が挙げられた。

今後の課題

情報量は人数に比例するのにもかかわらず、予定参加人数20人に対して参加人数が14人に留まってしまった。筑波大学に眠る公務員志望者全体のカバーを行えたとは言い難く、そもそも予定参加人数を少なく見積もり過ぎた点にも問題があると考えられた。同じような活動がある場合には参加人数についてもっと考えられるようにしたい。

また、実際の公務員試験や職場の話題はOBOGなどの実際に試験や官庁訪問を受けた人にしかできなく、活動を始めるにあたってはそう言った人たちにももっと協力をしてもらえるよう声をかけるべきだった。また、勉強内容は試験区分など人によって異なる部分が多いので、勉強よりも情報共有など公務員志望者同士の繋がりに優先度を置いた活動をした方が良いのではないかという課題も生まれた。

経験者からのメッセージ

計画を立てることはとても大事なので活動前に緻密に計画しましょう。
特に5W1H。「いつ・どこで・誰が・なぜ・何をするのか、そしてどのように。」
そしてそれを忘れずに活動を続けることが大切だと思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

実際に受験者の話を聞くのは専用の講演会か知り合いにそういった人物がいないと難しいのですが、公務員志望者の会では近い距離でそういった話ができるので、志望者からは「なるほど」の声が聽けることがありました。具体的に何が変わったかを挙げることは難しいですが、参加者各々で公務員を志望するにあたり、新しい認識を持てたことは事実であると思います。

T-ACTに関する感想

広報をTwitter、Facebook、掲示などの方法から大学への全体メールなどに広げてほしい。全体メールを何度も流しては迷惑なので、例えば「月に一回現在活動中のT-actを一覧で全体メールで周知する」などをしてくれると広報力に欠ける生まれたての活動でも多少認知される気がします。

香風寮学習ボランティア vol.2 (16005A)

T-ACT プランナー 宮山 由佳 (芸術専門学群3年)

活動内容

活動内容と目的

児童養護施設の子ども達に学習支援を行い、子ども達と信頼関係の構築を目指します。

子ども 1 名に対して担当スタッフ 1 名がつきまして、その子の進度に合った指導をするのが基本ですが、無理強いはしません。おしゃべりをしながら、楽しい時間を子どもと共有することが重要です。

活動計画

活動時間 毎週火曜、水曜日活動

19:30~21:00 (18:15につくばセンター2番バス停集合)

※2つのグループに分かれ、火曜か水曜のどちらかに参加

年間を通して不定期に勉強会を行う予定

4月 メンバーを集めながら活動開始

8月 夏休みに施設で開かれる「夕涼み会」に参加し、自分の担当する子ども以外の子達とも交流を図る

8月末 活動報告書まとめ

活動期間

平成28年4月12日~28年9月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O: 山川慧 (人文学類3年)

P: 塩川宏郷 (人間系)

備考

- ・H28年度社会貢献プロジェクトに採択されています。
- ・施設まではバスで行きます (片道30分程度)。
- ・個人の目的で施設の子ども達の写真を撮ることは禁止です (個人情報保護のため)。

活動報告

活動成果

継続的な活動を行うことで子ども達との心的距離が縮まった。また、活動日時の変更や子どもの担当者決めなど今後の活動について職員さんと直接話し合う中で、普段の活動ではわからない児童養護施設の事情を知ることができた。子ども達との触れ合いを楽しむだけでなく、職員の方々との交流も必要だと感じた。

今後の課題

日時変更の際の職員さんとのやりとりがスムーズにいかず苦戦した。また、子どもの精神状態は常に変化しており、学生の予期せぬトラブルが起こることがある。そうした場合にも状況に応じて適切な行動を速やかにとれるよう、職員さんとのコミュニケーションを今まで以上に図っていく。

経験者からのメッセージ

やりたいことがあれば、気軽に企画を立ちあげてみたらいいと思います。何事も経験だなとつくづく感じます。あと、コンサルタントの方々のフォローが手厚くとても心強いです。

運営者側から見たパーティシパートの変化

リーダーがメンバーに仕事を適度に振ることで、皆で企画を回していくという意識が生まれた。

T-ACT に関する感想

最初から最後までお世話になり続け、毎度十二分の対応をしていただいた。ありがとうございました。

Namaste Tsukuba (Supporting Indians Students) volume 3 (16006A)

T-ACT プランナー Ritesh Patel (Division of Applied Physics D2)

活動内容

活動内容と目的

Most of the new Indian students over here are not connected together, so we want to connect and bond them together. Also most of the Indian's face many problems when they enter University of Tsukuba. For Example, Language, rules and regulations of the university and many work related problems.

We want to support them as much as possible to live a comfortable life.

1. Welcome and introduction of University of Tsukuba to new students.
2. Support for staying in Tsukuba city.
3. Communication among Indian students in University of Tsukuba.
4. International Communication and exchange.
5. Introduction to Japanese culture and Tsukuba city.
6. Presentation (Academic/Non-Academic)
7. Monthly gathering and exchange.

Students from all countries are heartily welcome.

活動計画

We will participate in number of events like

1. Tsukuba International Fair
2. Tsuchiura Kirara festival
3. Independence Day celebration at Indian embassy on 15th August 2016
4. Bon Odori festival
5. Tsukuba summer festival

活動期間

平成28年4月18日～28年9月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O : Bhargav Utpat

P : Professor Randeep Rakwal

活動報告

活動成果

1. Tsukuba festival 2016 : Date - 04th June 2016 & 05th June 2016

In this event, we introduced India and its culture and a few Indian fun activities. To our surprise, throughout the two days we were engaged with many enthusiastic people. In particular, Tsukuba kids liked colouring Indian animation characters. The Mehndi (temporary henna tattoo) session was the highlight of our booth and kids, mothers and other foreigners enjoyed it. We also had a photo exhibition introducing India (depicting its architecture, natural and wild life, and important tourist attractions) and spice exhibition with real spices from India on display. Many curious people of Tsukuba came to enquire about it and many profoundly shared their personal experience of their visit to India. It was also challenging and fun when we had to answer the questions of enthusiastic kids, full of imagination. Namaste Tsukuba has become an important part of the International Cultural environment of Tsukuba city.

2. Tsuchiura Gion Matsuri 2016 : Date - 23rd July 2016

Apart from the above events, we also participated in a number of events and visited many places. We went to the "Tsuchiura Gion Matsuri" on 23rd July, where we saw people dancing and singing to the rhythmic sounds of Taiko drums. The streets are lined with night stalls selling food such as yakitori (barbecued chicken skewers), taiyaki, takoyaki, okonomiyaki, traditional Japanese sweets, and many other culinary delights. Many girls dressed in yukata (summer kimono) walk around the area, carrying with them traditional purses and paper fans. The cultural aspects of a traditional Japanese town and with a rich history, was an important learning. This

is a precious opportunity to visit and observe traditional Japanese cultural in Tsuchiura city.

3. Independence Day celebration at Embassy of India, Tokyo : Date –15th August 2016

On 15th August, we went to the Indian Embassy in Tokyo for the Independence Day celebration; this day also happens to be the 'Memorial Day for the end of the War'. Hence, we also visited the Yasukuni Shrine and saw the memorial monument erected in honour of Radha Binod Pal. "Justice Pal is highly respected even today by many Japanese for the noble spirit of courage he exhibited during the International Military Tribunal for the Far East ..." We also went to the Renkōji Temple is a Buddhist temple in Tokyo, Japan. It is assumed to be the purported location of the ashes of Netaji Subhas Chandra Bose, Indian freedom-fighter, which have been preserved since September 18, 1945. The small, well-preserved temple was established in 1594 inspired by the God of Wealth and Happiness; it belongs to the Nichiren sect of Buddhism that believes that human salvation lies only in the Lotus Sutra. Historical aspects of India and India-Japan relationships were better understood by this visit to Tokyo.

今後の課題

Need more Volunteer

Communication (Japanese language support)

English Information

経験者からのメッセージ

1. Welcome and Introduction of University of Tsukuba to new student
2. Support for staying in Tsukuba
3. Presentation (Academic /Non Academic)
4. Monthly gathering and exchange

運営者側から見たパーティシパントの変化

none

T-ACT に関する感想

Japanese language support during the event

Poster designing staff

おもしろ@研究会 (16007A)

T-ACT プランナー 吉田 真聖人 (理工学群社会工学類4年)

活動内容

活動内容と目的

おもしろいことを真剣に考えてみようと少しでも思ったことがあるひとが、笑いについての理解を少しでも深める場所になればいいと思っています。そのために、鑑賞会や、ときに漫才や寸劇などの実践を通じて、最終的にはそれを発表会として披露しあうことが目的です。

活動計画

一回の活動の流れ（例）

- 18:30～ 発声練習（10分程度）
- 18:40～ 最近のお笑いについて思うことなど、それぞれが自由に話し合う。（30分程度）
- 19:00～ 本活動（dvd鑑賞、大喜利合戦、企画の提案、コント練習、野外にて発想力を鍛える etc）
- 20:00～ 反省会（次はこうしたほうがよい、こういう企画を行いたいなど、今後の指針について議論する。）
- 20:30 活動終了
- 5月 活動開始
メンバーを集め、それぞれの興味ややりたいことについて話し合う。勉強会（お笑い鑑賞）、大喜利などを行うことを予定している。
- 6～9月 班を分け、漫才やコントなど、グループとして練習することも取り入れる。全員で寸劇を台本どおりに行うなど、実践的に笑いを理解する。
- 10月 発表会
各々が作り上げた漫才、コント、一人芸を披露し合う。
好評であれば、継続的に活動を行っていくことも視野に入れている。

活動期間

平成28年5月1日～28年10月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：石橋正幸（社会工学類4年）

P：繁野麻衣子（システム情報系）

活動報告

活動成果

約半年間の活動を通して、「笑い」についての見識を深めることを目的として活動した。その中で大喜利をはじめとする様々な手法を通して、笑いへの理解を深めることはもちろん、人の価値観や人生観なども同時に学ぶことが出来た点も、副次的な効果として見られた。参加者同士が普段よりも深くコミュニケーションが取れたことなども良い成果であった。

今後の課題

当初想定していたほど参加者が集まらなかったことが課題として挙げられる。とくに参加者募集の広告ポスターなどの作成や配布に手間取っていたことや、そもそもそうした広報活動に積極的に取り組めなかつたことが反省点。また、学内ポスターのみでは思うほどに人が来ないということ、そしてそれを踏まえSNS等を活用した積極的な広報活動を行うことの必要性を痛感した。

経験者からのメッセージ

事前に、どの程度の規模で、どのような方針で活動したいかといった事項を詳細に詰めておく必要があります。大雑把な方針のみでは途中でだれてしまうリスクを感じたので、初動の段階でいかに組織としての方向性を確立できるかが重要だと思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

例えば、コミュニケーションに苦手意識を持つ参加者同士が「笑い」という共通言語を通じて相互理解し合うことで、互いの人格的な理解も深まったといえます。

T-ACT に関する感想

参加者募集は、個人ではなかなか限度が見えたので、T-ACT という看板を用いて手厚くサポートをしてほしいと感じた。

Young Americans つくばスペシャル2016に参加しよう！(16009A)

T-ACT プランナー 竹田 美玲(人間学群教育学類3年)

活動内容

活動内容と目的

現在、社会のグローバル化にともない、大学生にもグローバルな人材として成長することが求められています。グローバル化が進むことにより、人々の日常生活にも影響や変化が生まれ、文化共生にまつわる問題も浮上しています。筑波大学は留学生や国際系サークルも多く、国際交流ができる環境はそろっているはずですが、一方でそのような環境や機会を有効に活用できていない学生が一定数いることも事実です。また、地域と一体になって国際化、多文化共生の可能性を探るチャンスというのは多くはありません。社会の国際化がさまざまな形で影響を与えていることからも、問題の解決には、グローバルに考え、ローカルに行動することも重要になってきています。よって、世界22カ国で音楽ワークショップを行っているヤングアメリカンズを筑波大学に招還し(2016年7月8日～10日)、地域の子供たちと一緒に参加することによって、グローバルな視野とローカルな視野の両方に配慮することのできる「ローカル」な人材へと学生が成長する機会とすることを目標とします。さらに、ヤングアメリカンズの音楽ワークショップへの参加を通じて、自分の心を開いて表現することの喜びを体感するとともに、多様性、創造性を学ぶ機会としていきたいと思います。

活動計画

- 4月上旬 準備メンバー募集
- 4月第2週 第一回ミーティング
- 4月 イベント・説明会告知準備
- 4月下旬～5月上旬 イベント告知開始、説明会準備
- 5月中～下旬 説明会の実施
- 5月下旬～6月上旬 参加者の募集・締め切り
- 6月上旬～中旬 ヤングアメリカンズとの交流会の計画・準備、当日運営メンバーの募集、参加学生向け説明会準備
- 6月中旬 参加学生向け説明会
- 6月下旬 参加学生同士の交流会
- 7月8日～10日 ヤングアメリカンズつくばスペシャルに参加
- 7月中～下旬 アンケート実施、反省会、報告会、感謝会

活動期間

平成28年4月1日～28年7月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O：今吉萌子(芸術専門学群)、江幡秋美(比較文化学類)、佐藤望(芸術専門学群)、西森千咲(心理学類)、相田千恵美(比較文化学類)、西村海星(比較文化学類)、中薗優輝(教育研究科)、北川りさ(芸術専門学群)、細坂桃(芸術専門学群)、宮下寛太(体育専門学群)、山田祐奈(比較文化学類)、須田雄士(社会工学類)
 P：浦田顕久(東京キャンパス事務部学校支援課)

活動報告

活動成果

・活動内容

- 4月6日 ミーティング
- 4月13日 ミーティング(イベント・説明会の告知準備)
- 4月20日 ミーティング(イベント・説明会の告知準備)
- 4月下旬～5月中旬 イベント・説明会の告知
- 4月27日 ミーティング(説明会準備)
- 5月2日 ミーティング(説明会準備)
- 5月6日 第1回説明会
- 5月10日 第2回説明会
- 5月11日 ミーティング(説明会反省)
- 5月18日 ミーティング(説明会準備、参加者・当日運営メンバーの募集準備)
- 5月19日 第3回説明会

5月25日	ミーティング（参加者・当日運営メンバーの募集準備、参加学生向け説明会・発達障害勉強会・ヤングアメリカンズとの交流会準備）
6月1日	ミーティング（参加学生向け説明会・ヤングアメリカンズとの交流会準備）
6月1日～12日	参加者・当日運営メンバーの募集
6月8日	ミーティング（参加学生向け説明会・発達障害勉強会・ヤングアメリカンズとの交流会準備）
6月14日	参加学生向け説明会
6月15日	ミーティング（参加学生向け説明会反省、発達障害勉強会・ヤングアメリカンズとの交流会準備）
6月22日	ミーティング（発達障害勉強会・ヤングアメリカンズとの交流会準備）
6月29日	ミーティング（発達障害勉強会・ヤングアメリカンズとの交流会準備）
7月3日	発達障害勉強会
7月6日	ミーティング（発達障害勉強会反省、ヤングアメリカンズとの交流会準備）
7月8日	ヤングアメリカンズとの交流会
7月8日～10日	ヤングアメリカンズつくばスペシャルに参加
7月11日～19日	アンケート実施
7月20日	反省会

・目標達成度

運営チームでは、「知ってもらう」そして「楽しんでもらう」ということを目標として活動を行った。このイベントに参加してもらうためのスタートラインとして、多くの学生に「知ってもらう」ための広報をし、そこからこのイベントに関わってくれた学生には「楽しんでもらう」ための準備・企画を頑張ろうということでこの目標を立てた。

「知ってもらう」という目標に関して、たくさんの学生にこのイベントの存在を知ってもらうことはできたが、参加者がなかなか集められなかった。これは、イベントに参加したいと思えるよう、このイベントの良さを知つてもらうための広報活動ができなかったためであると思うので、達成できたとは言い難い。

しかし、「楽しんでもらう」ということに関しては、3日間のイベントだけではなく、参加学生向け説明会・ヤングアメリカンズとの交流会などの運営チームで準備を行った企画について、楽しかったという声を聞くことができたので、達成できたのではないかと思う。

・得られた成果

このT-ACTの活動を通して、たくさんの人々の繋がりをつくることができた。

ヤングアメリカンズつくばスペシャルには、筑波大生の他に小中高校生も参加している。また、運営には地域の方々、イベントを主催するNPOの方々、そして筑波大学の職員の方々・学生が携わっている。学生の運営チームでは、説明会等を通して学生同士の繋がりをつくり、地域の方々、イベントを主催するNPOの方々、筑波大学の職員の方々とは定期的に打ち合わせをすることによって繋がりをつくった。

そして、今年度は例年には行っていなかった発達障害勉強会を行うことによって、参加学生と地域の方々との繋がりもつくることができた。この勉強会は、イベントに参加する小中高校生のなかには発達障害を持っている子が少なくないため、どのように接すれば良いか等を予め知ってもらおうという意図で、運営に携わる地域の方で発達障害を持つお子さんをイベントに参加させている方をお招きし、学生向けに行ったものであるが、本来の目的だけではなく、繋がりをつくるという役割も果たすことになった。

また、この繋がりはイベント終了と共に途切れてしまうものではなく、次年度の活動に向けて繋がりを持ち続けることができている。

今後の課題

2013年度から毎年行っているT-ACTであるため、年々多くの学生にこのT-ACTのことを知つてもらえるようになっている。しかし、活動成果にも書いた通り、今年度は例年と比較して40名のパーティシパントを募集するのに時間がかかってしまった。

今年度は、過去にこのT-ACTに関わった学生の口コミを頼りに何とか40名を集めることができたが、来年度以降もこの活動を行っていく場合には、広報の方法についてよく考えて行う必要があると感じた。

経験者からのメッセージ

T-ACTの活動をするうえで最も重要なことは広報であると感じた。パーティシパントを集めるためにには、多くの学生に活動を知つてもらうだけではなく、その活動に興味を持つてもらうということが必要になってくるので、この2点を達成するためにどういった内容・方法で広報を行うかを考えなければならないなと思った。

運営者側から見たパーティシパントの変化

パーティシパント同士が初めて顔を合わせた参加学生向け説明会や、イベントの初日にはよそよそしさがあ

り、積極的に他の参加者とかかわっている様子はあまり見られなかつたが、3日間のイベントの最後には、ヤングアメリカンズや小中高校生と、そして学生同士で積極的にコミュニケーションをとる姿が見られ、パーティシパントにとって、このT-ACTの目的である「グローカル」な人材へと成長する機会、そして多様性、創造性を学ぶ機会になったのではないかと感じた。

しゃべっぺ (16010A)

T-ACT プランナー 山崎 志帆 (人間総合科学研究科 M1)

活動内容

活動内容と目的

問題意識

幅広い専門分野の学生が共存する総合大学で生活するにも関わらず、大学生活4年間を通して固定のコミュニティにとどまる学生が多く見られる。自分とは違う分野の者と見解を議論するなどして、考えを深める機会を逃しているのではないか。これらのことについては、幅広く様々な人と交流する場の少なさが背景にある問題として挙げられる。

企画内容

他学群・学群同士、また、学生のみにとどまらず、高校生・社会人に至るまで幅を広げ、交流ができる場を設け、交流ワークショップや意見交換会などを行う。自分自身の考えを深める場、アイディアの交換、そしてイベント参加者個々人の交流のきっかけを提供する。簡単な交流ワークショップ（絵を描いて自分を表現する、ヘアメイク交流会など）を含め、より自己表現をしやすくする仕掛けのある交流会を月に2回以上、毎回1時間半程度行いたいと考えている。現時点で開催できるワークショップ内容が女性向けであり、かつ、異性を交えるよりも、同性同士のほうが楽しく雑談する雰囲気作りをしやすいと考えたため、まずは女性にターゲットを絞って交流会を行うことにする。主催者自身、交流の場作りをすることが新しい試みであるため、ある程度ターゲットを絞って行うことで調整がしやすいと考えた。

現時点での構想では、

自己紹介▶ブレイクゲーム▶レクリエーション▶フリートーク

という流れで考えており、初対面同士でも上手く互いを知りながら交流できる仕組みづくりを心がけている。「自分の性格」や「考え」などをテーマにし、内面のことの焦点を当て、異分野の人同士が核心的な交流が持てるよう導く。人数によっては、グループ分けをし、4、5人程度のまとまりで「偏愛マップ」などのツールを使いながら、親しくなるようにする。また、2、3人のペアになってもらい、互いの情報を把握してもらい、最後に自己紹介を行ってもらう。軽食なども準備し、リラックスした雰囲気で深い対話ができるようにする。

広報の仕方については、主にTwitterを活用する。さらなる集客のため、工夫が必要と考えられる。また、現時点でのイベント企画内容は、インターネット上の調査を参考に考案している。

企画立案の経緯

上記に挙げた問題点より、専門領域、学生・社会人の枠を超えて交流会を設けるという新しい角度で筑波大学生に必要なサポートができるのではないかと考えた。特に筑波大学入学前後の学生に焦点を当て、大学生のスタートから、開けた視野を持つ楽しさ、価値を見出していくことをねらいとする。多くの人と考えを共有し、話すことで、自身の成長につながり、より充実した大学生活を送るための起点になりうるのではと思い、立案した。

活動計画

4月 活動開始

メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る

5月 大学内の教室など、毎回のMTG場所を定めて、イベント企画の準備・開催

MTG内容（一例）

場所：5C棟教室

時間：毎週木曜18:30～

内容：前回イベント反省、次回イベント企画考案、参加可能メンバー・参加者確認、場所の選定、

メンバー役割分担など

イベント内容（一例）

定員：15人程度

場所：大学構内教室

時間：隔週月曜18:30～20:00

内容：自己紹介

ブレイクゲーム（ランキングゲーム）

レクリエーション（偏愛マップなど）

フリートーク（自己紹介などをしながら）

イベント終了の都度、反省会を行い、次回の交流会に生かす。

9月末 活動終了

メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

活動期間

平成28年4月27日～28年10月27日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

○：御法川万葉（比較文化学類4年）、大槻澄枝（障害科学類3年）、石田舞（社会工学類1年）

△：石岡利江子（施設部施設整備課）

活動報告

活動成果

- ・新入生を中心とした交流会を行なった。
- ・思ったよりも多くの人が集まり、盛り上がったのでよかった。
- ・さらに集客力を強めるため、広告・宣伝を工夫していくべきだと感じた。
- ・時期によって、集まりやすいときとそうでないときがあることを実感した。時にあわせて、開催を考えていくことの重要性がわかった。
- ・前に立って、尊くことが不慣れであったため、はじめは上手く話すことができなかつたが、徐々に慣れてきて、場を盛り上げる声かけなどをすることができるようになった。

今後の課題

また、来年4月に向けて準備を進め、交流会を行なっていきたい。ワークショップの内容などを工夫し、さらに個人同士、壁をなくして仲良くなっていくことができるようにしていきたい。

運営者側から見たパーティシパートの変化

積極的に活動に参加するようになり、意欲が見られた。今後は、さらに運営を任せ、イベントで行われるワークショップなども司会を任せていきたい。

T-ACT に関する感想

ワークショップの場作りに関する様々なアドバイスをください、大変参考になりました。

技術交流 LT (16012A)

T-ACT プランナー 和田 朱里 (理工学群工学システム学類3年)

活動内容

活動内容と目的

問題意識としては学生と先生との交流の場が少ないことや、過去に盛んであった技術交流目的のイベントが最近ではあまり行われていないことがあります。

この企画を立てた経緯として、元々 LT (Lightning Talk の略。自分の好きな事について 5 分から10分ほどでプレゼンを行うイベント。筑波大学では学生イベントとして盛んに行っていた時期があった) をやってみたいという思いがありました。しかし、従来の LT というイベントは登壇者がただ自分の好きな事について喋って終わり、という感じで質問タイムなどなかったため「面白い」というだけで終わってしまい、プレゼン内容について深堀できませんでした。そのため、LT の良さである「さっぱりしたプレゼン」を取り入れ、LT の後に交流会を行うイベントを行おうと思いました。また、その過程で先生などを呼んだ方がより専門性が高まり、先生達との交流になるのではないかと思い学生と先生参加型のイベントにしました。

最終的な目標は、学生は新しい技術を知ること。また今抱えている技術的問題への新しい視点や解決法の獲得。先生方は自身の研究をより多くの学生に知ってもらう事です。

活動内容は学生と先生を含めた交流会です。

メディアアートなどのとっつきやすい内容のプレゼンを行ったあと、交流会を行うものです。交流会は登壇者と参加者全員含めたもので、各自適当にマッチング→お話しするようなものを想定しております。

活動計画

～5月8日頃 登壇者の紹介文を公開。また登壇順の決定。

広告の掲示

～5月23日 宣伝

5月23日 開催

活動期間

平成28年3月10日～28年5月23日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：根本晃輔（情報科学類）、洞口智香（芸術専門学群）

P：善甫啓一（システム情報系）

備考

現在、担当教員・運営者（3人）・登壇者・開催場所・日時が決まっています。

活動報告

活動成果

～5月23日

掲示板などの広告活動

5月23日

イベントの開始

達成度

アンケートより次回の開催を期待する意見を多くいただけた。

また、過去 LT の参加者数と同等の50名強の来場者。

以上より成功と見なした。

得られた成果

・新しい人脈の形成（登壇者含める来場者達との交流）

・新しい知見の獲得。

今後の課題

司会進行が曖昧。

生放送中にカメラとの接続が切れてしまった。

またプレゼン中の発表者を録画しようと使っていたカメラはバッテリー切れを起こしてしまった。

事前に確認作業やリハーサルを行う時間がなくぶつけ本番状態になってしまった。

経験者からのメッセージ

司会進行にはカンペシートを是非用意した方がいいです。
カメラや中継などの機材の調整やリハーサルは必ず一度以上を推奨します。

運営者側から見たパーティシパントの変化

新しい知見を得たなどの意見をもらえた。
パーティシパントではないが、今回参加できなかつた人からは次回をやってほしいなどの強い意見があつた。

Open University Life～高校生×大学生による化学反応!! part1～(16014A)

T-ACT プランナー 早川 大輝 (社会・国際学群国際総合学類4年)

活動内容

活動内容と目的

「未来の大学生に自分たちの後悔を伝え、少しでも実りある大学生活を送ってもらうため。」

大学生の特徴は、「時間がある」こと、「進むべき道が与えられているわけではない」ことだと思う。それゆえ、時間とお金の使いようで各々にとてつもない差ができる。

自分は、そのことに関心を払わないまま大学生活をスタートして過ごしてきた。確かに自由だし、毎日楽しくて、充実していた（と思っていた）。しかし、就活を前にいざ大学生活を振り返ってみると、ほとんど何も残っていない。

理由を考えた。

その時期に僕が「この人カッコイイな」と思えた人の共通点は、「とにかく行動している」「挑戦している」人だった。僕は、挑戦して来なかったから。ちょっと手を伸ばしたらできる範囲でいろんなことをやっていたから。うまく切り抜けていたから。だから自分に自信が無いことに気付いた。

自分の場合は、高校が進学校だったこともあり、大学入学前に「大学に行くか行かないか」や「なぜ大学に行くのか」について真剣に考えたことがなかった。そのために、環境に踊らされる大学生活を過ごしてしまった。

大学全入時代のいま、自分のような大学生も少なからずいると聞いた。

そういうた自分たちの経験や後悔、そして後悔を経て変わったことを未来の大学生に伝え、一人でも多くの人が同じ失敗を繰り返さないようなきっかけ作りをしたいと思いこの企画を考えた。

最終的な目標はのべ100名の高校生に参加してもらい、この企画が高校生にとって迫る大学生活や将来を考えるきっかけとなることである。

活動計画

5月中旬～5月末

- ・会場予約
- ・大学生対象アンケート作り
- ・ビラ作り
- ・パーティシバント集め

6月上旬

- ・ビラ作り、ビラ配り（高校に）
- ・アンケート収集（「大学生の声」のため）
- ・詳細インタビュー実施（「大学生の声」のため）

6月中旬

- ・アンケート収集（「大学生の声」のため）
- ・詳細インタビュー実施（「大学生の声」のため）
- ・ビラ配り（駅などで、個人に）

7月27日（水）☆当日

【場所】つくば市吾妻交流センター

【内容】

- ・参加者による後悔プレゼン（5分くらいずつ）
- ・「大学生の声」閲覧
 - 事前に、大学生対象にアンケートをとって、それを冊子にして用意しておく
- ・参加者とお話し
 - ブースを設けて、高校生の悩みを聞く

※当日は大学生参加者は会場に残り、高校生は出入り自由。（部活などの時間と被ってしまう可能性があるのでフレキシブルに対応する）

※プレゼンは機を見て2.3回行う。

7月27日以降

- ・反省会
- ・次の企画への打合せ

活動期間

平成28年5月13日～28年7月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

○：松井福太朗（知識情報・図書館学類）、青山俊之（国際総合学類）

△：福富明子（社会連携課）

活動報告

活動成果

・活動内容

- 5月13日：会場予約
- 5月17日：竹園高校ご挨拶
- 6月14日：交流センター打ち合わせ
- 6月27日：メンバーミーティング
- 6月末：チラシ完成
- 7月上旬：大学生向けアンケート配信
- 7月7日：弁護士相談
- 7月2、3週目：チラシ配布
- 7月中旬：「大学生の声」作成、当日アンケート作成、パーティシバント参加、プレゼン制作
- 7月26日：全体ミーティング
- 7月27日：企画当日

・目標達成度

50%

- 自分たちの活動を知ってもらい、何名かの大人とつながりを作ることができたため。
- 参加してくれた高校生の受験や大学に対する考え方などに変化が見られたため。
- ×広報がほとんど機能せず、当日半ば強引に高校生に参加してもらうことになってしまったため。

・得られた成果

参加者の声から考察するに、「大学生と近い距離で直接話すこと」自体にこちらの想像以上の意味があることが分かった。

- つくば近辺の大人何名かとつながりを作ることができた。
- 高校生何名かと企画とのつながりを作ることができた。
- 大学生にも、このような活動に興味がある人が一定数いることがアンケートを通して分かった。
- 実際にやることで広報活動の改善点が多く見られた。

今後の課題

○チラシの中身に関して

チラシに載せる情報が不十分であったため、チラシによる宣伝効果が薄かった。次回は「集まってほしいターゲットの明文化」「当日スケジュール詳細」「参加によるメリットの明確な提示」に注意を払ってチラシを作りたい。また、チラシの情報配置ももっと考える必要があった。一番見てほしい部分は一番上に必ず持ってくるようしたい。作成後は企画に関係のない人に一旦見てもらう必要があるとも感じた。

○広報活動に関して

相手が高校生ということで広報活動に一番苦戦した。ただ、今回やってみて、「筑波大学」という名前は地元では思っていた以上の信頼があるということが分かったので、次回以降は「個人的に手渡しすることに億劫にならずに声をかける」「高校にも早めに交渉をしに行く」ことを意識して活動したい。チラシにtwitter情報を載せたが、事前にフォローされることは無かったので、チラシを渡す際に強調し、今回のイベントが難しい場合でも、twitterのみはフォローしてもらうようにする。また、twitterをやっていない高校生が意外と多かったので、HPを作成してそちらでも情報発信できるように整えたい。今回やるまで高校生がどんなところに集まるか分からなかったが、だいたい把握できたので、今後はそこに重きを置いてアプローチしたい。チラシを置いてもらうこと自体は難しくないが、効果が薄いことが分かったので、ただ置いてもらうチラシには期待をかけすぎない。

○その他

「対象」「目的」「心構え」の共有を怠り、事前に内容の大幅な変更があったり、ぶれてしまって話が進まないことがあったりしたので、その3点を明確に定め、活動人数を増やしていく必要がある。また、今回は日時と場所取りに時間がかかってしまったので、そこは素早くやり、内容を詰めることに時間を費やしたい。

経験者からのメッセージ

一歩踏み出すことはとても怖くて勇気のいることだと思います。自分は今回がはじめてで、T-ACTの部屋に最初に入るとときは何度も廊下をうろうろしていました。理由は「内容が甘い」と詰められると思ったし、失敗が怖かったから。しかし、T-ACTに関しては全くそんなことありません。「どうすればやりたいことを実現できるか」をコンサルタントの黒田さんをはじめとして推進室の皆さんと親身に相談に乗ってくださりますし、提案してくださります。また、なんといっても推進室自体がかなりアットホームでイイ感じです。

そして、いざ一歩だけ踏み出してみれば、今まで考えもしなかったような新たな世界が見え、つながりが必ず生まれます。人間一人の力では到底できなかったようなことをやる力を授かります。あと、若者の挑戦はなぜか

無批判に応援していただけことが多いです（笑）だから、「やりたい」のその小さな芽を大切に、とりあえずT-ACT推進室に飛び込んでみてください！

最後に、失敗が怖い人へ。

「どこの誰かも分からん大学生が失敗したところで何？」

「挑戦のその先には『成功』か『おいしいネタ』しかない。」

やってみよう！って自分が思えたヒトコトを載せておきます。

運営者側から見たパーティシパントの変化

パーティシパントには企画直前に参加していただいたので、この企画を通しての変化に関する特記事項はありません。

T-ACTに関する感想

最初は「筑波大学のロゴあった方がなんとなく良さそう」という理由だけでT-ACTに来ましたが、ふたを開けてみれば、本当に様々な面で助けて頂き、T-ACTに申請して改めて良かったと感じています。有難うございました。

強いて一点あげるならば、パートナーを探しやすくしてほしいなと感じました（そのくらい自分でやれという話ですが）。また、筑波大学外部の方でも自分で探して来ればいいのではないかなど今回は強く感じました。

あなたの小説が読みたい！——第九回筑波学生文芸賞の作品及び一般選考委員の募集—— (16015A)

T-ACT プランナー 千葉 高志 (人文・文化学群人文学類3年)

活動内容

小説を書くこと・読むことに興味を持つ学生の活動及び交流の活発化を手助けしたい。またつくばに関わる、筑波大学外の学生との交流のきっかけにしたい。最終的にはつくばに関わる学生全体の創作活動の活性化を目指す。

活動計画

- 5月1日 作品募集開始
- 6月 一般選考委員（パーティシパント）向け説明会＆選考体験会
- 7月 一般選考委員（パーティシパント）向け説明会
- 7月15日 作品募集締め切り
- 8月 一次選考：集まった作品を筑波学生文芸賞運営委員（オーガナイザー）のみで選考する。
- 9月 最終選考：一次選考通過作品を一般選考委員（パーティシパント）と共に選考し、受賞作を決定する。一般選考委員参加者との交流及びアンケートを行う。
- 10月 受賞作を発表・受賞作掲載冊子を編集する（オーガナイザーのみ）
- 11月7日
- ～11月8日 雙峰祭にて冊子配布。筑波学生文芸賞運営委員（オーガナイザー）のみで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる。

活動期間

平成28年5月1日～28年9月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：小川耕平（人文学類3年）、柏原歩那（化学類3年）、藤原清太郎（教育研究科修士2年）

P：津崎良典（人文社会系）

備考

ここでは、私たちと一緒に受賞作を選んでもらう選考委員（パーティシパント）を募集しています。小説を読むのが好きという方なら、だれでも歓迎です！

活動報告

活動成果

- 5月1日～7月15日：作品募集
- 6月：選考体験会を実施。
- 7月：一般選考委員（パーティシパント）向け説明会を実施。
- 8月13日：一次選考を実施。
- 9月27日：最終選考を実施。

目標達成度：60%

今年は広報に力を入れ（高校にもチラシを配布した）、募集を8月9日まで延長したが、応募数は例年より微減した。

選考体験会、一般選考委員の参加数はどちらも一人にとどまった。

今年度は一般の方も選考参加を認めるなど、大学の外部への志向を高めた。大学の外で人と交渉する能力はついたと思われる。

今後の課題

応募数、パーティシパントとしての企画参加者の伸び悩みが課題として挙がった。

それに伴ってか、オーガナイザーのモチベーションが上がらないと思われる場面もあった。

経験者からのメッセージ

地味な活動の場合あまり外面よく見せるのも考え方のだが、できるだけ楽しさをアピールしなければ人は集まらないと思われる。

また、気軽に応募するには抵抗があるという意見もあったので、気軽に参加できるような雰囲気作りも重要だろう。例えばポスターや HP の印象などだろうか。

運営者側から見たパーティシパントの変化

とても有意義な時間を過ごすことができ、このような企画があったらまた参加したいとの意見を頂いた。選考を通じて、打ち解けることや建設的に話し合いをする能力を皆で身につけていったように思う。

T-ACT に関する感想

プリント用の PC に入っているアドビイラストレーターのバージョンが古いためか、学校の PC で作った .ai ファイルが上手く印刷できないことがあった。

改善方法をご指導いただけたら幸いです。

世界一大きな授業2016@TSUKUBA (16017A)

T-ACT プランナー 高橋 和生 (人間学群障害科学類1年)

活動内容

教育協力 NGO ネットワーク (JNNE) が主催する「世界一大きな授業2016」の教材を利用して、体験・参加型のワークショップを開きます。世界の教育の現状を知り、よりよい世界のためにわたしたちに何ができるかを考えていきたいと思います。

昨年、マララ・ユスザイさんがノーベル平和賞を受賞しました。そのときのスピーチでこう述べています。「1人の子ども、1人の教師、1冊の本、そして1本のペンが、世界を変えられます。教育こそがただ1つの解決策です。」世界情勢は大変複雑になってきている今、わたしも教育が解決策になると考えています。しかし、現在世界には小学校に通えない子どもは5,800万人、読み書きのできない大人は7億8,100万人もいます。この状況をどうしたら変えられるのか考えたとき、わたしにできることは“教育を受けることができない子どもたちがいる”ことを少しでも多くの人に知ってもらうことだと思いました。知ることで身近に感じたり、関心をもつたり、考えたりするようになります。教育を受けられない子どもたちのことを想う人が増えたら、今の状況は少しずつ変わるでしょう。

2年前の世界一大きな授業2014にも参加し、中学3年生約30人に向けて授業を行いました。多くの生徒が積極的に楽しく授業に参加してくれました。授業後に取ったアンケートからは、世界のことに関心を持ち始めた生徒が増えたように感じました。この授業は世界のために自分にできることを考えるきっかけになったのではないかと思います。前回は授業時間50分の中でできることにしぼって行いましたが、今回は時間をかけてみんなで考える授業をしたいと考えています。

この機会を通してたくさんの人とつながりたい、一緒にこれから世界について考えていきたいと思っています。参加してくださるみなさんと世界の教育の現状を知り、教育の大切さを感じながら、わたしたちにできることを考えていきます。

活動計画

- 6月 活動開始
第一回話合い：計画を練る
- 7月 第二回話合い：実際に授業を行い、改善点を見つける
- 8月 第三回話合い：必要なものを準備
- 8月21日（仮）授業を行う
- 9月 第四回話合い：活動報告書を作成
活動終了

＜授業展開計画＞

午前に小学生、午後に中高生を対象に授業を行います。それぞれ30人募集し、5人グループを6つ作ります。

- ・自己紹介
- ・授業の紹介
- ・アイスブレイク
- 授業の目的、流れを明確にする。
- ・クイズ
クイズ形式で、世界の教育の概要を知る。
- 教室の四隅を使って、答えたと思うところに動いてもらう。
- ・識字体験
デバナガリ文字で「毒」「熱冷まし」「栄養」と書かれている塩水、砂糖水、水のペットボトルを用意する。
その中から1つ選んで飲んでもらう。
- 文字が読めないとどんなことに困るのか体験してもらう。
- グループについている学生に声をかけてもらい、選んでから飲むまでと飲んだときの気持ちを忘れないようにする。
- ・教育と資金について
現在の教育支援額（6200億円）を6.2cm、世界の子どもが高校まで行くのに必要な援助額（4兆円）を40cm、世界のゲームソフト市場（6.7兆円）を67cm、世界の軍事費（217兆円）を22mのリボンとして用意する。
それぞれ袋に入れたリボンを伸ばしてもらう。
- 教育のため資金が十分でないことを知る。また、世界で協力する必要があることを知る。
- はじめにどれくらいの長さか予想してもらってから、少しずつリボンを出してもらうことで、自分の予想

- と現実とのギャップを感じてもらう。
- ・行動する子どもたちのストーリーを読む
マララ・ユスフザイやフリーザチルドレンなどの話をグループごとに読む。
現状を変えるために、子どもたち自身が活動していることを知る。
丸読みで読んでもらうことで、聞いていることに飽きないようにする。
 - ・教育援助について
ひとりひとりに役を決めて、援助国と被援助国間の話し合いを体験する。
援助したいものと援助してもらいたいものとの違いやギャップを知る。
日本政府の教育援助の内容や傾向を知る。
NGOが提言している「日本政府の教育援助に望むこと」を知る。
グループごとに現状を変えるために今必要なことを考える。
中高生のみ行う。
スムーズに進むように学生のアシスタントを2人に1人つくようにする。
 - ・首相に手紙を書く
現状を変えるために今必要なことは何かをグループで話し合う。
話し合いをもとに日本政府に手紙を書いてみることで、「政策提言」を体験する。
自分の意見を表現することで、「子ども参加」の実施の一歩とする。
ひとりひとりの意見が消えないように、話し合いを注意してみる。
 - ・まとめ
・アンケート
授業を通してどんなことを考えたか、グループごとに話し合ってもらう。
授業当日の危機管理については別途に資料を用意する。

活動期間

平成28年6月19日～28年9月11日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

○：朴讃主（障害科学類1年）、小川真穂（障害科学類1年）、池田桃代（障害科学類1年）、倉石悠平（教育学類1年）、細田柊登（教育学類1年）、南雲俊樹（教育学類1年）、宋恵恩（国際総合学類1年）

P：塩川宏郷（人間系）

活動報告

活動成果

教育協力NGOネットワークが主催する「世界一大きな授業2016」の教材をもとに、つくば市の小学校4年生から大学生までを対象に世界の教育について考える授業を行った。参加した生徒は楽しそうに授業に参加しながら、現状を変えるための様々なプランを考えてくれた。また、新たなことをしることができた、参加してよかったですなどの声を聞くことができた。“世界の教育の現状を知ってもらい、わたしたちにできることを考えるきっかけになってほしい”という今回の目標は達成されたように思う。

今後の課題

今回の活動では大きく2つの反省点があげられる。1つは広報について。教育委員会からの後援を申請する時期が遅れたために、広報活動全体に遅れが生じて十分な活動ができなかった。そのため、参加者があまり集ま



らなかった。次に、授業内容について。午前に中高生、午後に高校生と大学生に同じ内容の授業を行った。午後の高校生と大学生には授業内容が簡単だったため、少し飽きてしまっているように見えた。対象をしほるか授業内容を変更するなどの改善をする必要がある。

経験者からのメッセージ

プランナー1人が全体の流れを仕切っていると仕事量が大きくなってしまうため、なるべくオーガナイザーなどと仕事を割り振って、プランナーは指令塔のような存在である方がスムーズに進むと思う。

運営者側から見たパーティシパントの変化

模擬授業や当日の授業を通して、以前よりも自分の教育に対する考えをまわりに発信するようになった感じる。またさらに、国際協力にも興味をもち活動しようとする人が増えたように思う。

T-ACTに関する感想

できれば6限の終わりまでT-ACTを開けておいてほしい。



ゆめ花火プロジェクト2016 (16018A)

T-ACT プランナー 小林 智美 (医学群医学類5年)

活動内容

活動内容と目的

『ゆめ花火』とは、筑波大学附属病院小児病棟で闘病している子どもたちが「夢の花火」をテーマに描いた絵を実際に「ゆめ花火」として打ちあげる企画です。

小児病棟の子どもたちは、日々辛い検査や処置などに耐えながら、必死に病気と闘っています。ご家族にとつても最愛のお子さんの入院は想像以上にショックであり、その負担は大変なものです。闘病中の子どもたちやご家族、みなさんの心にも、花火と一緒に笑顔が咲いてほしい。そんな気持ちから、「ゆめ花火」企画は始まりました。2011年より毎年開催され、2016年度には6回目の打ちあげとなる予定です。

「ゆめ花火」企画を行う目的は大きく以下の3つです。

1. 小児がんなどの理由により長期の闘病生活を余儀なくされている子ども達に、自ら思い描いた花火が打ちあがる様子を見てもらうことで一時でも闘病の苦しさを忘れ、花火を楽しんでもらう。
2. 広報活動・花火打ちあげを通じて筑波大学生・地域の方々に小児医療・療養環境について関心を持ってもらい、患児へのサポートのあり方について改めて考える機会を提供する。
3. 医療関係者を含む様々な協力団体と患児やその家族同士のつながりを作り、患児の成長を温かく見守っていく場へと発展していく。

企画概要としては、筑波大学附属病院小児病棟に入院している子ども達が自由に描いた花火の絵を、筑波大学学園祭にて実際の「ゆめ花火」として打ちあげます。花火の製造・打ちあげは山崎煙火製造所に協力していただき、打ち上げ玉は4号玉（直径12cm）を使用する予定。打ちあげ当日は観覧会場に花火を描いた子どもたち、また入院中の子どもたちとご家族を招待し、レクリエーションなどを行いつつ、楽しみながら花火を鑑賞していただける企画を目指します。

「ゆめ花火」は筑波大学の医療系学生を中心とした学生有志団体「つくばけやきっず」によって運営されています。「つくばけやきっず」は、筑波大学附属病院小児科で入院・通院している子ども達のために、心の糧となるようなイベントを企画・実行することを活動の目的としています。

活動内容は、「ゆめ花火」企画の他に、

- *小児病棟で行われる季節ごとのイベント（夏祭りやクリスマス会）へ参加・補助
- *筑波大学附属病院小児科外来へ通院中の患児やそのきょうだいを対象として、身体を動かして遊ぶ「うごいてあそぼ」企画

を行っています。つくばけやきっずの活動は、以下のブログ、facebookからご覧ください。是非応援して下さいますと幸いです。

<http://yumehehabi.tsukuba.ch/>

<https://www.facebook.com/%E3%81%A4%E3%81%8F%E3%81%B0%E3%81%91%E3%82%84%E3%81%8D%E3%81%A3%E3%81%9A-506057512784968/>

活動計画

●企画の流れ

2016.6月 関係各所と連絡を取る

毎年ご協力いただいている筑波大学学園祭実行委員会・筑波大学花火研究会の方と3者ミーティングを開催することをはじめとして、「ゆめ花火」企画にご協力いただく方々と連絡を密に取ります。

7月 子どもたちに自由に絵を描いてもらう

小児病棟の子どもたちに、「夢の花火」をイメージしながら自由に絵を描いてもらいます。2015年度はPowerPointを用いてストーリー仕立てでゆめ花火の趣旨を説明した後に絵を描いてもらいました。

9月 花火製造所に依頼し、花火を作成する

子どもたちの絵を参考に、(株)山崎煙火製造所に委託し花火を作成していただきます。大変難しい図柄もありますが、花火師さんのご尽力で毎年素敵な花火を作ってくださっています。

10月 観賞会参加者募集開始 & 当日準備開始

打ち上げ当日の観賞会にいらっしゃるお子さんとご家族へ案内を送付します。また、当日へ向けての最終的な準備を行っていきます。

- 11月 鑑賞会を開き、ゆめ花火を鑑賞する
打ち上げの際は、鑑賞会を開き、絵を描いた子どもたち、入院中の子どもたちとそのご家族を招いて鑑賞会を開きます。鑑賞会ではバルーンアートや工作などのレクリエーションも行います。鑑賞会開催後は、当日体調が優れず来られなかった子どもたちのために小児病棟で花火の動画の鑑賞会を行います。
- 12月 各種報告
お世話になった関係各所、来てくださったお子さまとそのご家族にお礼をします。また、関係各所にゆめ花火の開催報告をします。

活動期間

平成28年6月1日～28年11月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

○：佐藤良滉（医学類6年）、門野彩花（医学類6年）、久保こすみ（医学類5年）、西畠綾夏（医学類5年）、加藤久貴（医学類3年）、松澤由佳理（医学類2年）、鎌田利香（医学類2年）、関純令（医学類2年）、松下朋生（医学類2年）、望月宏一（医学類1年）、市丸夕乃（医学類1年）、近江英理子（医学類1年）、與那霸亜美（看護学類4年）、石倉明日香（看護学類3年）、木下智帆（看護学類3年）、松崎汐那（看護学類2年）、永田愛美（看護学類2年）、朽津里穂子（看護学類1年）、田中美帆（看護学類1年）、岩橋優花（医療科学類4年）、鈴木晴媛（医療科学類1年）、加藤千尋（医療科学類1年）、塚田亜優美（人間総合科学研究科修士2年）、藤井聰子（医学類6年）、飯塚玄明（医学類6年）

△：福島敬（医学医療系）

備考

2013年度、2014年度、2015年度の「ゆめ花火」はつくばアクションプロジェクト（T-ACT）承認プロジェクトとして企画し、T-ACT平成25年度下半期最優秀賞を受賞しました。また平成25年度社会貢献プロジェクトにて最優秀賞を受賞、2015年度茗渓会賞を受賞しました。また「ゆめ花火」企画は筑波大学附属病院、（株）山崎煙火製造所、筑波大学学園祭実行委員会、筑波大学花火研究会、アスパラガス、スターバックス筑波大学附属病院店の御協力をいたたいています。

活動報告

活動成果

『ゆめ花火』とは、入院中の子どもたちが「夢の花火」というテーマで描いた絵を筑波大学の学園祭で本物の花火にして打ちあげ、それを子どもたちに鑑賞してもらう企画です。

小児病棟の子どもたちは、日々辛い検査や処置などに耐えながら、必死に病気と闘っています。ご家族にとつても最愛のお子さんの入院は想像以上にショックであり、その負担は大変なものです。

「花火を通じて幸せを届けたい」「子どもたちにも夢と希望を持ってほしい」。そんな気持ちから筑波大学花火研究会、賢謙楽学が共同で「ゆめ花火」を立ち上げました。2011年より毎年開催され、2013年度から医療系学生有志つくばけやきっずが賢謙楽学より業務を引き継ぎ、筑波大学花火研究会と共同で企画を行っています。本年度で6回目の打ちあげとなりました。

「ゆめ花火」を実施するにあたり、つくばけやきっずでは「ゆめ花火プロジェクト」を企画しました。

企画概要としては、筑波大学附属病院小児病棟に入院している子ども達に、夢の花火をテーマに花火の絵を自由に描いてもらいます。その花火の絵を本物の花火にするべく、筑波大学花火研究会を通して（株）山崎煙火製造所に製造を依頼し、筑波大学学園祭実行委員会が主催する筑波大学学園祭（雙峰祭）後夜祭花火第一部にて打ちあげていただきました。打ちあげ当日は観覧会場に花火を描いた子どもたち、また入院中の子どもたちとご家族を招待し、レクリエーションなどを行いつつ、楽しみながら花火を鑑賞していただける企画を目指しました。

活動内容

- 1月～3月 活動資金集め ゆめ花火プロジェクト費用含むつくばけやきっずの活動資金を、企業や大学に助成金申請をすることで集めました。
- 4月 病院に企画書提出
- 5月 T-ACT活動申請、教室の下見など
- 6月 関係各所と連絡を取る
毎年ご協力いただいている筑波大学学園祭実行委員会・筑波大学花火研究会の方と3者ミーティング

- グを開催することをはじめとして、「ゆめ花火」にご協力いただく方々と連絡を密に取りました。
- 7月 子どもたちに自由に絵を描いてもらう
小児病棟の子どもたちに、「夢の花火」をイメージしながら自由に絵を描いてもらいました。今年は紙芝居を用いてゆめ花火の趣旨を説明し、絵を描いてもらいました。
- 9月 花火会社に依頼する
子どもたちの絵を参考に、(株)山崎煙火製造所に花火製造を依頼しました。花火での表現が難しい絵柄も、花火師さんのご尽力で毎年素敵な花火にしていただきます。
- 10月 観賞会参加者募集開始 & 当日準備開始
打ちあげ当日の観賞会にいらっしゃるお子さんとご家族へ案内を送付し、当日へ向けての最終的な準備を行っていきます。
- 11月 鑑賞会を開き、ゆめ花火を鑑賞する
鑑賞会では工作などのレクリエーションも行いました。
- 12月 各種報告
お世話になった関係各所、来てくださったお子さまとそのご家族にお札をします。また、関係各所にゆめ花火の開催報告をします。

*関連団体一覧

「ゆめ花火」

共同企画：つくばけやきっず、筑波大学花火研究会

「ゆめ花火プロジェクト」

企画：つくばけやきっず

協力：筑波大学附属病院、アスパラガス、スターバックス筑波大学附属病院店

「筑波大学学園祭後夜祭花火第一部」

主催：筑波大学学園祭実行委員会

協賛・協力：つくばけやきっず

協力：筑波大学花火研究会

目標達成度

「ゆめ花火」を行う目的は大きく以下の3つでした。

1. 小児がんなどの理由により長期の闘病生活を余儀なくされている子ども達に、自ら思い描いた花火が打ちあがる様子を見てももらうことで一時でも闘病の苦しさを忘れ、花火を楽しんでもらう。
2. 広報活動・花火打ちあげを通じて筑波大学生・地域の方々に小児医療・療養環境について関心を持ってもらい、患児へのサポートのあり方について改めて考える機会を提供する。
3. 医療関係者を含む様々な協力団体と患児やその家族同士のつながりを作り、患児の成長を温かく見守っていく場へと発展していく。

1について：参加してくださったご家族の方から、「辛い事が多い闘病生活でしたので、辛く悲しい記憶が殆どでしたが、美しく打ちあがる花火の数々に心が洗われる思いがしました。一生涯忘れられない大切な思い出になりました（原文ママ）」とお手紙をいただきました。また、お子さまは打ちあげられる花火を、窓際にぴったりと張り付いてじっと見上げたり、わあっと歓声を上げたりと、表情豊かに鑑賞していました。ほんの少しでも楽しい時間を過ごせたと思ってくださっていれば幸いです。

2について：今年は筑波大学広報室の広報誌「TsukuComm」さんと、常陽リビング社さんから取材を受け、素敵な記事を書いていただきました。常陽リビングさんの記事を読んだ方からお手紙とご寄付をいただきましたなど、広報の重要性、影響力を感じました。また、Facebookでは随時活動のご報告を行いました。病院内にリーフレットを置いて活動の紹介をさせていただきましたが、これを読んだ「小児患者家族のおしゃべり会」の方と交流が始まり、ゆめ花火にご招待したり、おしゃべり会の季節のイベントに参加したりと新たな繋がりもできました。

3について：今年も、筑波大学附属病院の医師・看護師・保育士・スタッフの方をはじめ、スターバックス筑波大学附属病院店、アスパラガス、筑波大学花火研究会、筑波大学学園祭実行委員会の皆様と協力をして企画を成功させる事ができました。また、新聞記事やリーフレット、ポスターを読んだ地域の方から温かいご支援を受けることができました。少しずつ、私たちの活動が広まってきたように感じます。

得られた結果

今年もゆめ花火鑑賞会を無事執り行うため、関係各所と協力しながら準備を進めました。

今年は17種類の原画を元に、56発の花火の打ちあげとなりました。参加されたご家族は17家族58名、うちお

子さまが26名で、過去最高人数となりました。幸いお天気にも恵まれ、鑑賞会は盛況のうちに終了となりました。

今後の課題

- ・関係団体が多いため、連絡をこまめに取ることや認識の違いを埋めていく作業は時間も労力もかかりました。
- ・今年は例年に比べ参加者が多く（前年比約1.5倍）、鑑賞教室や移動用大型バスの定員ギリギリでの開催となりました。お子さまは全員窓際で観ることができましたが、教室の後ろの方のご家族の方の中には一部花火をよく見えなかつたとおっしゃる方もいました。人数は、お子さまの体調なども加味するため当日にならないとわからないですが、来年以降定員の設定など検討していく必要があると思います。

経験者からのメッセージ

大きな企画は、自分たちの団体だけでは実現することはできません。関係する団体や、相談に乗ってくださる大人の方に支えられています。それを常に忘れずに、どんな連絡もまめに取ることを心がけると良いと思います。

また、いろいろな団体が関わると、どうしても主義主張の食い違いが出てきます。それをうやむやにせず、徹底的に話し合うことも大切だと思います。

沢山大変なことがあります、企画が成功した時の参加者の皆さんのはがきを想像しながら活動をすることが、心が折れない秘訣だと感じます。どんなに大変でも、成功した暁にはいい思い出になります。めげずに頑張ってみてください！

運営者側から見たパーティシバントの変化

企画側のメンバーの変化について；各種連絡先に連絡を取ることは代表一人ではできないので、メンバーに担当を割り振りました。その結果、消極的だったメンバーが、相手サークルの方に直接会いに行ったり、こまめに電話連絡をしたりとどんどん関わりを持つようになりました。また、企画が進行していくにつれて、改善案や新たな案を出すようになったりと、想像力も豊かになっていったかと思います。

T-ACTに関する感想

大学に関わることの相談を全部聞いてくださって、アドバイスもいただけたことで企画の道筋をつけることができました。

ただ、医学群の学生特有の悩みとして、授業日程が他学類と異なったり、時間内に実習が終わらないためにスクーデントプラザに行けるタイミングが限られてしまうということがあります。

「つくプロ！」メンバー募集!! 市役所と一緒につくば市のPRします！(16019A)

T-ACT プランナー 渡辺 瑞花 (人間総合科学研究科 M2)

活動内容

活動内容と目的

昨年度から実施している、つくば市と筑波大学生の協働プロジェクト「つくプロ！」参加したい方を募集します。「つくプロ！」とは、つくば市の魅力やプロモーションについて、つくばの大学生と市がともに考え企画し発信していくプロジェクトです。昨年度から有志の学生とつくば市シティプロモーション室の方々による活動がスタートし、今年度も活動を実施したいと考えています。

新たな企画の立案を行いたい学生や、PRに興味のある学生にとって、つくば市の方々のサポートを受けつつ自身の考えを形にできる「つくプロ」は活動しやすい場であると思うので、ぜひ多くの学生に知っていたい、参加していただけたらと思います。

今回の企画で、新たなPR企画の立案を行いたい学生や、PRに興味のある学生に参加を呼びかけ、最終的に市役所への企画提案を行います。9月以降は、具体的な企画を実働・運営するためのプロジェクトを別途行います。

活動計画

- 6月中旬～7月上旬 告知 筑波大学対象の協働PRプロジェクト「つくプロ！」への参加募集告知を行います。ポスター掲示による告知を予定しており、学内でプロモーションや街づくりに興味関心のある学生に、説明会への参加を呼びかけます。
- 7月 説明会、企画ワークショップの実施
説明会兼企画ワークショップを開催します。昨年度のつくプロで行われた活動・企画について紹介した後、つくば市のPRに関するブレスト形式の企画ワークショップの実施を行います。7月中旬に2～3回の実施を予定しています。
- 7月～8月 企画のブラッシュアップ
実施に向けた企画のブラッシュアップを行います。実際に市役所の方に来ていただきアドバイスを得たり、昨年度企画運営をした学生からのフィードバックを得る機会を設けます。
- 9月 市役所への企画提案
企画の構想が固まった段階で、市役所の方々へのプレゼンテーションを行います。採用された企画は、市役所と協力しながら実施につなげることができます。

活動期間

平成28年5月19日～28年9月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：平塚万里奈（国際総合学類3年）

P：原忠信（芸術系）

活動報告

活動成果

参加したい学生が数人、知り合いを通じて連絡してきた。企画を行いたい気持ちは持っていたが、実際にプレゼンテーションを完成させて市役所への提案まで持っていくことができる学生はいなかった。

今後の課題

実際に市と協力してできることなどを想像できる手段を用意するのが難しかった。資料やプレゼンテーションの用意等、工夫することが重要かもしれない。

経験者からのメッセージ

ひとつのものを、一緒に作る仲間を集めるほうがT-ACTには適しているかもしれません。

運営者側から見たパーティシパートの変化

みんな精一杯努力していた。

T-ACTに関する感想

いつも相談にのっていただき、ありがとうございます！

つくば2016 “つくばのむし”を発信！展示を通した“むし”普及活動(16020A)

T-ACT プランナー 田中 千聰 (生命環境学群生物学類3年)

活動内容

活動内容と目的

次世代を担う子どもたちへの環境教育は、人類の持続可能な未来を実現するために欠かせないものである。しかし、近年では景観や学校教育の変化によって子ども達が環境について体験的に学ぶ機会は、減少しつつある。「つくば2016 “つくばのむし”を発信！展示を通した“むし”普及活動(16020A)」では筑波大学のキャンパスを中心として、生物学を専攻する学生による自然体験教室を開催し、これまでに地域の子ども達へ実感を伴った自然学習の場を提供してきた。

筑波大学は緑豊かなキャンパスを有し、近隣には日本独自の里山環境が残存している。しかしながら学内では環境分野の講義や研究が実施されているにもかかわらず、在籍する学生の身近な自然への関心は高くない。

そこで、これまでに「つくば2016 “つくばのむし”を発信！展示を通した“むし”普及活動(16020A)」が行なってきた活動や、筑波キャンパスや近隣の里山環境に関する展示を行ない、筑波大生の身近な自然への関心を高めようと考える。展示を行なう場所は、学内で様々な背景をもつ人々が多く利用する図書館を予定している。

さらには、11月に行なわれる雙峰祭においても企画展示を行ない、学内だけではなく学外の様々な人々にも身近な自然や子ども達への環境教育の重要さを発信したいと考えている。

活動計画

- 6月 スケジュール作成
図書館展示の内容決め
ポスター作成
- 7月 図書館展示
- 8月 図書館展示を通した振り返り
- 9月 学園祭展示の内容決め
- 10月 ポスター及び展示品作成
- 11月 雙峰祭で展示
- 12月 雙峰祭展示の振り返り

活動期間

平成28年6月1日～28年11月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：山本鷹之（生物学類3年）平野靖也（生物学類2年）、鈴木佑弥（生物学類2年）、相澤良太（生物資源学類2年）、吉橋佑馬（生物学類2年）、井戸川直人（生物学類4年）、林靖人（生物学類2年）、岩田基晃（生物学類2年）、栗原良輔（生物学類2年）

P：木下奈都子（生命環境系）

活動報告

活動成果

図書館での展示活動と学園祭での学術企画枠での展示活動を行ないました。図書館という多くの人々が集まりながらも静かな空間の中でどのような展示が適しているのかを議論し、展示を行ないました。図書館展示で得られた反省を基に、学園祭での活動をメンバーと共に練り「虫の世界を覗く」をコンセプトに企画展示を行ないました。当日は多くの学内外の人々に訪れ、楽しんで頂くことができたのではないかと思います。さらに、学園祭実行委員の開催する「雙峰祭グランプリ」では、アカデミー部門のグランプリをいただく事ができました。

今後の課題

今回はポスターやパンフレットなど印刷物が非常に多い企画でした。T-ACT さんのプリンターをお借りしたことで大方の部分はまかなえましたが、パンフレットは直前で外部に発注したため、価格が割高になってしまったのは反省の1つだと思います。

経験者からのメッセージ

展示活動はワークショップに比べて企画側と参加側の相互作用が少なくなりがちです。しかし、参加側の方々にどのような思いを感じてほしいのか、どのような作用を起こしたいのかをじっくりと考えて展示企画を練ることでポスターや展示物を通した対話が可能になるのではないかと思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

図書館での展示活動においては、感想ノートに観てくださった方によるご指摘や「こんなに虫が大学・大学近くにいるとは知らなかった」等の感想をいただき、学園祭展示へのフィードバックができたと思います。学園祭展示では、「虫が苦手」という大人の方や「虫が好き」な子どもなど様々なバックグラウンドを持つ人々が訪れてくださいましたが、そのそれぞれが展示を通して虫の世界に親しんでいただけたのではないかと思います。

T-ACT に関する感想

つくばバグの活動において T-ACT さんには非常に様々な面で助けていただきました。特に学園祭での展示では T-ACT さんの助けなしにはできなかったと思います、本当にありがとうございました。

re+—学生生活で悩んだときに読む本@筑波大学— produced by 希死回生(16021A)

T-ACT プランナー 高橋 あすみ (人間総合科学研究科 M2)

活動内容

活動内容と目的

団体の活動目的は、筑波大学の学生および教職員に、自殺に対する問題意識を持つ機会を提供し、自殺に対する誤解や偏見を減らすこと。第二に、自殺志願者や自殺者を生まない大学の環境づくりに貢献することです。

今回は、これまでの活動の集大成として、心理学的な観点から、学生生活・私生活で相談しづらい悩みに直面したときに、悩み解消のきっかけを見つけるようなハンドブックを作ります。

活動計画

◇発行スケジュール

- 7月23日まで インタビューや取材を行い、記事を完成させる
- 7月24~31日 内容の確認
- 8月1~31日 デザイン入稿
- 9月1日~9日 印刷
- 9月10日 発行・配布（大学構内）

◇掲載内容（予定）

- ①留年／休学の楽しみ方・切り替え方について、経験者へのインタビュー
- ②大学内外で、困った時にどこに相談したらいいのかの情報提供
- ③保健管理センターへの抵抗感を減らすための保健管理センター紹介
- ④自分で心を落ち着けるひとつ的方法としてのマインドフルネスの情報
- ⑤人と互いに相談し合うときの「傾聴」についての紹介

◇発行部数：1000部

活動期間

平成28年7月1日～28年12月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

○：佐々木夕莉（人間総合科学研究科修士2年）、牟田博記（医学類4年）、友常果歩（芸術専門学群4年）、池田雄太郎（OB）、皆吉智之（OB）

△：杉江征（人間系）、太刀川弘和（医学医療系）

活動報告

活動成果

心理学的な観点から、学生生活・私生活で相談しづらい悩みに直面したときに、悩み解消のきっかけを見つけるようなハンドブック「re+—学生生活で悩んだときに読む本@筑波大学—」を制作しました。

主なコンテンツは以下の6つで、すべて予定通り掲載できました。

- ①悩んだ時にに行く12の場所（保健管理センターを含む学内外の相談機関の紹介）
- ②特別寄稿 色々な立ち上がり方（留年や休学についてお医者様より寄稿）
- ③留年・休学を選ぶ（留年・休学に至るまでのインタビューや体験談）
- ④ほけかんの先生だけど質問ある？（保健管理センターの先生のインタビュー）
- ⑤傾聴のすすめ（傾聴について紹介）
- ⑥マインドフルネス入門～自分の感情を整理する（マインドフルネスについて紹介）

それぞれのコンテンツに担当を割り振り、8月末までに記事を完成させる予定でしたが、多忙なメンバーが多く予定通りにはなかなか進みませんでした。しかし、締め切りよりも内容の充実を優先し、担当を変える、締め切りを延ばすなどして臨機応変に取り組みました。結果的に、全部で19ページに及ぶ内容の濃いハンドブックとなり、1000部を刷って、2016年度の雙峰祭にて配布を始めました。

現在も各支援室、図書館、食堂などで配布中です。順調にはけており、読者の方から「よかったです」「わかりやすい」「第2弾も」といった感想をいただくこともできました。

また、今回の活動では、メンバー同士でこれまで以上に活発な話し合いをしました。これまで遠慮して意見を

言えなかったメンバーも、よりよいハンドブックを作るという目標に向かって、それぞれが妥協せずに話し合いを重ねることができました。そのため、今回のハンドブックの出来は全員が満足いくものとなり、自信をもって人に勧めることができる仕上がりになりました。

今後の課題

話し合いはオンライン上で行うことが多かったのですが、顔が見えずに文章だけで話し合うと、意図が伝わりきらずに雰囲気が悪くなることもありました。そのため、スカイプなどを使って顔を見て話をする方法もあったと思います。

経験者からのメッセージ

プランナーは、企画立案やメンバーとの連携、スケジュール管理、書類制作などたくさんやることがあると思いますが、基本は「自分のやりたいことをいかにみんなと協力してやるか！」という作業です。私も今回ハンドブックを作るというのは初めての経験だったのですが、協力して一緒に取組んでくれるメンバーとの合意形成を重視しました。自分のやりたいことをひとりで暴走してやるのもそれはそれで楽しいのですが（笑）、協力してやると自分の思ってもみなかつた結果が得られるので、もっと楽しいと思いました。思い通りにいかないとちょっとイラッときれいな結果になりますが（笑）、そんな自分と向き合う方法も学べたりしました。

ぜひあなたのやりたいことをT-ACTで、いろんな人と楽しんでください。

運営者側から見たパーティシパートの変化

今回参加したメンバーは全員運営側だったので、割愛します。

T-ACTに関する感想

今回の作成に当たって、カメラを借りたり記事をチェックしていただいたりと、とてもお世話になりました。ハンドブックの配布も快く引き受けてくれていただき、色々と相談もしやすかったです。どうもありがとうございました。

宙（そら）見る？～暗いからこそ星空へ～ (16022A)

T-ACT プランナー 佐藤 大哲 (情報学群情報科学類1年)

活動内容

活動内容と目的

「つくばの夜は暗い」

よく聞くつくばの“問題点”です。でも、必ずしも暗い=悪でしょうか？

夜とでも暗くなるつくばは、星を見るには最適の環境です。

今回のイベントを通じて、たくさん的人に、星を好きになってもらい、暗い夜、ふと思い立って空を見上げてみる、そんな楽しみ方を知っていただければと思います。

また、今回のイベントでは、宇宙技術に関するものもいくつか用意したいと考えています。星だけではなく、宇宙全体について考えられるイベントにできればよいと考えています。

活動計画

○イベント内容について

夏休みの一日に、小学生～大学生まで幅広い範囲を対象に行いたいと考えています。星に関しては、小学生も大学生も知識量はほぼ同じ！

・昼間

水口ケット教室～口ケットの仕組みを知ろう～：13時～16時

望遠鏡工作教室～望遠鏡の仕組みを知ろう～：17時～19時

※いずれも事前申し込みと当日申し込みを組み合わせる。

・夜間（19時～22時、コアタイム19時から20時）

天体観測会～実際の星を見てみよう～

→コアタイム=全員参加の時間を設け、その時間以降は各自の帰宅所要時間などに合わせ、流れ解散とする。
保護者が同伴を原則とする。

○予算について

材料費のかかる水口ケット教室と望遠鏡づくり教室については、材料費のみ参観者の実費負担とする。

水口ケットの材料費は一時的に主催者が負担するが、望遠鏡についてはメーカーに後払いの許諾を得た。

○場所について

水口ケット教室や望遠鏡つくり教室は春日エリアの一室で、水口ケットの打ち上げはグラウンド、天体観測会は春日エリアの中央広場（自転車立ち入り禁止のレンガ敷きのところ）でそれぞれ行う予定。

理由としては、つくば駅から徒歩圏内であること、望遠鏡をのぞいていて周囲が見えない状態でも自転車乗り入れ禁止の中央広場であれば衝突事故などの危険性を減らせることが挙げられる。

○時間帯について

8/12はペルセウス座流星群の極大であることから、天文薄明が終了しつつ月が直接視界に入らなくなつたあとは流星観測も期待できる。流星はインパクトが強く、参加者の心にも残りやすいので、ぜひ今回のイベントでは観測対象としたい。

当日の天文薄明終了時刻：20時08分

月が視界に入らなくなる（高度30度以下になる）：21時頃

以上より、流星観測には21時以降が適している。

ただし、参加者も交通などの理由によりあまり遅くまではいられない人も多いため、20時以降は自由参加としている。

○外部連携について

宇宙団体 SPICA に広報やイベント運用について協力し、実行委員会との共催とする。

○活動予定

6月 活動開始

メンバー集め等

7月中旬 広報、事前申し込み受付開始

8月上旬 事前申し込み終了

8月12日 イベント開催

活動期間

平成28年6月13日～28年9月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

○：秋山佳穂（工学システム学類1年）、久保川一良（知識情報・図書館学類1年）、辰巳佳芳（情報科学類1年）
P：田中博（計算科学研究センター／学生生活支援室）

活動報告**活動成果****●活動内容**

- 6月12日 T-ACT申請
7月14日 T-ACT承認
7月15日 つくばエキスポセンターへ協力依頼
7月19日 公式サイト公開/SNSでの公表/申し込み開始
7月19日 イベント情報配信
7月25日 ラジオ収録
7月27日 プレスリリース配信
8月1日 ラジオ放送
8月2日 つくばエキスポセンターのアウトリーチ活動に同行
8月12日 イベント開催

●広報関係（詳細は別途報告いたします）

- ・イベント情報掲載数：13メディア（ネットメディア11、携帯キャリア1、テレビ1）
- ・記事掲載数：15メディア（ネットメディア15）
- ・当日取材数：1メディア（ネットメディア1）

●目標達成度

- ・イベントを無事に開催する 達成！
- ・参加者100名以上 達成！
- ・満天の星空を提供する 不可抗力により不達成
- ・宇宙に興味を持ってもらう アンケートにより達成！
　よって、達成率75%。次回こそは晴れてほしい。

●得られた成果

多くの子供たちに宇宙を見る楽しさを知っていただけだと思います。まずはそれができたことが成果です。
また、イベント運営の難しさを改めて実感することができました。次回以降のイベントで生かしていこうと思います。

今後の課題

アンケートでは、総じて高い評価を得られた一方で、以下のような意見もいただきました。

- ・段取りが悪い（水口ケット工作教室）
- ・スタッフから「実は僕も作ったことない」という声が聞こえ、不安になった（水口ケット工作教室）

参加者数が予想をはるかに上回る人数があつまってしまったこと、それに加え一部スタッフが体調不良で参加できなくなり、急きょ学内の人にお手伝いをお願いしたことなどがこれらの意見を頂いた要因かと思います。

もちろん、イベント参加者の募集も大事ですが、運営側の募集もそれと同じぐらい大事だという事がとてもよくわかりました。次回に生かしていこうと思います。

全体的に、筑波大学にいる運営人員が少なかったことから、ほとんどの仕事を佐藤が行っていたため、無理が生じていた。教材の印刷がイベント開催中になるなど、仕事がさばき切れていたのは明白である。もう少し筑波大学側のスタッフを増やし、仕事を投げるべきでした。

経験者からのメッセージ

- ・“メンバーみんなで”イベントを作り上げていきましょう！
- ・「筑波大学」の名称を使えることの責任を理解しつつ、その偉大さを存分に活用してください！
- ・イベントは広報が命です。

運営者側から見たパーティシパントの変化

- ・宇宙が好きになった
 - ・体験型イベントにこれからも参加してみたいと思った
- などの声をいただきました。

T-ACT に関する感想

様々な物的支援や貴重なアドバイスありがとうございました。今後もイベントを開いていけたらなと思っております！またよろしくお願ひいたします。

“留学生のための”、筑波大学サークルサイト (16023A)

T-ACT プランナー 五十嵐 理紗 (人文・文化学群日本語・日本文化学類4年)

活動内容

活動内容と目的

3年間、留学生のチーターを行っていて、毎年「サークルに入りたいけど、どんなサークルがあるのかわからない。教えて欲しい。」という声を聞いていました。しかし、私自身、筑波大学のサークルを全て知り尽くしているわけではなく、留学生のサークルに入りたい目的もばらばらなため、目的やカテゴリでサークルを検索できるサイトがあればいいなと感じていました。

そこで今回、10月の秋に来日する留学生が使えるように、インターネット上の、筑波大学サークル一覧を作成しようと思い、T-ACTに申請しました。

また、各サークルや留学生にアンケートを求める場合に、その結果がインターネット上で公開されるため、信頼性のあるT-ACTに申請しました。

活動計画

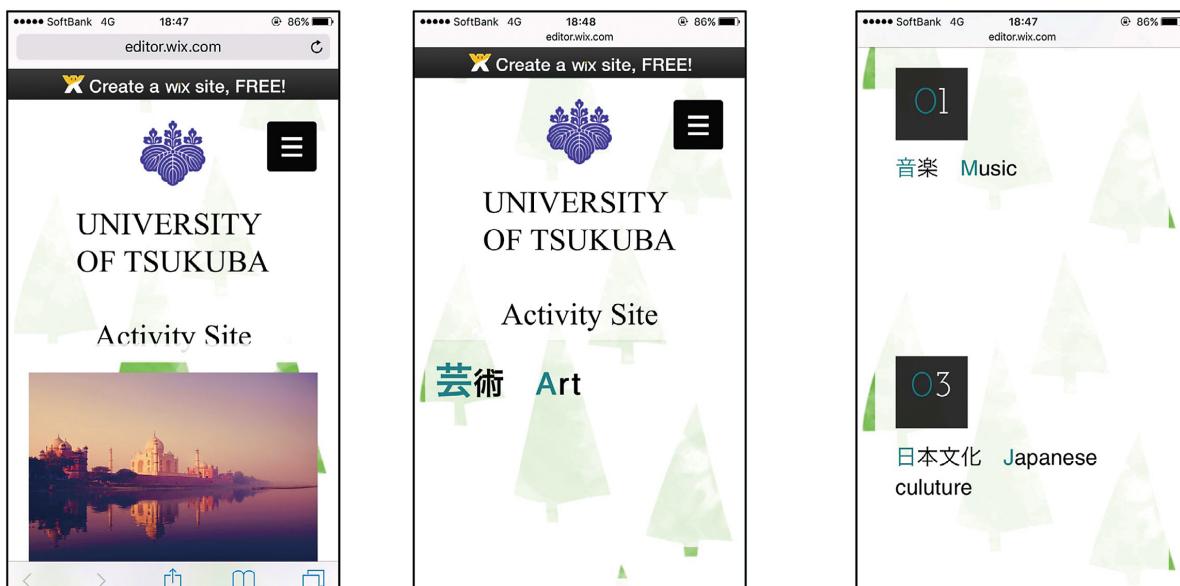
- 6月 活動申請、担当の先生に依頼
- 7月 留学生のニーズ調査、掲載サークル選定、協力依頼、サイト作成開始、協力者募集、取材開始
- 8月 取材、コンテンツの充実、(上記継続)
- 9月 試験運用
- 10月 運用開始、運用・保守
- 11月 留学生、チーターに対して、サイトについてのアンケート実施。
フィードバックを元に、改善、その都度更新。
- 12月以降 引き続き、運営継続。
サイトの需要が高ければ、留学生交流課と情報の充実性について要相談。

活動期間

平成28年6月10日～28年12月10日

備考

ちなみに、以下のURLが試しに作ってみたサイトのスクリーンショットです。非公開です。このようなイメージのPC版のサイトが作れればいいなと現段階では考えています。参考までに掲載しておきます。(サンプル図、参照) <https://www.dropbox.com/sh/oh67nvnoxbdqoz2/AAC69XMq8RwD72O6IXUMWSj6a?dl=0>



サンプル図

T-ACT オーガナイザー／パートナー

○：大木本美結（情報メディア創成学類4年）、周揚帆（人文社会科学研究科2年）、濱本亜由美（知識情報・図書館学類4年）、菊池ゆとり（知識情報・図書館学類3年）
 □：鈴木伸隆（グローバル・コモンズ機構／人文社会系）

活動報告

活動成果

- 留学生のために、筑波大学のサークル情報をまとめたwebサイトを制作した（<http://tsukurope.wixsite.com/tsukurope>）。筑波大学は、毎年留学生を多く受け入れている一方、留学生のための新歓活動やサークル紹介はほとんどされていなかったのが現状である。それゆえ、情報入手の難しさや情報の古さから、留学生がサークルに入りたくても、入れない状況が続いていたため、今回、留学生向けのwebサイト制作に至った。
- また、各サークルを掲載しているページの表現方法もこだわった。日本語と英語を併記したテキストのような形式で表現することで、日本語の上達を目標に留学している留学生にとってテキストのように使えるものにした。また、ほとんどが英語中心のG30の留学生にも、日本の文化や日本語を身近に感じてもらいたいという理由から、日英対応の表記で制作した。また、留学生に特化したwebサイトにするため、実際にそのサークルで活動している留学生の声や写真も反映した。
- 完成したwebサイトは留学生からの評判もよく、実際に、華道部には、取材時0人だった留学生が、つくロペを経由して新たに4人参加したとのことである。今後はサークル情報を更新していくながら、留学生に必要な大学周辺の情報や、生活に関する情報も増やしていくことと考えている。
- また、大学各所の皆様や在学生の声を聞く中で、本当に便利なwebサイトならば、少しの広報と留学生の口コミで広まるのでは、という可能性も感じた。それができることこそ、誰でもアクセスできるwebサイトの魅力があるのではと気付くことができた。
- つくば市役所のつくば市シティプロモーション室の方々と、つくば市×大学生の協働事業として、活動していくことが決まった。つくば市の留学生に対する情報提示の仕方の面で、互いに協力していければと考えている。

今後の課題

このサイトにより、留学生がサークルに見学に行く機会も増えると思われるが、そうした場合の、日本人学生の留学生に対する受け入れの考え方や、生じる問題にどう対応していくか、という点は課題として挙げられる。ただ、サークルを紹介するwebサイトではなく、他の付加情報や付加価値も付け加えられるようなサイトになるよう、メンバーで話し合っていく予定である。つくば市内の周辺情報や、マナーなどの情報も増やしていくと考えている。

経験者からのメッセージ

自分のやりたいという気持ちが強ければ、コンセプト

| Home | Categories | Terminology | Q&A | About us | Links | 日本人学生の皆さんへ



サークルカテゴリ Categories



トップページ

新桐舞（きりきりまい） Kirkirimai

留学生の声 Zalushenova Daria (Russia)

I always have fun with Kirkirimai. The members are nice and kind and they help me when I have any questions. I am not good at Japanese, but I am trying to learn Japanese. I am not able to learn Japanese at first, but I do not have it anymore. You might not be able to learn Japanese "ordinary" life in textbooks. However, you can feel and experience "real" Japanese language and Japanese culture by belonging to a circle. Japanese students are also happy to be friends with foreign students. Please join us and have fun!



活動内容

新桐舞は、年齢・性別・国籍・階級・階級・経験に関係なく、様々な人と人々の生きを舞として活動しています。みんなで楽しむYOSAKOIソーランを楽しむ「ヨシバーサルソーラン」が目標です。YOSAKOIソーランを通して、是非、日本文化に触れたくなり、日本人の友達を増やしていくください。そして、練習や添舞いために一緒に楽しんでください。

サークル紹介

サークル用語 Terminology

新歓(Shin-kan)

「新入生歓迎会」の略
新入生を歓迎するために開かれる会
「新入生歓迎コンパ」とも言う

"Shinkan" is the Welcome Party for freshmen who join the university club.

～練(~ren)

「～の練習」という意味
例えは、「朝練(asa-ren)」→朝の練習

"～-ren" means "～-practice".
For example, we use "asa-ren" to mean "morning practice".

MTG(mtg)

ミーティング (meeting) の略
サークルの会議のこと

MTG(mtg) is short for meeting (club meeting).

稽古(Keiko)

芸能、武術、技術などを習うこと

"Keiko" means to learn Japanese

用語解説

も明確になります。コンセプトが明確になったら、やりたいという気持ちを周りに伝えて、周囲を巻き込んでいきましょう。そこさえクリアできれば、1人では決してたどり着けないところや景色が見られるはずです。好奇心を大切に、楽しんで活動してください！

運営者側から見たパーティシパートの変化

留学生と日本人学生が活動を通じて互いに意見を交わすことで、それまでのそれぞれの偏見を打破して、制作にあたることができた。何気ない表現ひとつとっても、育った環境が違う人から見れば、全く違う感情を抱く場合があるということを学んでいた。

T-ACTに関する感想

考え方が偏ったり、学生同士の時間がとれず議論が進まない場合などに、違う角度からアドバイスを下さり、私たち自身の頭で考えていることをアウトプットして問題を整理する道筋を作ってください、ありがとうございました。ゼロからものを作る際には、ひとつひとつを丁寧に着実に進めていくことが重要だと感じることができました。

障がい者スポーツを体験しよう！(16026A)

T-ACT プランナー 篠田 直人 (人間学群障害科学類1年)

活動内容

活動内容と目的

あまり有名ではない障がい者スポーツを身边に感じてほしい。

スポーツは観戦だけではなく実際にやってみてこそ、その本質が分かる。競技のような緊張感に満ちた雰囲気ではなく、レクリエーションのような位置付けで取り組んでほしい。

中高生に障がい者スポーツを通して、普段体験することのない障がい者スポーツの一面を知り、身边に感じてもらうことを最終目標とする。

実施種目はボッチャ。

活動計画

6月後半 パートナーの先生を探す。協力してくれるメンバーを集める。

7月 ミーティングを開き実施種目、外部の協力してくれるチームの決定。

8月 周辺の中学校、高等学校に参加のお願いをする。

ミーティングで競技ルールについての確認。

外部のチームに協力のお願いをする。

中学校、高等学校に行き勧誘活動。

9月 周辺の学校への勧誘活動。

実施施設の予約。

実際にメンバー内で競技の体験を行い競技の雰囲気を感じる。

外部チームと当日のスケジュールなどを相談。

参加してくれる生徒に当日のスケジュールを伝える。

不備の修正。

10月 本番。外部チームとの都合が合えば10月10日を目標とする。

ミーティングで反省を行い、報告書をまとめること。

活動期間

平成28年7月1日～28年10月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：中嶋勇葵（障害科学類1年）、小野寺陸（障害科学類1年）、松尾健志（障害科学類1年）、柳澤里沙（教育学類1年）、橋本陸（障害科学類1年）、石山桜子（障害科学類1年）、藁科遼（障害科学類1年）、迫田拳（障害科学類1年）、黒澤由子（障害科学類1年）

P：塩川宏郷（人間系）、齊藤まゆみ（体育系）

備考

適宜、澤江幸則先生からもアドバイスを頂く。

活動報告

活動成果

第四体育館にてボッチャを行った。目標達成度：70%ボッチャの楽しさを共有できたと感じる。

今後の課題

夏休み期間にミーティングを実施できなかったため、予定通りに進まなかった。参加者から、もっと規模の大きいボッチャの企画を実施して欲しいという意見があったので、前向きに検討したい。

経験者からのメッセージ

宅通の人がメンバーにいる場合は、長期休みを挟んだ場合、思うようにメンバーが集まらない事があるので、昼休みにコツコツミーティングをした方がいいと思う。

運営者側から見たパーティシパートの変化

予想外の出来事に対する対処がうまくなったように感じる。

つくばアイドル誘致プロジェクト（実行編）(16027A)

T-ACT プランナー 猪狩 浩介（生命環境科学研究科 M2）

活動内容

活動内容と目的

私は、中学3年生の時から女性アイドルグループが多く所属するハロープロジェクトのファンになりました。特に、私と同じ年の方々が所属するBerryz工房や℃-uteが好きで、よく動画サイトでPVやライブ映像を観ていました。その後、

「実際にライブを観に行ってみたい！」

と思うようになり、地元から東京のライブ会場に何回か足を運びました。実際に観るアイドルは、映像を観ていただけではわからないような「魅力の塊」でした。

「この曲あまり聞かなかったけど、ライブではこんなに盛り上がる曲なんだ！」

「あ、この子そんなに可愛くないと思ってたけど、実際はこんなに可愛いんだ。」

「あの子凄い歌唱力とダンスパフォーマンスだなあ…。」

などなど、そのライブが終わる頃には、もっとそのアイドルが魅力的になり、もっと好きになりました。

最近は、私の好きなハロプロのライブだけではなく、他のアイドルグループのライブにも足を運ぶようになりました。それぞれにコンセプトがあり、曲が素晴らしいアイドル、歌唱力やダンスが凄いアイドル、ライブが大いに盛り上がるアイドル…、もちろんルックスが群を抜いているアイドルもいます。それぞれ同じ「アイドル」という括りでも、グループ毎にそれぞれの良さがあり、個性があり、またファンを楽しませる方法も異なります。それは実際にライブやイベントなどに足を運び、実際に目で観なければその魅力がわかりません。

最近では、全国各地で様々なアイドルグループがライブやイベントを行なっています。それはつくばも例外ではありません。私もつくばや周辺にアイドルが来れば「せっかく来てくれたのだから」と思い、イベントに参加しています。しかし、つくばでのアイドルに対する知名度や関心が低いのか、イベントには空席が多く、せっかく来てくださったアイドルの方々に申し訳なくなり、少し悲しい気持ちになります。それは、実際来ていただいたアイドルも思っているはずです。

「つくばの皆さんにもっとアイドルを知っていただきたい。」

と、私は強く思いました。特に、将来全国各地で活躍する方々がいらっしゃる筑波大学の学生に、アイドルを知り、魅力を感じていただきたい、そう思うようになりました。

そこで今回、筑波大学学園祭「雙峰祭」でアイドル誘致プロジェクトを立ち上げたいと思います。今後つくばがアイドルのライブやイベントなどの活動場所の一つになっていただけるようにすること、つくばにいる方々や筑波大学生によりアイドルを実際観て、魅力を感じていただくことで、アイドルを知っていただく、よければファンになっていただくような機会になればと考えております。

実行編では、学園祭でのアイドルイベントの成功を最終目標としております。そのため、更なるイベントパフォーマンスの向上のため、引き続きコアメンバーの募集をいたします。また、当日運営スタッフに興味を持っていた方の参加も重ねて募集しております。

是非、つくばで一緒に「アイドル」を盛り上げていきましょう！

活動計画

- 7月 宣伝ポスター作成、など
- 8月 トークショー協力先との打ち合わせ、など
- 9月 トークショー構成・野外ライブパフォーマンス構成の打ち合わせ、など
- 11月5日 学園祭「つくばアイドルフェスタ2016」開催
教室でのトークショー、松美池ステージ・UNITED STAGEでの野外ライブを予定している。

活動期間

平成28年7月25日～28年11月6日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：大竹裕太（応用理工学類4年）、天野優貴（人文学類4年）、菊澤彩咲（国際総合学類2年）、降田貴大（人文学類2年）、加藤ほのか（心理学類1年）

P：鈴木伸崇（図書館情報メディア系）

備考

予定希望人数はコアメンバー・当日スタッフ含めの人数です。

活動報告

活動成果

つくばアイドル誘致プロジェクト（計画編）にて、アイドルグループ「ベイビーレイズ JAPAN」の誘致を決定。11月5日（土）の筑波大学学園祭「雙峰祭」でトークショーイベントとメインステージでの野外ライブを開催することも決定。実行編では、トークショーの内容、チケット料金・委託業者選定・販売方法、宣伝方法などを中心にMTを行ないながら、学園祭実行委員会や出演者事務所、研究室、つくば市など外部との打ち合わせも重ねた。

トークショーでは、「つくばや筑波大学を出演者や来場者に知っていただく」というコンセプトで来場者も参加できるクイズ大会を実施。トークショー中に出題した問題と関連のある筑波大学の研究室の方々にお越しいただき、実際の研究内容やその体験などをしていただいた。多くの方々にご好評いただき、出演者ご本人方からも非常に楽しかったと言つていただけた。

野外ライブでは、「ベイビーレイズ JAPAN の魅力を実際に筑波大生に観ていただく」というコンセプトで実施。問題なく進行し、ファンをはじめ、筑波大生などにもご好評いただくことができた。

今回のイベントを通して、今までベイビーレイズ JAPAN を知らなかつた筑波大生でその後ベイビーレイズ JAPAN のライブチケットを購入したという方々もいるとのことで、今回のプロジェクトのコンセプトでもある「アイドルの魅力を筑波大生に知つていただく、ファンになっていただく」が達成されたと実感している。

今後の課題

宣伝が予想以上に遅れたこと、想定した来場者を大きく下回り赤字となってしまったこと、などといったイベントを企画・運営することにおいての知識が不足していたこと。しかし、今回のイベントを通して上記を含む様々な細かい反省点が出たので、今後の課題とする。

経験者からのメッセージ

- ・社会人と関わる際は最大限の配慮を。
メールや電話などでも適切以上の対応をすること。ただでさえ、「学生だから…」と思われています。ここでの経験で社会人との関わり方も身につけることができるならば、身につけよう。
- ・スケジュール管理能力を身につけること。
メンバーだけではなく、プロジェクトに関わる方々全てに迷惑がかかる。仕事もやれるなら「やれます」、やれないなら「できません」とはっきり白黒をつけること。後々困るのは周りのメンバーや自分。
- ・その上でやってみたいと思ったことはなるべくやってみること。
社会人でもやろうと思えばできるが、学生の時にやる以上に大変。モチベーションがあるうちにたくさん挑戦してみよう。

運営者側から見たパーティシメントの変化

最初は（というより1ヶ月前程度まで）は、他人同士でやっていることのような雰囲気だったが、一緒に仕事をする機会が多くなったり、開催日が近づくごとに全体の雰囲気も一体となってきて意見なども少しずつ積極的に全員が出すようになった。

T-ACTに関する感想

特にありません。

相談をはじめとして、たくさんご協力をいただきました。改めて感謝申し上げます。

わたしたちの松美池をきれいに vol.1 現状を知る (16028A)

T-ACT プランナー 河出 麻里奈 (生命環境学群地球学類2年)

活動内容

活動内容と目的

現状、pH11ほどある松美池の水質改善と持続的に綺麗な池であり続けられるような仕組みを考え、最終的にはそれを実現することを目標とする。

vol.1では、松美池の現状を知り、松美池をどのように綺麗にしていくかの具体的な方向性を決定することを目的とする。

活動計画

～6月 活動開始

メンバーを集めつつ、松美池の現状を知るために、(何が原因で松美池の水は汚れているのだろうか、pHの値など) フィールドワークを行い、松美池に関する過去の研究を探し、勉強会を行った。

7月～12月 水文科学や化学、工学、生物学系の先生方に話を聞きに行き、週に1回程度で、日中あるいは放課後に中央図書館のラウンジまたは第一エリアの教室にて勉強会を行う。(曜日未定)

現在、松美池の溶存物質について生命環境系の山中勤先生に話を伺う予定である。(現在交渉中)
また、活動に関連する分野の先生方の候補はリストアップ済みであるので必要に応じてアポイントメントをとり、話を伺う予定である。

夏季休業中の活動については、現在構成員の大半を占める地球学類生が野外実験により週に1回の勉強会が厳しいため月に2回程度で行う。(場所日時未定)

12月末 vol.1活動終了

vol.2に向けて半年を振り返り、活動報告をまとめ次につなげる。

まとめについては、A0ほどのサイズのポスターにフィールドワークの結果や考察、写真などを載せ、発表の場を設ける。発表の対象は学類を問わず、この活動に興味を持つ人すべてとする。

活動期間

平成28年7月1日～28年12月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：高橋侑生（地球学類2年）、鈴木苑子（地球学類2年）、桑村理沙（地球学類2年）、佐々木美樹（地球学類2年）、齋藤真理子（地球学類2年）、繩司瑛太（地球学類2年）、沼優里奈（地球学類2年）、島ノ江彩加（社会工学類2年）

P：浅沼順（生命環境系）

活動報告

活動成果

生命環境系の教員に話を伺いに行き、松美池にて実地調査を行った。実地調査の結果から考えられることをまとめ、教員に意見を求めた。夏季休業以降予想以上にメンバーの都合が合わず調査を進めることができなかつた。

最終的に得られた成果としては、以降のページを参照。

今後の課題

筑波大学内の他の水圈との比較できるデータの収集。松美池の水質異常の原因と改善方法の解明。

経験者からのメッセージ

スケジュール管理だけはしっかりやった方がいい。

運営者側から見たパーティシパントの変化

パーティシパントはいない。

T-ACT に関する感想

特にない。

2016年6月17日 松美池視察2回目結果ダイジェスト

作成：佐々木美樹

● 採水地

○…採水地点記号
☆…主なパイプの位置 (B近くのパイプは流出、残り3つは流入)

● 測定値

地点	温度(℃)	pH	水深(cm)	採水時間
A	31	11.5		13:55
B			28	14:04
C	33.5	9.75		14:22
D	29	11		14:31
E	28.5	10		14:43
F	26.6	8		15:03

● A 地点でのパックテストの結果

COD	NH ₄	亜硝酸	硝酸	リン酸	
A	8 以上	0.2mg/l(ppm)	0.01~0.02	0.2	0.1

● 測定日データ
気温 29.2℃、湿度 73~74%、天気くもり

● 考慮すべき事項
➢ 直近の降水量 ⇒前日は大雨であった。
➢ 水道水での pH
規定値 pH は、5.8~8.6
つくば市天久保4丁目のあるアパートの水道水の pH は、8.5 であった。

● 結果

A pH

A パックテスト (風景)

C pH

D pH

E pH

F pH

水道水 pH

16028A わたしたちの松美池をきれいに vol.1 現状を知る
文責：河出麻里奈

◇調査法の授業で温度によって pH が変化するということを学んだ。pH11.5 という値を出した時の水温は 30°C ほどあった。
⇒水温が通常よりも高い場合、本来の pH よりも低い値が出ることなのでもしかずると 11.5 よりも高い値を示すかもしれないし、示さないかもしれない。

◇pH が高い理由
⇒コンクリートが溶けている。
⇒pH の高いものが松美池に流入している。
↑モニタリングをしているのでこの可能性は低い。(施設部環境安全管理室)
⇒pH が高い原因を明らかにする

◇硝酸 ⇒ 藻類が吸収している ⇒ 富栄養化

◇松美池は実際汚いのか？
⇒上澄みが透明度が高く一見きれいに見えるが、表面に泡が見られる。

◇リンが多い。(見た目でのくらい汚れているか)
⇒リンの測定は難しく、パックテストの結果だけでは判定できない。他の方法としてイオンクロマトグラフィーの方法が挙げられるが、専門家によるとこの方法でもリンの量を正しく測定することができない。リンが通常よりも多い値を示していることに着目し、専門の機械を用いて調べるという方法をとることもできる。

◇データが 1 回分しかない。
⇒様々な時期の様々な時間帯で各地点で測定し、データを可視化する。

◇兵太郎池、天久保池との比較
⇒どちらの池も富栄養化が進んでおり、蓮が大量発生している。池の富栄養化の理由としては生活排水と肥料の流入が考えられるが、兵太郎池と天久保池どちらについてもこの 2つの原因是当てはまらず、大気由来によるものであると考えられる。
山奥の水は雨水しかないのできれいという話。
※気温が低く、対流があると藻類が育たないのできれい。

◇別の着地点をさがそう。

例：アメリカはパックで色をつけてきれいに見せようとした
⇒きれいという価値観ってとは

◇天の川清掃プロジェクトのように泥をさらう？
⇒泥をさらうことは一時的な解決にすぎず、春先に畑の土が飛んでくるためまたすぐ溜まる。
⇒泥と共に存しなければならない

◇水は上から下に流れる。
⇒循環させるには下から上に流れる仕組みを作らなければならない。
⇒とてもお金がかかる。
⇒他の方法を考えていった方がいい。

◇松美池は実際どう汚いのか？ 実験排水が松美池に流れているのではないか。
⇒大学の水道はどこから水を引いていて、どこに流れているのか
(つくば市の上下水道について調べる。排水はおそらく霞ヶ浦)
大学内の水道のパイプは 3 種類ある。
・上水道 ・下水道 ・実験排水
…実験排水のパイプはモニタリングされていて、pH が規定値を超えていたりするとパイプがまる。管理はとても厳しい。
⇒モニタリング後にどこに流れているかはわからない。(施設部に行こう！)
松美池の上池及び下池の周りを一周してパイプの確認。

◇松美池は何が原因で汚れているのか？ 硝酸？重金属(あったら大変)？
⇒パックテストをしてみる。
◇天の川は人工的に作られた川で注水機能を持っているので水を全部抜いて清掃するという処置をとれたが、松美池は昔からある池なので水を全部抜くことは実質不可能である。
⇒明治初年の地図が国土地理院の HP で確認してみよう

◇松美池に入ってくる水と出していく水があるのか
⇒なからたら相当厳しい。
入ってくる水があればそれを綺麗にすれば済む話だが、入ってくる水がないという状態では、まず流れを作ることができないできれいな状態を維持するのは難しい。

むし食うべ2：昆虫食をはじめに考える (16029A)

T-ACT プランナー 山本 鷹之 (生命環境学群生物学類3年)

活動内容

【活動内容】

本企画では、昆虫を試食する会を開催することで、参加者に昆虫について興味を持ってもらうだけでなく、将来の食糧問題についても考えてもらう。また、今日の嗜好品として昆虫を扱うのではなく、昆虫食が注目された背景をもとに昆虫を食べることの将来性・安全性について議論し、昆虫食のあり方をパワーポイントと昆虫を材料とした料理を用いて考える。

【企画立案の経緯】

本企画の発案団体であるつくバグは、昆虫を題材にした、昆虫採集や土壤動物の観察を通して子どもたちに環境教育活動（企画番号14015A、15018A、15039A）を主に学外向けに行ってきた。今回は学内の学生・教職員を対象に昆虫への興味を持つてもらうために考えたのが昆虫食である。

【活動の背景】

2014年度にT-ACTを通して開催した、昆虫を食べる会「むし食うべ」【企画番号：14046A】では、多くの学群・研究科の学生・職員が参加していただけた。そして、昆虫の栄養価の高さや将来性や安全性について議論し昆虫を食べるためのガイドライン作成について話し合った。しかし、今日では話題として取り上げられることも見られなくなり、以前よりも昆虫食に対する関心が減少したと感じられる。一方で昆虫を食べることを「チャレンジ精神」、「嗜好品」などのコンテンツとして用いられている様子がWEB上やSNSなどで見られる^{1,2}。これらは、一時の話題性を目的に行われることが多い。そこで、コンテンツとしての昆虫食ではなく、栄養価のある食料として、伝統的な文化として再認識してもらう。

また、我々が日ごろ口にする牛肉、豚肉や鶏肉など、本体の一部分を食べているのと異なり、昆虫は本体すべてを食べるため、生き物から命をいただいているということができるため、道徳教育、食育の題材としても有用である。

昆虫食の将来性や安全性を改めて議論し、実際に昆虫を食べることや昆虫食べる文化を再認識するためにも、昆虫に対する嫌悪感や恐怖を払拭し、さらに興味を持つてもらえるような努力を行う。

【T-ACTで活動することに意義】

昆虫食をはじめに考えると、食文化としての背景、栄養価、フードセキュリティやそのための政策など、多分野を総合的に考えねばならない。その際に、総合大学において、さまざまな背景をもつ学生・教職員に対して広報活動を展開でき、様々な分野の推進室教員の助言を頂けるT-ACTの企画として承認されることが、スムーズな企画立案及び運営の為に必要不可欠である。

1. TABI LABO 佐々木俊尚が実践！「昆虫を食べる」6つのメリット
<http://tabi-labo.com/100284/insecteater/>
2. JATAFF 虫を食べる話 第二回
<https://www.jataff.jp/konchu/hanasi/h02.htm>

活動計画

- 7月 ○活動開始 つくバグを中心にメンバーを募集
- 7～9月 ○材料となる昆虫を採集・むし食うべ【企画番号：14046A】で作成したガイドラインをもとにメニューを作る
※ガイドラインは昆虫食を学術的に研究する団体である食用昆虫研究会に助言をいただいたものである。
- 8～9月 ○昆虫食のガイドラインとパワーポイント作成
※パワーポイントの内容は料理に使われた虫に関する情報や作り方、栄養分、安全性について
○参加者募集
- 10月6日 「むし食うべ2」当日

活動期間

平成28年7月20日～28年10月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

○：田中千聰（生物学類3年）、井戸川直人（生物学類4年）、岩田基晃（生物学類2年）、鈴木佑弥（生物学類

2年)、平野靖也(生物学類2年)、棄原良輔(生物学類2年)、林靖人(生物学類2年)、相澤良太(生物資源学類2年)、吉橋佑馬(生物学類2年)
P:木下奈都子(生命環境系)

活動報告

活動成果

前回の企画「むじ食うべ」で作成できなかったガイドラインを作成することができた。今回はこのガイドラインをもとに進めることができた。前回と同じテーマではなく、おいしさと安全性を重視したことで、参加者に理解してもらうことができた。

試食前にレクチャーを入れたことで、昆虫食への理解がより得られた。

今後の課題

計画していた通りに進めることができなかった。特に、夏休みなど長期でMTができない間に、メンバーとコミュニケーションをうまく取れず準備が遅くなってしまった。

経験者からのメッセージ

自分一人で動くのではなく、二人以上で行動できると活動への理解や今後の方針が共有しやすいです。そのためにも、MTができるだけ、問題点を挙げて、協力者を早めに募った方が良いです。また、考えていることはできるだけ詳細に伝えましょう。

運営者側から見たパーティシパートの変化

最初はあまり理解してもらえませんでしたが、一度企画について話し合ったことで理解が得られ、協力的になった。

T-ACTに関する感想

十分すぎるほど、アドバイスがいただけました。これからも、多くの方のサポートをお願いします！

T-1グランプリ2016～つくばでお笑いライブを～ (16030A)

T-ACT プランナー 小林 陽一郎 (理工学群化学類4年)

活動内容

活動内容と目的

筑波大学は、他の大学に比べて『お笑いサークル』が少なく、お笑い好きが交流し、演芸活動をする場が限られている。そこで、「T-1グランプリ」というお笑いライブを開催し、お笑いを通じた学生の交流・発表の場を作ることを目的とする。

今年度の「T-1グランプリ2016」では「T-1グランプリ2014・2015」に続き、お笑い（漫才・コント・大喜利等）に興味がある人が演者・スタッフとして気軽に参加しやすいようなライブ開催・運営を行う。

また、昨年度に行ったお笑いの期末試験「第一回お笑いモジュール期末試験」（投稿型大喜利、その優秀回答の発表）を引き続き行い、同様のお笑いに興味がない人でも参加しやすい新しい企画作りを実行する。

団体の枠を越えた全学的なライブ運営はもちろん、最終的には、つくばから全国に広がるような笑いの祭典を開催する。

『筑波大学をもっと面白い大学に』を目標とする。

活動計画

- | | |
|-----|---|
| 6月 | 第1回ミーティング
第1次広報活動開始（ポスター・ビラ）
(エントリー募集とそれに伴うミーティング)
予算案の決定（資金集め）
会場の設定
新しい企画の審議 |
| 7月 | 第2回ミーティング
第1次広報活動（ポスター・ビラ）
第2回お笑いモジュール期末試験：問題作成
新しい企画の審議 |
| 8月 | 第3回ミーティング
第2次広報活動（ポスター・ビラ）
第2回お笑いモジュール期末試験：問題作成完了
新しい企画の審議と実行 |
| 9月 | 第4回ミーティング
第2次広報活動（ポスター・ビラ）
第2回お笑いモジュール期末試験：問題配布
新しい企画の審議と実行
ライブ準備開始 |
| 10月 | 第5回ミーティング
第3次広報活動（ポスター・ビラ）
第2回お笑いモジュール期末試験：問題配布
新しい企画の審議と実行
ライブ準備 |
| 11月 | 第6回ミーティング
第3次広報活動（ポスター・ビラ）
第2回お笑いモジュール期末試験：問題配布
新しい企画の審議と実行
ライブ準備
リハーサル |
| 12月 | ライブ準備
リハーサル
ライブ開催 |

活動期間

平成28年6月20日～28年12月20日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

○：三浦郁士（体育専門学群4年）、荒井怜奈（生物学類3年）、菊池ゆとり（知識情報・図書館学類3年）、倉澤保（生物資源学類3年）、池上雄紀（生物資源学類2年）、堀江冬芽（知識情報・図書館学類2年）、安藤悟史（社会工学類1年）、渡辺優花（社会学類1年）
 □：長谷川聖修（体育系）

活動報告

活動成果

2016年12月4日筑波大学サテライトオフィスにて、お笑いグランプリ『T-1グランプリ2016』を開催することができた。

例年、参加者が少ないことが問題とされていたが、今回は優勝賞金を設定することにより、例年より多くの参加があった。参加者は、お笑いなどパフォーマンスの経験がない方、経験はあるがやる機会がない方、筑波大学の学生、また他大学の学生、一般の方などであり、筑波大学に止まらない開けたお笑いグランプリを開催することができた。

また、『T-1グランプリ2016』と併催した大喜利ライブには、『T-1グランプリ2016』への参加者以外の参加があり、非常に大盛り上がりのライブになった。

加えて、より多くの方の参加を目指した投稿型大喜利『お笑いモジュール期末試験』では計100通程度の投稿があり、とても多くの方を本企画へ巻き込むことができた。この『お笑いモジュール期末試験』は、「お笑い」を一つの教科科目と考え、お笑いの期末試験を行おうとする企画であり、投稿して頂いた『お笑いモジュール期末試験』は全て採点を行い、その成績優秀者及び優秀解答を『T-1グランプリ2016』にて発表した。

当日の『T-1グランプリ2016』について、メンバーで司会、音響、照明、進行、記録、小道具、等の係を割り当て、ライブを滞りなくできるようにリハーサルを繰り返し行った。今回は学生以外の一般の方、また芸能事務所に所属されている方の参加があり一段と運営には緊張感があり絶対に失敗の許されない状況だったが、リハーサルの甲斐あり当日は問題なくライブを運営することができた。

ライブ終わりに、参加者の方から「楽しかった」「来年もやるなら参加したい」との声を聞き、運営、参加者共々、非常に意義のある楽しいライブだった。



ポスター表面案

T-1 グランプリ 2016

ライブエントリー概要

2016/07/19

エントリー期間 : 2016年8月1日（月）～2016年11月18日（金）

大会概要

T1グランプリは、つくばアクションプロジェクト(T-ACT)によって支援を受けプロデュースされた、お笑いライブです。T1グランプリ2014・2015に引き続き、今年度で3年目の開催になります。T1グランプリ2016では、お笑いライブを行います。今まで、漫才コンビ、コントトリオ、フリップネタをしたピンの方のエントリーがありました。

応募資格

- 1人以上
- パフォーマンスについて、以下の項目に該当しないこと。
 - ・政治的活動、また宗教的活動を目的とする。
 - ・著作権、著作隣接権等、第三者の権利の侵害、また侵害を助長する。
 - ・公序良俗に反する、誹謗、中傷、暴力、わいせつ等、一般に不快感を与える内容を含む。
- 企画進行にあたり、運営の指示に従って頂く場合がございます。スムーズな進行に、ご協力よろしくお願い致します。

応募方法

- 下記連絡先にて、参加者氏名（全員）・エントリー代表者連絡先（メールアドレス、電話番号）を記載して送信をして下さい。（団体連絡先、（代表者連絡先どちらでも構いません）
- 送信後、一度、代表者と参加者の皆さんには、参加者ミーティングに出席して頂きます。そのミーティングの出席をもって、エントリー完了とさせて頂きます。
- エントリーに関する料金は、ございません。

参加規定

エントリー期間 2016年7月9日(土)～2016年11月18日(金) 終日（エントリー期限を延長する場合がございます。また定員が限られていますので、お早めにエントリーをして下さい。）

実施日 2016年12月上旬（決まり次第、Twitter、広報にてご連絡致します）

パフォーマンス 時間 5分程度（前後する場合は、スタッフと相談をして下さい）

審査方法 当日来られたお客様に投票用紙を配布し、最も面白いと思った1組に投票をして頂きます。その投票の得票率が、最も高い方の優勝となります。

優勝賞品 3万円、その他副賞。

大会開催場所 茨城県つくば市内の開催になります。（詳細は決まり次第、Twitter、広報にてご連絡致します）

連絡先

- T1グランプリ団体 索 e-mail: t1grandprix2016@gmail.com Twitter: @T_1grandprix (DMにて)
- 代表 小林陽一郎 索 e-mail: s1310918@u.tsukuba.ac.jp

ご質問等、受け付けております。いずれかのご連絡先までお気軽にお問い合わせ下さい。

※ ポスター裏面案および大会要綱案（修正後）
 修正前は「応募資格」の上から3行目が「・政治的活動、また宗教的活動を主たる目的とする。」となっていた。

今後の課題

今後の課題として最も大きな問題は、予算についてである。例年はメンバーからの実費を運営費としていたため、今回は金銭協賛、またクラウド・ファンディングにより運営費を算出しようと考えた。しかし、運営の手が回らず、結果的に例年通りメンバーからの実費を運営費として使用し企画を進行した。今後は、運営費をどのように獲得するかを考えていきたい。

また、パフォーマンス参加者以外により多くの方に『T-1グランプリ2016』に参加、「お笑い」を体験してもらえるよう、『大喜利グランプリ』や投稿型大喜利『お笑いモジュール期末試験』などの企画を発案し、実行してきたが、今後はより「お笑い」への参加のハードルを下げた企画の実行が望まれる。

企画実行中は特に多くの問題は起きなかつたが、情報管理面で危惧される事態があった。参加者の個人情報の取り扱いについては、それにアクセスできる人を1人にするなど厳重な注意を払っていたが、参加者からの連絡をGoogleフォームにて行っていたため、その設定の誤りにより、責任者が意図しない企画参加者による情報の閲覧が可能となっていた期間がわずかながらあった。幸い指摘を受け、すぐに対応を行ったため、個人情報への被害はなかつたが、今後は個人情報の取り扱いについてより注意すべきである。

経験者からのメッセージ

アドバイスなどできる立場ではありませんが、決して1人で企画を進行しようとせず、常にメンバーと一緒に企画実行をすれば楽しく、とても良い企画になるのではないかと思いました。

T-ACTは漠然とした「やりたい」という気持ちを発散させるには、とても良い環境です。「好き」と「やりたい」が上手く噛み合って、それを一緒に実行できる仲間がいれば最高だと思います。

運営者側から見たパーティシバントの変化

初めて「お笑いライブ」というものに参加した方が多く、感想を聞いた所、「とても楽しかった」「もっとやりたい」などの嬉しい感想を聞くことができ、より多くの方が今後も「お笑い」を表現方法の一つとして考えてくられるのではないかと思った。

T-ACTに関する感想

特にございません。毎日、山のような印刷を無料で行わせて頂き、ありがとうございました。当日は、お借りした音響、パテーションなどを有効活用し、ライブをより良いものにすることができました。

つくば国際チェス交流会 (16031A)

T-ACT プランナー 山崎 陸 (理工学群工学システム学類2年)

活動内容

活動内容と目的

チェスに興味がある人、国際交流がしてみたいけれど話のきっかけがない・・・という方におしゃべりしながらチェスをプレイする場を提供したいと考えています。

チェスの楽しさを伝えること、言葉の壁を超えて友人を作ることを目標とします。

活動計画

場所：Student Commons

日時：10月16日13時から15時

内容：

はじめの30分ほどでルール説明をした後、雑談などしながらチェスをプレイして交流をします。

チェスセットは10セットで、最大規模で20人ほどを予定。

セットが足りない場合は、二人一組になってもらうなどの工夫をします。

英語、日本語のルール用紙を用意する予定です。

当日参加も可能です。

8月 計画の具体化、まとめ

9月 実行に向けた準備、広報

10月 広報

16日に開催

活動期間

平成28年7月18日～28年10月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：阿部裕太（数理物質科学研究科修士1年）

P：諸橋祐二（グローバルコモンズ機構／キャンパス・グローバル化部門）

活動報告

活動成果

Student Commonsにて、留学生とチェスを楽しむ会を開催し、留学生と英語で話しながらチェスをすることができた。

今後の課題

広報が足りなかつたように思うので、実際に行った広報以外にも方法を考える必要がある。

経験者からのメッセージ

私はこういった企画を運営したことがなかったので、当日よりもその前の企画自体がいい経験になりました。まずはやってみることが大切だと思います！

運営者側から見たパーティシパントの変化

参加してくれた留学生がチェスに興味を持ってくれて、チェスサークルに参加してくれるようになった。

T-ACT に関する感想

要望は特にありません。手厚くサポートしていただいてありがとうございました。

● 学生プレゼンバトル2016 (16032A)

T-ACT プランナー 鹿児山 陽平 (数理物質科学研究科 D1)

活動内容

活動内容と目的

筑波大学における科学コミュニケーションを促進する。

筑波大学は総合大学であるにも関わらず、異分野の学生同士が学問的な交流をする機会が少ない。

また、研究者にとって異分野の研究者や一般社会人に向けて自身の学問・研究についてプレゼンテーションする能力は必須であると言える。

これらの問題意識から、異分野の学生同士、および学生と一般社会人の科学コミュニケーションを促進する、学問・研究プレゼンテーションのコンペティションを開催する。

活動計画

8月 活動開始

雙峰祭で「学生プレゼンバトル2016」を行うと周知を開始する。学園祭実行委員会への登録、開催の準備はすでに進められている。

同時に昨年の「学生プレゼンバトル2015」の反省を踏まえてルールの改正や広報・参加者募集の案を練る。

9月中旬 プrezenバトルの要項公開。およびプレゼンター、口頭部門予選の審査員を募集する。

10月19~21日 中央図書館の入り口前教室で予選開催。本選出場者を3人（参加人数次第で増える可能性あり）決定する。

11月6日 本選の広報。学園祭当日に本戦を開催。そののち反省。

活動期間

平成28年7月25日~28年11月14日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：安藤潤人（システム情報工学研究科修士2年）、相関良紀（医学類4年）、阿部裕太（数理物質科学研究科修士1年）、川村浩晃（数理物質科学研究科修士1年）、讃井知（システム情報工学研究科修士2年）、菅原賢也（生命環境科学研究科修士1年）、高橋雄太（数理物質科学研究科修士1年）、長岡亜実（人間総合科学研究科修士1年）、松原悠（人間総合科学研究科博士2年）、宮本隆典（システム情報工学研究科博士1年）、山西凌平（社会学類3年）

P：野村港二（本部教育企画室）

活動報告

活動成果

学園祭本祭において本学大学生（学群生、院生）による研究プレゼンテーションのコンペティションを行った。本祭での“プレゼンバトル”を開催するために予選も行った。

目標達成度としては60%といったところ。宣伝を開始するタイミングから本戦までほとんど毎回トラブルが生じ、対策に奔走してしまった。もっと落ち着いて活動したかった。

今後の課題

トラブル→対処は速やかに行なったように思うが、ほうれんそうに構わず速攻で動いてしまうことが多かったため、スタッフが教室を動き回ってしまい観客にとっては非常にうつとおしいものになってしまったようだ。連絡系統を確実なものにしたい。

細かなミスが多かった。数え上げて丁寧につぶして、来年度の活動はしっかりとしたものにしたい。

経験者からのメッセージ

自分で新規に立ち上げる場合は、とにかくアドバイスを求めるべきです。T-ACT専任の先生でも、参考になりそうな活動をしていた先輩でも、サークルの先輩同期後輩なんでも。

新規でない場合は細かく引継ぎを行ってください。どんな仕事をしなければならないか？それはいつ？誰がやった？気を付けるべき点は？締め切りはある？過去の資料を流用できるか？などなど。

考えても考えすぎることはないです。

運営者側から見たパーティシパントの変化

途中で抜けたり入ったりが多かった上に、毎回全員参加ではなかったのでよくわからない。ただ、最初から活発に活動し、ぐいぐいみんなを引っ張っていくような人が多かったように思う。

T-ACT に関する感想

今回はとくにありません。

MENA Week (16033A)

T-ACT プランナー 嶋田 優奈 (社会・国際学群国際総合学類3年)

活動内容

目的

中東・北アフリカ (MENA: Middle East and North Africa) 地域に関するさまざまなシンポジウムやイベントを通じ、筑波大学の学生およびつくば市やその近隣に住む人々に対して、同地域の文化、社会、宗教等について広く伝え、同地域への理解を深めることを目的とする。

中東・北アフリカ地域は、テロや紛争といったネガティブな侧面ばかりがとらえられがちである。しかし、現地で暮らす人々も日本で暮らす私たちと同様に、日々の暮らしの中で家族や友人と語らい、食事をし、いろいろなことに喜び、笑い、怒り、涙し、暮らしている。本企画では、メディアではなかなか扱われることがない、中東・北アフリカ地域の多様な姿を伝え、当該地域に対する人々の心の壁を少しでも取り除くことを目指す。

概要

MENA Week とは、筑波大学の学生が主体で開催する MENA (Middle East and North Africa) 地域の文化を紹介する一連のイベントである。

11月16日から23日の期間で以下のイベントを行う。

イベント内容

1. シリア刺繡展示＆くるみボタン製作ワークショップ

シリア支援団体イブラ・ワ・ハイト様にご協力いただき、シリア刺繡をあしらったくるみボタン製作ワークショップを行うとともに、イブラ・ワ・ハイトの活動紹介を行う。また、大きめの作品をいくつかおかりして、シリア刺繡の展示スペースも設ける。

展示は常設し、刺繡の意味などの紹介も行う。

ワークショップは当日に2回開催し、参加は事前予約制とする。希望者にはバッヂリールやビンズ型バッジ、ヘアゴムも販売して、作ったくるみボタンを自分好みにカスタマイズしてもらう。

会場：筑波大学サテライトオフィス (Bivi)

<イブラ・ワ・ハイトとは>

シリア支援団体。イブラ・ワ・ハイトはアラビア語で<針と糸>。

長引くシリア紛争で生活基盤のすべてを失いつつある女性たちに収入の道を開くプロジェクト。そうした女性に制作資材を提供、刺繡製品を適正価格で買い取り日本等で販売しています。

団体 HP <https://www.facebook.com/lburawahaito>

2. アラブ料理を味わおう

アラブ料理を知ってもらい、食べてもらうための、アラブ料理販売と料理教室を企画中。

料理販売は、筑波大学生や教員に向けたイベントとし、中東・北アフリカ地域の大企画や筑波大学構内の「マルハバ」などと協働したものを企画中。

料理教室は、一般市民の方々に向け、学外施設をかりて、中東・北アフリカ地域のいざれかの国の料理を作り、食べる体験をしてもらうイベントを企画中。当該地域からの留学生や、近隣準民などに講師を頼む予定。

3. ワールドカフェ

会場にいくつかテーブルを並べて島をつくり、各テーブルに中東・北アフリカ地域からの留学生1人がつい



て、各テーブルで1つの問い合わせてもらう（抽象的な問い合わせが良い）。参加者はテーブルをどんどん移動して、また違う問い合わせる。最後に大きな模造紙・付せんを使って全体でシェアする。

4. 音楽イベント

① Sound Installation of Ambience of city in MENA

都市のアンビエンスを録音した音源を探し、それをバイノーラルで出し、インタラクティブな再生システムをつくる。

サウンドアートにおけるフィールドレコーディングの記録を探し、それを使って行う。インタラクティブなシステムの構築は、超音波センサーを使った距離測定で Arduino による制御を行う。視覚的なアプローチも考案中。スクリーンによる画像のインタラクティブな表示など。

cf: American Folklife center's archive

<http://www.loc.gov/folklife/guides/Iraq.html>

Field recorded CD in Tunisia

<http://www.ebay.com/itm/NM-TUNISIA-Tunisie-ethnic-music-field-recording-arabic-french-arion-ARN33693-LP-/331673627383>

samples of field recording (in Hague)

<https://soundcloud.com/thijs-geritz>

Arduino to Supercollider

<http://playground.arduino.cc/Interfacing/SuperCollider>

② 楽器をつくるワークショップ

チュニジアの笛や太鼓などをつくるワークショップを行う。ガスバという楽器が有力候補。3DCAD でモデリングした楽器を刷る or 竹などを使う。

参加者から、資材などのための参加費をいただく。

また、リズムのワークショップなども考案中。

5. ファッションイベント

中東・北アフリカ地域の伝統衣装を、参加者に試着してもらい、記念撮影をする。また、伝統衣装と当該地域の現代ファッション、その他復職事情をしることができる雑誌や留学生へのインタビューまとめなどの展示を行う。実物衣装のマネキンによる展示と、写真の展示の双方を行う。

ファッションという生活と密着した文化を通し、中東・北アフリカ地域に対する理解を深める・関心をもつてもらうことを目的とする。

会場：スチューデントコモンズ

6. ゲームイベント

テーブルゲームと言葉遊びゲームの紹介・解説・体験を行う。ゲームには地域性が反映される。中東・北アフリカ地域を知ってもらうきっかけとして、参加者に地域のゲームを体験してもらい、その文化的背景を考えもらう。



テーブルゲームとしては、ケーラムやマンカラを企画中。

会場：教室 or スチューデントコモンズ

7. カリグラフィーイベント

日本の書を比較対象としながら、アラブ圏の歴史を書を通して学ぶ。アラブ文化・アラビア語に親しめるよう、参加者に実際に筆を用いて書をしたためてもらう。日本にも通じる異国の書を学ぶことで、再帰的に自分自身の文化をも学ぶ体験とする。

外部から講師を招く予定。

会場：スチューデントコモンズ

8. 教室をのぞいてみよう～中東・北アフリカ～

中東・北アフリカ地域出身の方に、学校ではどんなふうに学ぶのか、テストはどんなものなのか、成績はどのようにしてつくのか、先生と生徒はどういった関係なのか、などの学校生活の様子を先生役になって話してもらう。

また、教育現場で使われる言語がどのような影響を及ぼしているのか、中東・北アフリカ地域出身学生などへのインタビューを通してまとめ発表をする。

また可能であれば、障害児教育に関して、当該地域の事情を知っている方をお呼びして、障害化学類の先生などとの対談を行う。

（どれか1企画に絞る可能性あり）

会場：教室 or スチューデントコモンズ

各イベント企画ごとに企画書あり。（現在作成中）

活動計画

8月 T-ACT申請

各イベントチーム企画を進める。

週に1度、各チーム進捗状況を代表まで報告する。

9月 各イベントチーム企画を進める。

10月までに企画内容を固める。

週に1度、各チーム進捗状況を代表まで報告する。

10月 各イベントチーム企画を進める。具体的な準備段階に入る。

定例ミーティング（週1）

11月 16日～23日 主イベント開催

活動期間

平成28年8月15日～28年11月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：印部仁博（人文学類3年）

P：小屋一平（グローバル・コモンズ機構）

活動報告

■活動内容

MENA (Middle East and North Africa) いわゆる“中東・北アフリカ”地域の文化紹介を行うイベントを、2016年11月13日～23日の期間に開催した。

【イベントスケジュール】

13日 MENA Week お料理企画第一弾 作って楽しい！シリアお料理教室！

16日 MENA の衣装を体験しよう

18・19日 ゲームから始まる MENA の世界

21日 MENA と学校 それぞれの学類生の見た「教育」

22日 MENA Week お料理企画第二弾 食べておいしい！アラブ料理パーティー

23日 シリア刺繡展示＆くるみボタン製作ワークショップ

■目標と達成度

中東・北アフリカ（MENA: Middle East and North Africa）地域に関するさまざまなシンポジウムやイベントを通じ、筑波大学の学生およびつくば市やその近隣に住む人々に対して、同地域の文化、社会、宗教等について広く伝え、同地域への理解を深めることを目的とした。中東・北アフリカ地域は、テロや紛争といったネガティブな侧面ばかりがとらえられるがちである。しかし、現地で暮らす人々も日本で暮らす私たちと同様に、日々の暮らしの中で家族や友人と語らい、食事をし、いろいろなことに喜び、笑い、怒り、涙し、暮らしている。本企画では、メディアではなかなか扱われることがない、中東・北アフリカ地域の多様な姿を伝え、当該地域に対する人々の心の壁を少しでも取り除くことを目指した。

イベントを通して、普段なかなか触れる機会の少ないMENAの料理や音楽、ゲームなど様々なコンテンツを体験してもらうことができた。また、参加者の方から実際に「“中東”は危険なイメージしかなかったけど、イベントを通して魅力を知ることができた」などの声をかけていただくこともあった。

■得られた成果

- ・参加者の方たちに“中東・北アフリカ”地域の多様性を伝えることができた。
- ・日本人学生と留学生、また周辺住民の方々との交流を生んだ。
- ・メンバーを募ることにより、新たなコミュニティの形成ができた。

今後の課題

まだまだ“中東・北アフリカ”=危険といったネガティブなイメージが根強いと感じる。そのため、少しずつでも当該地域の多様な侧面を知ってもらうためにこのような活動を継続していく必要性を感じた。また、個人的な反省であるが、メンバーが増えるにつれて個々に対するフォローアップが難しくなり、途中からミーティングにも来なくなったり連絡が取れなくなったりしてしまった人たちもいたので、もう少し全体を見る目を持つことや、各イベントリーダーを決めてそういう役割も分担するなど工夫をする必要があった。

経験者からのメッセージ

こうすれば良かったなど反省もまだたくさんありますが、企画をやって本当によかったと思います。やつていて特に必要だと感じたのが、プランナーが仕事をたくさんするよりも、いかに他の人を巻き込むかやモチベーションをつくるか、ということです。

一緒にやりたい人を募ってするT-ACTだからこそ、チームとしていかに最高のパフォーマンスをするか、ということが難しく、かつやりがいに繋がると感じました。

運営者側から見たパーティシバントの変化

どのイベントも、参加者の方々に楽しんでいただけている印象を得ることができた。

参加者の方たちから「こんな楽しいゲームがあるなんて知らなかった」や「こんなに料理がおいしいなんて知らなかった」などの言葉をいただき、参加者の方たちにとって“中東・北アフリカ”地域の新たな魅力を発見してもらえる機会を、少しは提供できたと感じた。



Omochi Language Club 2016 Fall (16034A)

T-ACT プランナー 大草 有里枝 (社会・国際学群国際総合学類2年)

活動内容

活動内容と目的

Omochi Language Club (以下 omochi) はお互いに言語を学びながら、本当に多種多様な人と出会うことができる場を提供します。留学生の友達がほしい、外国語の学習を充実させたいと考える日本人学生と日本に興味を持ってやってきてくれた留学生の架け橋になりたいと思います。ここでの出会いが言語交換だけにとどまらず、学生生活を豊かにし一生ものの友情をはぐくむきっかけとなることを目標とします。

活動計画

- 通常活動 毎週金曜日に学内の教室に集まり、一限目として日本語以外の言語（主に英語、参加者と希望次第でフランス語、スペイン語、中国語など）で会話しながら学び、交流を深める。その後二限目として同様に日本語で行う。
- 発展的活動 季節に応じたイベントを行う。
- 広報活動 10月までにポスターを作り直し学内に掲示する。

活動期間

平成28年9月20日～29年2月20日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：三田村美穂（国際総合学類2年）
P：宮本陽一郎（人文社会系）

備考

この活動に興味をもってくださった方は、<https://www.facebook.com/groups/Omochi2012/> から Facebook ページに飛び、グループの参加申請をしてください。活動の詳細な情報を得ることができます。

活動報告

活動成果

基本的には今までの活動を引き継いで、毎週金曜日の放課後に集まって言語交換を通して、日本人・留学生関係なく交流を深めました。またクリスマスは立食パーティー形式にして、言語を分けなかつたりグループを指定しなかつたりと、いつもとちょっと違う雰囲気の中、会話を楽しみました。留学生のリピーターは多く、毎週楽しみにして来てくれているのだなど実感することができたのが良かったです。運営も一人体制から三人体制にしたことで、視野も広がり運営を楽しむことができました。

今後の課題

活動のお知らせは今まで通り facebook を用いていました。このやり方はプライバシー保護と広報のバランスの中で本当に適切なものなのかと頭を悩ませています。今までの積み重ねもあり、どうすべきか迷っています。

経験者からのメッセージ

まず自分が楽しむこと、交流を深めようとする事が大事なのだろうと思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

一度この活動を気に入ってくれた人は何度も活動に参加してくれていました。また、この活動外でも個人的に交流を深めている人も多く、やはりこの活動は健全かつ貴重な出会いの場になっていたのだなと改めて感じました。活動が一時休止となった際は、たくさんの留学生からいつ再開するのか、Omochi がなくて寂しいという声をもらいました。それだけ参加してくれている学生（特に留学生）にとって、学生生活（留学生活）を彩るものであったのだなと知り、この活動はやはり続けていくべき活動であると思いました。

TEDxUTsukuba 2016 (16035A)

T-ACT プランナー 山中 哲太 (理工学群社会工学類3年)

活動内容

活動内容と目的

筑波大学の研究者やOB、学生など筑波大学にゆかりのある方々を講演者としてお招きし、講演会を開催します。

TEDx とは、「Ideas Worth Spreading (価値あるアイディアを広めよう)」という価値観のもと、厳選された講演者による講演や TED Talks の鑑賞を中心に世界中で行われているイベントです。

TEDxUTsukuba はの TEDxTsukuba の血を引き継ぎ、2016年度に発足しました。

TEDxUTsukuba は UTsukuba=University of Tsukuba とあるように、筑波大学の中に溢れる価値あるアイディアが、人々とのつながりを通して広がっていくような場所を目指しています。

この目標を実現するために、イベントのコンセプトを「joyn'」にしました。joyn' は join= 参加する、 joint= つながる、 joy= 楽しむという意味です。

イベントに参加し、人々とつながり、アイディアの広がりを楽しむ、そして価値あるアイディアが形になっていく、そのようなイベントにしたいと思っています。

活動計画

- 7月 チラシ・ポスター配布に向けて広報活動の方針固め
HP、twitter、FB、PVによる団体・イベントのPR
講演者、協賛者の検討 & 交渉
- 8～9月 講演内容検討、交渉
- 10月 チラシ・ポスター配布開始
講演者・協賛者の最終決定 & 講演内容、協賛内容の決定
チケットの販売開始
- 11月 リハーサル
本番（会場は医学系イノベーション棟 8 階講義室を予定）
- 12月以降 イベントの振り返り（反省と今後の方向性）

活動期間

平成28年7月1日～28年12月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：岡元紀（心理学類3年）、クレイグ聰良（生物資源学類1年）、鈴木隆也（工学システム学類1年）、北川りさ（芸術専門学群2年）、佐々木美樹（地球学類2年）、荒川和基（化学類2年）、松田ひかり（工学システム学類2年）、山中万里（工学システム学類2年）、水野宗太郎（社会学類3年）、石川椋太（心理学類3年）、塚崎浩平（社会工学類4年）、芦村拓哉（社会学類3年）、橋爪智（情報メディア創成学類4年）、服部暉（生物資源学類4年）、照屋心之助（生物資源学類4年）、藤井梨紗（人間総合化学研究科修士1年）、山本詢（社会学類1年）、川村尚（生物資源学類1年）、天野雪菜（生物資源学類1年）、齊藤悠香（生物資源学類1年）、大曾根宏幸（メディア創成学類1年）、Oshadha Amarasekara、Doniyor Umarkhujaev、Franca Kim、Ran Jiang、WanCheng Oh、Katia Bmn

P：五十嵐浩也（芸術系）

活動報告

活動成果

本団体は、TED の理念に則り、また、TEDx の規約に従い、筑波大学やつくばの地にあふれる価値あるアイデアを広め、社会に貢献するという目的を達成するために、11月27日に筑波大学初の TED カンファレンスを開催した。開催にあたっては主に筑波大学関係者で、多様なアイデアをお持ちの5人のスピーカーにご登壇いただき、ご自身のアイデアや実績をお話していただいた。イベント後のアンケートからも、「今までになかった視点が得られた」「刺激を受けた」など、多くの方から称賛の声をいただくことができた。初の試みであることも踏まえ目標はおおむね達成できたといえる。

スピーカーの選定、会場や機材の手配、幾度となく練り直されたイベント構成づくり、協賛の渉外活動、外国人参加者のことを考えトーク中に翻訳もつけるといった試行錯誤等、ただ大学生活を送っているだけではなしえない経験や苦悩を半年間で潜り抜けてきた。イベントに至る過程で、筑波大学初という手探りながらの活動で

オーガナイザー一人ひとりが成長できたと感じた。また、発足から半年という短い期間の中でも留学生のオーガナイザーが増えたことも成果の一つである。今回イベント開催にあたり、上記の TED の理念に沿った目的と並行して、参加者・スピーカー・オーガナイザーすべての関係者が成長できるプラットホームとなる活動にすることという目標を掲げていた。オーガナイザーが互いに知恵を出し合い、共同してイベントを成功に導けたこと、学生主導の活動で留学生も巻き込みながら世界に発信できるカンファレンスをつくりあげることができたことは大きな自信になった。

今後の課題

参加者全体の満足度は期待に沿うものであった一方で、少数意見として段取りやスタッフの対応についての至らない点についての指摘もあった。全体の満足度に満足することなく、すべての参加者に私たちのイベントで少しでも成長を感じてもらえるよう、細かい部分についても徹底していきたい。

広報面においても不十分であった。来場者は100名を目標に広報活動を行っており、毎週のようにチラシ配りや SNS で情報を発信していたもののチケットの購入者は83名、実際に足を運んでいただいたのは67名となった。広報の量自体も十分ではなかったし、当日小雨とはいえ来場者が減ってしまったということから、広報においてイベントの魅力をきちんと伝えられていなかったということが分かった。広報担当者を中心としつつも、オーガナイザー総出で広報手段を考え、広報活動をしていきたい。

イベントまでの準備期間では、組織づくりが課題となった。広報・デザイン・渉外等、担当に振り分けて活動していたものの、スキルや熱量の違いから数人に負担が偏ってしまうことが多かった。今後は組織改革を進める同時にリクルート活動にも力を入れ、一人一人が自分の持ち味を發揮し、成長していくような環境づくりをしていきたい。

経験者からのメッセージ

初めての企画づくりは困難なことが多いです。何から始めればいいのかわからない手探り状態で、人間関係や組織づくりも頭を悩ませます。しかし、それらにがむしゃらに取り組んでやり遂げたとき、振り返ってみると半年前の自分から成長していることに気づくはずです。T-ACT の教職員の方々は非常に新味になってアドバイスしてくれますし、T-ACT のサポートは一般学生団体ではなかなか受けられない手厚いものです。環境をうまく活かしつつ、目標に向かって取り組んでください。

運営者側から見たパーティシパントの変化

TED カンファレンスに足を運ぶ参加者は、新しいアイデアに触れ価値観や知見を身につけたい、成長したいと考えている方が多い（証明する客観的証拠はないが、実感として TED カンファレンスの参加者は熱意がある方が多い）。こういった方が多く集まるこの機会を活かすべく、イベントの中で参加者を 5～6 人 1 組グループに分けてワークショップを行った。このワークショップはあらかじめ設定された日常的な前提から、参加者のアイデアによって壮大なアクションへと飛躍させるといったものだった。出身、専攻、職業、社会的地位など、立場が自分とは違う人たちとこういったワークショップを行うことで、新たな価値観やつながりを見つけられた（はず）。

T-ACT に関する感想

いろいろご迷惑をおかけしました。

技術交流 LT#2 (16037A)

T-ACT プランナー 和田 朱里 (理工学群工学システム学類3年)

活動内容

活動内容と目的

この企画は「技術交流 LT」の継続イベントになります。

目的は前回とほぼ同様になります。筑波大学において学生と教師・研究者の先生が交流するイベントは多くありません。このイベントでは、どんな人がどんなことをやっているのかを Lightning Talk によって知り、その後の交流会により自分のコミュニティを広げ、新しい人材発見の場としていただくことが目的です。

また、研究やものづくりにおいて、自身の持っていない知識や視点から見ることで新しい発見があればと思っています。

活動計画

9月（夏休み時期）企画（日付決定・場所決定・登壇者呼びかけ）

10月・11月上旬 本格的な宣伝活動・事前準備

11月21日 技術交流 LT (LT の後に残り時間で交流会を行う)

開催場所：3A402（また、USTREAM にて配信予定）

開催時間：18：30～20：45ごろ（21：00には撤収完了予定）

タイムスケジュール（当日の動きについて）

18：30 LT 開始（一人8分から10分程度でプレゼン。今回も前回同様6名～8名を予定）

LT 終了次第：交流会の部屋（前回同様部屋を変えるか検討中）にて交流会を開始。20：45になつたら撤収作業を行う。

21：00 撤収完了予定

LT のテーマ：VR、ARを中心とした科学技術

登壇者予定：

落合陽一様（筑波大学図書館情報メディア系助教）

星野准一様（筑波大学システム情報工学研究科知能機能システム専攻准教授）

（以上二人については確定）

残りの登壇者については現在未定です。

予定としては学生の方をこれからお呼びする予定です。

学外の方は検討中です。

登壇者の声掛けは目安として9月中には行う予定です。（最長でも10月上旬中には完了する見込み）

活動期間

平成28年9月18日～28年11月21日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：根本晃輔（情報科学類4年）、南條陽史（メディア創成学類3年）、二井矢航（工学システム学類2年）、佐藤大哲（情報科学類1年）、塩田光彦（情報科学類1年）

P：善甫啓一（システム情報系）

活動報告

活動成果

2016年11月21日18：40より3A402にて技術交流 LT #2を開催した。

参加者人数は前回（50人程度）を下回っているようであったが、交流会に参加した人数は前回よりも多くなった。

今回は前回とは異なり参加者アンケートを実施しなかった（個人情報の問題から）。

広報活動の実施内容として、公式のSNSアカウント（twitter）を取得し宣伝を行った。また、T-ACTみんなで創ろう『つくばアクションプロジェクト』にて100人程の学生にプレゼンによるイベントの紹介を行った。更に学内電子掲示板に映像の放映をした。

本イベント目的である「技術交流」においては、交流会への参加者人数が前イベント参加者より増加したことから十分達成したと考えられる。

また、得られた成果は、前回に引き続き参加した方がいた事から今後も安定した参加者を獲得できる可能性が高いことである。

参加者から「長く続くイベントだと思った」という意見を頂き、安定した運営が出来始めたと考えられる。運営としての成果は、今回より運営人数が増え活動の幅が広がったことである。宣伝に於いては公式の SNS アカウントを取得・運用を行えた。

今後の課題

知名度はまだまだ低く、宣伝を行わないと参加者を集めうことが出来ない状況であるため、今後も宣伝・知名度向上に向けた活動を行う必要がある。

アンケートを実施しなかった為、参加者の満足度や改善点などの情報不足となってしまった。

SNS を始めたばかりのため、拡散力が少なかった。

経験者からのメッセージ

当日になってから気づく準備不足や問題が多々あります。また、予期せぬトラブルも頻発します。何か問題が起きたら焦らず周りに相談しましょう。

運営者側から見たパーティシバントの変化

前イベントよりも積極的に技術交流に参加していた。

「春日講堂で演劇を」プロジェクト (16038A)

T-ACT プランナー 山本 通正 (知識情報・図書館学類4年)

活動内容

活動内容と目的

今現在筑波大学には演劇系サークルがいくつも存在しているが、その本拠地はどれも天王台キャンパスである。そのため、春日キャンパスの学生は演劇に触れる機会があまり存在していない。また、春日キャンパスには春日講堂という演劇を行うに適した施設を有しているが、近年その施設で演劇を行うことがなかった。これらの状況から、春日講堂で演劇を行い、春日キャンパスの学生が演劇に触れる機会を作りたいと考えるようになった。

上記のような背景から、この企画は「春日講堂で演劇を行うこと」という最終目標を設定した。

活動計画

内容：

演劇の公演、およびその練習、準備（舞台美術や衣装などの作成、脚本、宣伝ビラやポスターの作成など）

連絡方法：企画内メンバーでの連絡方法についてはメーリングリストを作成する。

場所：公演は春日講堂で行う。

練習および準備に関しては主に学内教室を使用

学内教室が使用できない場合（全学停電や集中講義等）は近隣公民館を使用し移動は自転車ないしは公共交通機関を使用する（その際集合場所などの告知について留意する）

9月20日付近 メンバーの顔合わせおよび脚本（および今後の動き方についての）会議

10月1日～公演日 練習（週3～4日程度を予定、学校内教室や公民館を使用）

ミーティング（週一度程度）

そのほか準備（必要に応じて）

1月下旬 公演

2月初旬 公演予備日および反省会

活動期間

平成28年9月20日～29年2月15日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：横田望（心理学類4年）

P：藤桂（人間系）

活動報告

活動成果

活動内容：春日講堂で演劇を行うための準備及び交渉

目標達成度：40%

達成度：講堂の使用交渉→失敗

台本の作成→完成

演劇の練習→役者の演技力向上

今後の課題

春日講堂使用に関して筑波大学春日学生支援室総務への根回しおよび確認

T-ACTの先生との協力

経験者からのメッセージ

春日講堂を使用するために支援室の方に連絡する際は、必ず、はやめに事前に連絡することと、学生だけではなくT-ACTの方およびパートナーの先生とともに連絡をしたほうが良いです。

運営者側から見たパーティシパートの変化

演劇との向き合い方および演劇の能力の向上

T-ACTに関する感想

今後の春日講堂使用者の力になって差し上げてください。

分野の垣根を越えた「人」の輪を広げる ACADEMIC PARTY! (16041A)

T-ACT プランナー 青山 俊之 (社会・国際学群国際総合学類4年)

活動内容

活動内容と目的

2015年に起きた「文系学部廃止論争」や日々のニュースでも見られるように、「学問そのもの」や「学問の意義」などは、専門性の中にかき消されてしまいがちである。

そうした状況はそれぞれのポジションの外に出ていけない空気感を生み出し、そこから生まれるのは先程あげた個々のポジショントークになってしまう。

そうした状況を打破するには、それぞれの理解を促進する必要がある。そのためには、各学問のディシプリンを理解し、お互いの目的や目標をすりあわせていくことが必要になってくる。

そこで、まずは分野は違えど知的好奇心を持つメンバーを集め、交流を促進するためにリアルな場を提供することが本企画の目的である。

活動計画

内容

場所：Bivi2F 交流サロン・筑波大学サテライトオフィス

日時：2017年1月中旬 (16:00~18:00)

立食パーティー：軽食・飲み物を用意し、それらを囲みながら異分野間交流をしてもらう。「激選おすすめ本リスト」を配布し、周りに本を配置し、会話のネタにしてもらうよう工夫する。

トークイベント：テーマ「学問と社会（仮）」について集まって頂いた大学院生（男性3名女性3名）に3つほどの質問を行いながら自由に討論して頂く

ライトニングトーク：有志の方を募り、5分間のプレゼンを2、3人の方にしてもらう。バトル形式にするかは検討中。

ポスターセッション：有志の方に簡単なポスターを作成して頂き、ポスターセッションの時間を設け、学際間交流を促進する。

11月 トークイベント登壇者へのアポイント、日程調整

12月 日程調整をした上で Bivi 交流サロンの予約を完了させる

1月 開催に向けた準備

※

・広報活動はウェブメディアで記事を更新しながら SNS にて拡散して行い、ポスターも作成する。

・内容は集まった登壇者にもよるため、随時調整を行いながら詰めていく。

活動期間

平成28年11月1日～29年1月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：阿部夏実（国際総合学類4年）、加藤太一（国際総合学類4年）、大平拓実（国際総合学類2年）、寺島菜生（国際総合学類1年）、山口琉歌（国際総合学類1年）

P：大澤博隆（システム情報系）

活動報告

活動内容

プランナーである青山が運営する学術メディアを中心に、ACADEMIC PARTYに参加して頂ける参加者にインタビュー取材を行い、登壇者に対する理解を深めると同時に広報活動を積極的に行った。イベント当日は会場設営の準備や司会進行を行いつつ、スムーズな進行となるよう意識して運営に取り組んだ。

目標達成度

スタッフを除いて、30名の参加者を集めることを目標に活動した。登壇者の方々が8名、その他参加者が28名と合計36名（スタッフ込みで42名）が集まり、目標を上回る参加者を募ることができた。

成果

当日の参加者から、「楽しい」「刺激的だった」との声を聞くことができた。今回、敢えて「パーティー」と名づけて、辛気臭くならない学術交流会を開けたらと思い開催したこともあるって、初回のイベントとしては十分な成

果を挙げることができたのではないかと感じている。

今後の課題

オーガナイザーの5名は当日スタッフとして協力を要請して集まって頂いた。しかし、当日の会場設営など思うように回らず、結果、登壇者との打ち合わせが伸びてしまったりなど、準備不足や不測の事態の対処にやや戸惑った。今後、イベントを行う上では、もう1人・2人はプランナー以外にも状況を理解して動いて頂けるよう、事前の声がけの段階から改善していく必要を感じた。

経験者からのメッセージ

活動を行いながら、「もっとこうしたら」というアイディアがたくさん出てくることもあるかもしれません。しかし、こうしたことすべてやろうとすると精神的にプレッシャーもかかり、なによりそもそも行おうとしていた活動自体が疎かになってしまう可能性もあるかと思います。まずは、当初の企画段階からできるだけ練り込むこと、その上でスタッフの人数、個々・グループでできることを意識し、戦略的に活動することが企画成功の秘訣なのかもしれません。

しかし、戦略ばかり意識して行動できなければどうしようもありません。その際、「とにかくやってみる」精神も大切です。そして、できないことがあれば人の助けを借りられるように声を大きくしていく。これら精神を携えて活動できれば次第に活路は開けると思っています。

運営者側から見たパーティシバントの変化

プランナーとして参加者に関わる機会を十分に取ることができませんでしたが、刺激的だったとの声を聞いて、何かしら意図したものが伝わったのではないかと思っています。

T-ACTに関する感想

さまざまな相談に乗って頂き、大変助かりました。金額にすればそこそこかかる印刷もタダで行わせて頂き感謝しています。

リアル謎解きゲーム (16049A)

T-ACT プランナー 石川 拓也 (知識情報・図書館学類3年)

活動内容

活動内容と目的

都内でよく開催されている謎解きゲームに参加することが好きで、自分でも作ってみたい、と思ったことがきっかけです。

つくば近辺には謎解きゲームは開催されていないくて、イベント自体を知らないという方も多いので、謎解きゲームの楽しさをつくばにも広めていきたいと思っています。

このイベントを楽しんでもらうことはもちろん、イベントを通じて謎解きゲームに興味を持つ人が増えれば、と思います。

活動計画

【スケジュール】

12月中：担当教員の依頼、ビラ作成、コンテンツの作成

1月中：活動場所の確保、参加者集め (SNS による拡散、ビラ配り)

2月17日：イベント開催

【場所】

開催場所は教室を借りて行う予定です。具体的にどこの教室で開催するかは、開催日にお借りできる教室を今後、担当支援室と交渉していきたいと思っています。もし可能であれば、2つ教室を借りようと思っています。

【募集人数、対象者】

基本的に筑波大学を対象としていますが、他大学の方が希望された場合は参加を許可しようと思っています。
募集人数は50～100名を予定しています。

たくさん的人に興味を持ってもらい参加してもらうために、某テーマパークチケット等の景品を用意する予定です。その経費のため、参加者から500円ずつ徴収しようと思っています。もし景品にかかる費用よりも徴収した費用の方が多くなった場合には、上回った分を募金に回す予定です。また、参加者が予定人数よりも少なく、運営経費が参加費で賄えない場合には運営スタッフが負担します。

【当日スタッフ】

最低予定人数：2人

予定希望人数：4人

現在4人のスタッフで当日は回していくことになっています。

【役割】

司会進行：2人

謎解き中の質疑応答：全員

【当日の流れ】

イベントは半日で終わる予定です。

今のところの予定としましては、以下のようになります。

14:00 教室集合、受付、注意事項、ゲームの説明

14:40 ゲーム開始

15:30 ゲーム終了、答え合わせ

16:00 解散

【イベントの内容】

第4学群に入学せよというミッションを与えられた参加者たちが、地頭を使って解くような（ひらめきを必要とするような）謎を解きクリアを目指すというゲームになっています。具体的な内容としましては、スタッフが開始時に紙面で配布する謎を解き、その謎が解き終わったグループからスタッフに報告し、次のステージに進み、（次の謎をスタッフが配布）そのステージの謎も解くことが出来たらクリアとなるような構成となっています。また、紙媒体で謎を配布するだけでなく、謎を隠す場合も考えていて、隠す場合はその教室内の備品を壊したりすることのないように、ゲームを始める前にそういった場所には隠していないことを十分に注意して始めたいと思います。（隠す場所の例：机の側面にテープで張り付ける等）危険な場所に謎を隠したり、体を動かしたり

りといった、けがの恐れのあることはありません。また、謎には特定の人物や風潮を批判したりするような内容のものもありません。

活動期間

平成28年12月5日～29年2月28日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：奥野翔太（情報科学類3年）

P：北将樹（数理物質系）

活動報告

活動成果

筑波大生を対象に、1H101と1H201の教室を借りて、リアル謎解きゲームを開催しました。当日は80名の参加者に来てもらい、さらにその9割以上の参加者がアンケートに満足した・また参加したいと答えてくれました。当初の目標は、100人の参加者を集め、満足度の高い公演にするというものだったので、目標達成度は約8割だと思っています。

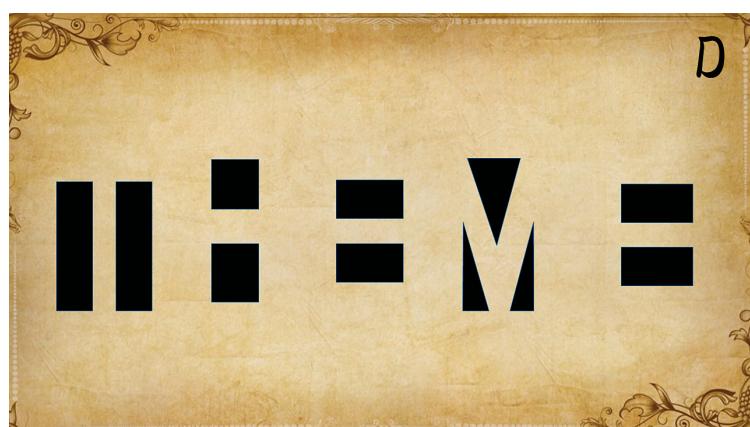
また、チームメンバー意見のぶつかり合いになり、大変な時期もありましたが、そういった壁を乗り越えられたことが、満足度9割越えのコンテンツを作成出来た要因だと感じております。当日公演が終わった時に、「本当に楽しかった」「また開催してください」と声をかけてもらえた時は心の底からやりがいを感じました。

今後の課題

スケジュール管理に最も苦労しました。開催までに時間が無く、すごく詰め込んで作業していた時期がありました。また、メンバー内でスケジュールを上手く合わすことが出来ず、リハーサルを実施した時も、1人でリハーサルを行いました。その結果、当日の運営が少し拙くなってしまったのは次に生かすべき反省点だと思います。



謎解きゲームのはじまり



問題の一つ

経験者からのメッセージ

何かを成し遂げるための過程では、楽しいことばかりでなく辛いことがたくさんあると思います。ただ、辛いことを乗り越え、自分が目指していたゴールに辿り着いた時は、何にも代えがたい達成感が得られると思います。頑張ってください。

運営者側から見たパーティシパートの変化

このイベントによって、大学生活での楽しい思い出を多少なりとも増やすことが出来たと思います。

T-ACTに関する感想

色々相談に乗っていただきありがとうございました。助かりました。

知的障がい者サッカークラブ アシスタントコーチ (16001V)

受入団体名：牛久チャレンジドフットボールクラブジョイア (14006G)

活動内容

- 療育手帳、精神障がい者手帳を持つ社会人21名が活動するサッカークラブです。
- ・月1回の練習会でのメインコーチ (つくばFC) のアシスタントコーチ
 - ・サッカー教室でのメインコーチ (NPO法人トラッソス) のアシスタントコーチ
 - ・大会参加時 (茨城県内、東京都) の帯同 など

活動実施日(期間)

毎月第1or第2日曜 他

参加学生

T-ACTボランティア：1名 (3/12)

活動報告

●受入団体担当者

アシスタントコーチとして、動き方のモデルになったり、メインコーチの全体説明後、個別に補足説明したり、一人一人が理解できるよう支援してもらいました。選手と一緒にゲームを楽しみ、準備・後片付けも積極的に関わってくれました。練習後の茶話会にも参加し、他のボランティアスタッフ、選手、コーチ、選手の家族達と積極的に交流してくれました。

●学生参加者：匿名希望 (図書館情報メディア研究科 研究生)

活動の成果

知的障害者とサッカーをやったり、コミュニケーションしたりして、スポーツを楽しめます。これからは、知的障害者の皆様が楽な気持ちでサッカーを楽しむことを目指します。

今後の課題

皆と仲良くしていきたいです。皆様の顔と名前が覚えにくいですが、責任者の方に皆様の名前が付いている写真を送っていただきました。また、サッカーが上手に出来ないから、皆に迷惑をかけることが気になります。



活動の様子

トワイライト音楽祭2016 よろずの灯り (16006V)

受入団体名: 研究学園グリーンネックレス (16002G)

活動内容

研究学園駅前で過去2回開催している音楽祭で、例年の参加者は600名を超える賑わいで年々認知度が高まっています。音楽祭の内容は以下のような内容です。

- ①地元ミュージシャンを中心に5グループ以上のミュージシャンが参加するコンサート
- ②竹灯ろう（約500個）の点灯
- ③竹ドームへの短冊の飾りつけ など

音楽祭開催当日（7月30日予定）は当然ながら、竹灯ろうの作成に参加していただきたいと思います。

竹灯ろうの作成の協力依頼は以下のような内容です。

- ①竹やぶから竹の切出し（約50本）
- ②のこぎりを使用した加工（竹灯ろう500個）
- ③切り口のヤスリかけ
- ④イーストでの子供による竹灯ろうへの絵付け（例年子供たちに人気有） など

活動実施日（期間）

6月19日～7月30日 音楽祭 7月30日

参加学生

T-ACTボランティア：14名（盆踊りプロジェクト一盆 LIVE—14名）

6月19日 10名、6月24日 4名、6月25日 3名、7月1日 3名、7月2日 4名、7月3日 9名、7月16日 8名、7月17日 8名、7月18日 8名、7月30日 10名 延べ67名

その他：9名（CR竈プロジェクト）

活動報告

●受入団体担当者

トワイライト音楽祭に展示する、竹灯籠、竹ドームの作成工程の竹切、加工、子供たちによる絵付けの全ての工程に参加いただくと同時に、トワイライト音楽祭当日の展示、警護などに積極的に参加していただきました。昨年までは研究学園グリーンネックレスのメンバーが中心となって行っていましたが、今年は盆 LIVE の皆さんを中心となった感じで大変な活躍でした。

代表の杉山さんを中心に会の役割分担に基づき各自が役割を果たしていました。また、最初に作り方などを教えると後は安心して任せることができ大変助かりました。今回の行事を切っ掛けにお互いにコラボレーションを図つて相乗効果が出るような活動につなげたいと思っています。

●学生参加者：杉山萌依子（比較文化学類 3年 ※盆踊りプロジェクト一盆 LIVE—）

活動の成果

トワイライト音楽祭に飾る竹灯籠の加工から、ワークショップの実施、及び当日のスタッフとして活動。いずれにおいても、イベント運営に必要な知識や人脈のご紹介など、活動そのものの経験だけでなく派生する知識や成果を得ることが出来た。同じ研究学園地域で活動する者として、地域の方と良いご縁が出来たことが大きな成果である。



竹灯籠作成の様子



イーストつくばでの竹灯籠の絵付けの様子



音楽祭の様子（筑波大学インドネシア留学生）



竹灯籠点灯の様子

今後の課題

先方にお世話になることが多い、多くの面で支援して頂いた為、今後は自身のプロジェクトも貢献できるように経験を積み、アイディアの創出に努めたい。また、互いの活動が協力しながら将来発展していく為にも、こちらの活動を長く続けていく工夫が必要。

その他

盆 LIVE でも竹灯籠を飾らせて頂くことになりました。

鹿嶋市フロンティア・アドベンチャー (16007V)

受入団体名: 鹿嶋市教育委員会事務局 社会教育課 (15006G)

活動内容

[目的]

自然の中で、長期の原生活体験をとおして、生きる力、忍耐力、自立心、協調性を養うなど、青少年の心の豊かさやたくましさを育むことをねらいとします。

[事業構成員]

○鹿嶋市内小学校 5、6 年生 (70人)

○高校生・大学生・一般ボランティア・教職員及び鹿嶋市職員 計 約150人

[大学生の役割]

隊員（小学校 5、6 年生）やサブリーダー（高校生ボランティア）とともに生活し、11日間の活動プログラムをとおして起こるさまざまな課題を、サブリーダーとともに考え、隊員たちが自発的に行動できるように導くための助言やアプローチを指導者の立場でサポートします。

活動実施日(期間)

7月26日（火）～8月5日（金）

参加学生

T-ACT ボランティア：1名

活動報告

●受入団体担当者

鹿嶋市内小学生（5・6 年生）70人、高校生ボランティア19人とともに、国立那須甲子青少年自然の家（福島県西郷村）において、「生きる力」「忍耐力」「自立心」「協調性」を養うなど、青少年の心の豊かさやたくましさを育む自然体験活動を実施しました。隊員（小学校 5・6 年生）やサブリーダー（高校生ボランティア）とともに生活し、11日間の様々な活動プログラムをとおして起こる課題を、サブリーダーとともに考え、隊員たちが自発的に行動できるように導くための助言やアプローチを指導者の立場でサポートし、参加した誰もが達成感を味わうための活動を担っていただきました。

活動の詳細については、『鹿嶋市フロンティア・アドベンチャー』ホームページからご覧いただけます。

URL : <http://kashimashi.info/adventure/>

●学生参加者：薛承哲（システム情報工学研究科 2 年）

活動の成果

キャンプの主旨は、思いをもって参加し、人との関わりを通して、誰もが達成感を味わえること。ゲームの用意や遊び場の下見や火起こし器の点検など、子供たちの喜びのためにいろいろと努力した。最初の炊さんでみんな何もできないところからスタートして、最後には大人が協力せずにできるようになったことも、大きな成長だ。最後の解団式で、みんながキャンプで楽しかったことを聞いて、成長した顔をみて、どんな苦労してもやる甲斐があると思った。

今後の課題

初めて指導者として子供たちと過ごして、しかも他はほとんど先生や役者で、僕が言った言葉が正しいかどうかや行動と日本の習慣や価値観にあってるかとか、けっこういろいろと悩んでいて、まるごとの自分を出していかなかった気がした。

その他

那須連山が大変だけど、楽しかった！野宿の天の川も人生初で楽しかった！



那須連山登山の様子



いわなつかみ取りの様子

Startup Weekend Tsukuba (16008V)

受入団体名 : Startup Weekend Tsukuba (16004G)

活動内容

米国発祥の起業家育成プログラム、Startup Weekend をつくばで広げるために活動しています。このプログラムは金曜の夜から日曜の夜にかけての54時間で行われます。

日本では年40回を各地で開催

NPO 法人 Startup Weekend (東京都渋谷区) は、米国 UP Global の日本法人の位置づけとなります。日本に2009年度から導入され、これまでに約100回を実施しております。日本に起業家が生まれる文化を育てて生きたいという思いのもと、現在多くのボランティアが SW の活動を支えております。2014年は全国各地で40回以上実施しており、そこで生まれたサービスをもとに起業されたり、インキュベーションプログラムを受けられたりと、起業家として次のステップへ進まれている方も多いです。中には Yahoo などの企業に買収されている方もいらっしゃいます。SW は日本で多くの起業家を作り、日本を元気にする活動をしております。

つくば市では2015年10月に初開催

去年の10月に第一回 Startup Weekend をサイエンスインフォメンションセンターで開催。つくば市、つくばグローバルイノベーション推進機構等後援をいただき、成功裏に終わった。その後、起業した参加者（当時高校生）もあり、社会的に良いインパクトを与えたと考えております。

スタートアップウィークエンドを運営するにあたって、ボランティアの方には以下、二つの事柄をお願いしたいと考えております。どちらも社会人になってからとても役に立つ経験だと思いますし、この活動で得たつながりはきっとこれから皆さんの人生にとって有益だと思います。スタートアップウィークエンドコミュニティは全世界の存在しております。シリコンバレーのような起業家が日夜生まれている場所から、イラン・イラクなど中東の国まで行われており、このボランティア活動を通して、みなさんはこのコミュニティにアクセスするカギを得る事ができるでしょう。

【内容】 PR 活動 Twitter や Facebook 等ソーシャルメディアを使った PR 活動。つくば内の関係機関や身内の方へ宣伝。他良いアイディアがあれば自発的に提案していただき、チームを巻き込んで行動する。

【当日の運営】 具体的には、写真撮影しそれをソーシャルメディアにアップロード。参加者の食事の手配。

活動実施日(期間)

平成28年 5月27日～29日

参加学生

T-ACT ボランティア : 1名

活動報告

●受入団体担当者

ボランティアである安保さんには以下のプロモーション活動を行っていただきました。チームの中で大変活躍していただきました。もし、彼がいなければイベントは失敗に終わっていたかもしれません。非常に助かりました。

① SWT ボランティア T シャツ、FaceBook や
公式 HP ロゴデザイン

② T-ACT 登録調整

③ TCC (つくばクリエイティブキャンプ) でイベントの告知や学内でのチラシ配布 等

●学生参加者 : 安保大樹 (システム情報工学研究科 M1)

活動の成果

筑波大学総合研究棟 B で開催された「Startup Weekend Tsukuba」のオーガナイザー兼参加者として活動しました。このイベントでは、起業の一連の流れを 3 日間で体感することができ、将来の選択肢の 1 つとして起業という道を意識するようになりました。起業についての知識・スキルだけではなく、事業を運営していく中で必要な仮説検証サイクルを、身を以て体感し、身に付けることができました。

今後の課題

筑波大学内で行われたにもかかわらず、筑波大生の参加者が少なかったことが課題です。将来起業を目指す学生だけではなく、起業家精神を身に付けるために参加する学生をもっと増やしていくことが必要です。



イベント終了後の集合写真

Summer Art Camp 2016 (16011V)

受入団体名 : Art for Children's SHINE (16007G)

活動内容

社会的養護下の児童（虐待等の理由により家庭で生活できない児童）を対象にアートセラピーを届ける活動を行っている団体です。夏休み、山梨県のキャンプ場にて、児童養護施設の子ども達を招き、アートキャンプを実施します（子どもゆめ基金助成）。2泊3日、キャンプ場で子ども達は、自然素材と触れ合いながらアート体験します。子どもの生活支援、アートプログラム支援の他、夜のイベント企画などもお願いしたいです。

活動実施日(期間)

8月18日（木）～8月20日（土）

参加学生

T-ACT ボランティア：4名

活動報告

●受入団体担当者

- ・児童養護施設の児童のキャンプ中の生活補助。
- ・アートプログラム実施の際の児童の補助。
- ・夜のイベントの企画、実施。

自主性があり、積極的に活動に参加してくれました。子供達への接し方も良く、子供達がとてもよくなついていました。

●学生参加者：匿名希望（知識情報・図書館学類 2年）

活動の成果

普段は養護施設で生活している小学生を2泊3日のキャンプに招待し、さまざまなイベントを行った。“臨床美術（美術を使った精神治療）”に初めて触れた。このキャンプを運営している大人や、同じボランティアとして参加した他の学生と話をして、考えたり学んだりしたことが大きかったです。

今後の課題

- ・子どもに接する姿勢
- ・もっとこういうボランティアに参加したい

●学生参加者：匿名希望（心理学類 2年）

活動の成果

児童養護施設で生活している子ども達と一緒にキャンプ場に宿泊し、アートセラピーを行うキャンプにボランティアとして同行しました。施設で生活している子どもと接したことはなかったので不安でしたが、みんな真っ直ぐないい子達でした。子ども達の作品には個性が溢れていて見ていてとても楽しかったです。また3日間一緒に過ごしたことで子ども達との距離も縮まり、変化が見られたりして良かったです。

今後の課題

子ども達と接する上で難しかったのは、子どもからの欲求にどこまで応えてあげればいいのか、どこからが甘やかすことになるのか、という点です。専門にしたいと考えていた発達心理学、発達臨床心理学へのモチベーションがさらに上がりいました。



キャンプの様子

その他

他のボランティアの方々ともいい出会いがありました。

●学生参加者：匿名希望（看護学類 4年）

活動の成果

児童養護施設に通う小学生11名と一緒にキャンプをしながらアートセラピーを実施する手伝いをした。基本的には子どもの安全を守り、面倒を見ることであった。夜のイベントではボランティアで企画もした。児童養護施設に通う子どもがどのような子どもかと構えていたが、実際に一緒に過ごしてみるととても可愛く、子どもたちが、日がたっていくにつれて少しづつ子どもしくなっていくところを感じることができた。また、実際にこのようにボランティアとして関わっている大人の方々とも触れ合うことができ、とても勉強になった。

菅間小学校で夏休みの学習支援ボランティアを募集します！！(16018V)

受入団体名：茨城県県南生涯学習センター (12001G)

活動内容

つくば市立百合丘学園菅間小学校で1～3年生、6年生の学習支援ボランティアを募集します。特に算数、国語の補講を行います。

活動実施日(期間)

7月21日、22日 各日 8:00～10:30

参加学生

T-ACT ボランティア：1名

活動報告

●受入団体担当者（つくば市立菅間小学校より）

小学生の国語・算数を中心とした補習や夏季休業中の課題の支援をしていただきました。子どもに対し誠実な対応ができる学生で、2日間安心して役目を任せられました。本人の教職に対する意識も高く、将来が期待できる人だと感じました。子どもたちも学生さんと触れ合うことができ、良い経験になりました。

●学生参加者：植田舞人（数学類 4年）

活動の成果

活動内容としては子どもたちのドリルを丸付けしたり、分からなくて困っている子にアドバイスしたりという内容でした。子どもたちの名前を覚えて呼んであげると、とても嬉しそうにしていて自分も嬉しかったです。今回初めてボランティア活動に参加させてもらいましたが、非常に貴重な体験をさせていただきました。

今後の課題

自分が車を持っていないということから、雨の日にも50分ほどかけて自転車で現地まで行かなくてはならなかつたのが少し大変でした。



学習指導の様子

いばらき子ども大学県南キャンパス運営スタッフ募集！！(16020V)

受入団体名: 茨城県県南生涯学習センター (12001G)

活動内容

出席受付、会場誘導、会場設営及び原状回復作業、駐車場誘導、機械操作、授業企画等

★いばらき子ども大学とは

子どもは10歳頃から知性が急速に発達し、人生や自然、社会現象に対し好奇心を抱き疑問を持つようになります。この子どもたちの好奇心や疑問に応え、知的な世界を開くため、大学のキャンパスで専門家が自分の豊富な専門的知識を駆使してテーマについてわかりやすくかつ体系的に教え、子どもたちの知的好奇心を満足させるとともに、「学び」を通して、想像力を豊かに育み、夢と希望を抱く一助とする目的があります。

＜授業内容＞

- ①なりたい自分になるために！何をいつどう食べる？
- ②フェナキストコープで映像体験
- ③ロボットと共に生き、働く未来をかんがえよう
- ④不思議な化石コノドント
- ⑤畠の中の生き物の働きを知ろう！
- ⑥宇宙は何からできているんだろう

活動実施日(期間)

①7/16（土）、②8/21（日）、③9/4（日）、④10/2（日）、⑤10/23（日）、⑥12/4（日）
各日 9時～13時

参加学生

T-ACT ボランティア：5名

7/16：2名、8/21：4名、9/4：4名、10/2：1名、10/23：2名

活動報告

●受入団体担当者

活動の内容としては、主に授業の受付、会場案内、授業中の指導補助をしていただきました。作品を作る授業のときは、大学生のおかげで子どもたちに個別の対応をすることができました。また、複数の顕微鏡を使うときはセッティングから手伝っていただき、本当に助かりました。子どもたちも、現役の大学生と一緒に学ぶことができ良い刺激になりました。

●学生参加者：武田響（社会学類 4年）

活動の成果

小学生を対象にした筑波大学講師による学習イベントでした。活動内容としては、来場者の受付対応や会場設営、来場者の車の案内係などの役割分担を4、5人の学生ボランティアで行いました。私は、前半は案内係でしたが、来場があらかじめ済んだ後半では、会場内の子どものサポートを行うことができました。当日は「食」に関するお話をしたが、子どもたちと普段の食事や好き嫌いについて楽しく話すなど、ボランティア活動としてとても充実した時間を過ごせたと思います。

今後の課題

案内係は屋外での活動でしたが、事前に具体的な活動内容については伝えられていなかったため、7月半ばの屋外の活動への事前準備が十分にできなかったことは少しつらかったです。夏での参加ならば、日焼け止めや虫除けスプレーなどを用意するとよいかもしれません。

その他

当日の参加者は筑波大生より、会場となった筑波学院大学の学生の方が多かったです。個人的には、交流の少ない彼らとお話しできる機会を得られ、活動とはまた別のうれしさがありました！

●学生参加者：緑川藍（生命環境科学研究科 2年）

活動の成果

いばらき子ども大学の運営のお手伝いをしました。（会場セッティング、受付、子供たちの作業の手伝い）積極的に運営に携わることができました。特に、顕微鏡を使う授業では、子供たちに操作を教えるなど、大きく貢献できたと思います。この活動を通して子供たちが今、何に関心を持っているのかを理解することができました。

今後の課題

会場が茨城大学、筑波学院大学など複数で開催されたため、来場者が混乱することが多いように思いました。

大学生活を体験という意味では良いと思うのですが、より大きい会場である筑波大学を借りることはできないのでしょうか。

その他

スタッフの皆さんが明るく良い人で、とっても楽しい時間を過ごすことができました！

●学生参加者：匿名希望（生命環境科学研究科 2年）

活動の成果

内容：こども大学の会場案内、会場準備、子供たちの創作活動の補助など

得られた成果：子ども大学の先生に対して子ども大学の生徒の人数が多いが、ボランティアスタッフが子供たちの講義中の活動を補助することで、まんべんなく子供たちをサポートでき、子供たちが講義での活動により積極的に取り組めるようになりました。

●学生参加者：匿名希望（生命環境科学研究科 2年）

活動の成果

子どもたちにフェナキストスコープ（驚き盤）の作り方や、ロボットの魅力を伝えるための手助けを行った。子どもたちに科学の面白さを伝える手助けをすることを目標にしてボランティアに参加したが、驚き楽しむ子どもたちを見てそれが達成できたように思った。

今後の課題

当日に進行表を渡されたり、仕事内容が不透明な部分が多くあったりしたため、もう少し連絡等を取り合って当日に備えられれば、もっと良い活動になるのではないかと思った。

●学生参加者：匿名希望（生命環境科学研究科 2年）

活動の成果

大学教授による小学生を対象とした講義運営のサポートスタッフ。100人近くの参加者がいる中、受付業務、道案内、実技の際の子どもの補助などを行った。事務的な仕事が多い反面、子どもと話し、関わる機会も多い。直接子どもたちと遊びの楽しさを分かち合うことができるとともに、自分にはない発想に刺激を受けることも多々あった。

今後の課題

実技など手を動かすことの多い講義ではサポートスタッフが活躍できるが、講義のみの回は受付などの事務以外ではほとんど仕事がなかった。



授業の様子

第2回 つくば小中学生将棋大会 (16021V)

受入団体名: つくばボードゲーム愛好会 (12002G)

活動内容

筑波大学将棋部の協力を得て、つくばカピオを会場に、小・中学生対象（小4～中学生）の将棋大会を夏休みに開催します。大会受付、会場案内など将棋大会運営のお手伝いをするボランティアです。入賞者インタビュー、写真撮影などができる方も募集しています。

活動実施日(期間)

8月11日（祝・山の日）9時～17時

参加学生

T-ACT ボランティア：8名（将棋部8名）

活動報告

●受入団体担当者

夏休み中に「つくばカピオ」にて開催された小中学生対象将棋大会の運営を行った。今回は学外での開催で、5月に会場を決めるところからのスタートであったため、8月の大会まで時間が足りず苦労した。Twitterでの大会の宣伝をはじめ、大会中の対戦結果の中継はLINEで行うなど、アイデアを出し合いながらスムーズに大会の運営をしていた。大会参加者も大変喜んでおり、来年も開催して欲しいとの声が多くあがった。

特記事項

- ・「常陽新聞」2016年8月17日号に記事が掲載されました。
- ・「つくば市市民活動センター季刊広報紙 びよ」46号（9月末）に学生ボランティアへのインタビュー記事が掲載される予定です。

●学生参加者：小野元（情報科学類 2年 ※将棋部）

活動の成果

小・中学生将棋大会の企画・運営を行った。当日無事大会を開催することができ、10位以上の入賞者を確定・表彰し、その後エキシビションマッチも行うことができたので、目標は十分に達成されたと言える。

今後の課題

当日及び前日の準備に参加予定だった前年度の将棋部側の責任者が急病で入院したため直前になった運営に混乱が生じた。「先輩が当日来てくれるから」ということで引き継ぎを十分に行わなかったことが原因と考えられる。

その他

将棋部のOBが当日の手伝いやエキシビションマッチに参加してくれたため経験がほぼ皆無だった1、2年生が中心に準備したがなんとか開催できた。



将棋大会の様子



エキシビションマッチの様子

英語学習中の小学生との異文化交流日本食パーティ (16022V)

受入団体名：はじめのいっぽ (16011G)

活動内容

英語を学んでいる小学生が、日本の家庭料理を英語で紹介するミニパーティを開きます。

留学生にご参加いただき、一緒に日本食を食べながら日本食について簡単な質問をしていただいたら、出身国についての話をしていただいたらしくしてもらいたいです。

日本食を留学生に紹介することにより、自分の国の食文化への理解を深めると共に、外国の食文化への興味を持つ機会にしたいと思います。

活動実施日(期間)

平成28年7月6日(水) 18:00~19:30

参加学生

T-ACT ボランティア：4名

活動報告

●受入団体担当者

留学生の皆さんがあなたの料理や写真を持って日本食パーティに参加してくださいました。のり巻きを子どもたちと一緒に作ったり、日本食も交え各国の料理と一緒に食べたりしながら積極的に子どもたちとコミュニケーションして下さいました。みんなのフレンドリーな語りかけと初めて目にする料理を子どもたちはとても楽しんでいました。

●学生参加者：匿名希望(人間総合科学研究科 D1)【出身国 中国】

活動の成果

英語を学んでいる小学生が、日本の家庭料理を英語で紹介するミニパーティを参加しました。このイベントで肉じゃがを食べ、作り方を知り、巻き寿司を作りました。また、他の留学生が作った料理を食べました。今後自分も日本の家庭料理を作れるようになると思います。

今後の課題

英語がテーマであるミニパーティだけど、小学生たちが自己紹介以外になかなか英語をしゃべりません。せっかくの交流会だから、もっと英語でお話をしたいです。もっとパーティのルールを厳しくしたいです。例えば、日本語禁止とか。

●学生参加者：Ovezmyradov Berdymyrat (システム情報工学研究科 D2)【出身国 トルクメニスタン】

活動の成果

We had a nice food party, tried lot of Japanese and Chinese dishes, talked with kids in English, introduced ourselves and food.

今後の課題

Learn to cook by myself :D

その他

I like such events, helps me to learn the local culture.



異文化交流日本食パーティの様子

●学生参加者：薛承哲（システム情報工学研究科 M2）【出身国 台湾】**活動の成果**

子どもたちと英語で話して、自己紹介とか簡単な会話を引き出す。

目標達成度 100%

今後の課題

二年、塾を通った子どもだとしても、簡単の紹介しかできなくてびっくりしました。日本の英語教育にはいろいろな課題があると思う。

●学生参加者：CHEN WENTING（生物学類 1年）【出身国 台湾】**活動の成果**

子どもたちと英語で話し、自国の独特な食文化をアピールすることです。

英語を話すことの達成度約50%

異文化交流は70%

今後の課題

初めて外国人と英語で話すので、子どもたちは少し恥ずかしくて、うまく自己紹介できません。もし普段から英語で話す機会や発表のチャンスが増えるなら、子どもたちはだんだん英語が好きになると思います。

みずき野夏祭り運営サポート (16031V)

受入団体名：みずき野町内会 (16012G)

活動内容

守谷市みずき野地区は1980年代に開発された約2000戸の一戸建て団地です。弊町内会では3世帯が安心安全に住み続けることができる街づくりを目指しており、少子高齢化への対応として若人の転入促進を図っています。

7月23日（土）に開催する第34回みずき野夏祭りの運営本部員として下記業務のサポートをしていただきます。みずき野でのボランティア活動を通じて、外から見たみずき野の率直な感想、若人を誘引するための提言など戴ければ有り難いです。

- ・中央ステージまわりのプログラム進行管理
- ・運営本部席での来客対応
- ・子ども向け各種イベントの運営、ほか

活動実施日(期間)

7月23日（土）

参加学生

T-ACT ボランティア：2名

活動報告

●受入団体担当者

お二人とも、祭り運営本部のサポート業務に就いていただきました。藤原さんは祭りの進行に伴って必要となるステージ器材の準備・撤去、飲料等の運搬などを、中村さんには本部席で来賓受付対応、出演者へのお礼の品の渡しなどを手伝っていただきました。また、お二人には子ども広場でおこなわれた各種イベント競技上位者の表彰式で賞品授与を担当していただきました。町内会メンバーとのコミュニケーションも十分取れていました。

開会式において町内会長よりT-ACTボランティアに協力いただいていることを紹介し、お二人にはそれぞれ自己紹介をしていただきました。

●学生参加者：藤原清太郎（教育研究科 2年）

活動の成果

夏祭り開催地の副会長について、一日ボランティアを行った。物の移動であったり、人を案内したり、祭りなどを運営する際に、当日行う全体的な流れのようなものが見ることができたのが、とてもいい学びになった。

今後の課題

お昼ご飯などをあらかじめ、自分で買って行くとよかったかもしれない。祭りで出ているお店でしか、食べ物を買えないでの、途中でエネルギーが切れる可能性がある為。

その他

今回色々な意図が、開催側にあったのを行ってはじめて知ったので、あらかじめ教えておいてくれると、驚かずに済むかもしれない。



みずき野夏祭りの様子

中高生の「TEENS CAFÉ」スタッフ募集 (16033V)

受入団体名：つくば市文化振興課 (16009G)

活動内容

< TEENS CAFÉ が目指すところ >

- ① 「学べる」場所 人生の教訓や最先端の研究内容等、学校では学べないことが学べる場所
- ② 「繋がる」場所 中高生同士で、あるいは大学のセンパイと、新しい人間関係ができる場所
- ③ 「挑戦する」場所 中高生が主体となって「やりたい！」ことに挑戦できる場所

< 主な活動内容 >

- A 企画運営スタッフ：企画・運営ミーティング（行政職員や中高生と相談しながら、一からカフェを創り上げていきます。アイディア豊富な大学生大歓迎！）
- B フロアキャスト：カフェに来た中高生の対応（カフェは平日16時～20時の間オープンします。勉強やおしゃべりをしに来た中高生を相手に、一緒に遊んだり相談に乗ったりしてくれる、心優しく面倒見がいい大学生大歓迎！）
- C イベントアシスタント：イベント時の手伝い（定期的には関われないけど、何か中高生向けのイベントがある時には力を貸したい！という個人やサークルがいれば、ぜひ登録してください。不定期です。）

【活動時間】

- A 毎週火曜日17時半～19時（曜日や時間帯は、今後メンバー内で調整するので、ご相談ください）
- B 平日16時～20時の間、都合が合う時間帯。（できれば定期的な参加が望ましいです）
- C 年数回（不定期）（イベント時に連絡をします。サークルでの登録も歓迎します）

活動実施日(期間)

通年（詳細は活動内容参照）

参加学生

T-ACT ボランティア：11名（延べ17日、127名）

活動報告

●学生参加者：西村海星（比較文化学類 2年）

活動の成果

「Teens café」で実施した中高生向けのイベントについて企画・運営を2度ほど行った。またそれに伴うミーティングを数回実施した。イベントは具体的に「teens café立ち上げイベント」「ハロウィンパーティー」「ビブリオバトル」。竹園高校の高校生を中心に数人が来てくれた。少人数ながらも次に繋がる、リピーターを獲得できるくらいに魅力的な時間を提供できたと考える。

今後の課題

一番の課題は何より宣伝・集客であった。SNSや口コミでの宣伝を試みたが、なかなか知名度を上げることは難しく、また怪しまれてしまうことも少なくなかった。

●学生参加者：藤原清太郎（教育研究科 2年）

活動の成果

ティーンズカフェ開設にあたっての、イベントや予定について話し合いに参加した。

今後の課題

実際に実行していくことを続けていくこと。

●学生参加者：匿名希望（教育学類 2年）

活動の成果

- ・ Teens Café イベント部門のミーティングに参加
- ・ 第一回イベントに参加
- ・ 勝手に相談隊にキャストとして参加

●学生参加者：匿名希望（国際総合学類 2年）

活動の成果

活動内容→ミーティング（数回）、相談ブースで中高生と会話（数回）、ビラ配り

成果→中高生と会話する中で気付かされることがいくつかあった

今後の課題

ただのお喋りスペースになっている節があるので、やるからには双方にとってより意味のあるものにする必要

があると感じる。

●学生参加者：匿名希望（心理学類 1年）

活動の成果

中高生のための居場所を作る。場づくり係に所属。場所に何を置くか、どういった飾りつけをするかなどを考案。プロジェクトを一から立ち上げる難しさを知った。これまで既存の組織に入ることしかなかったので、貴重な経験になった。

今後の課題

多くの中高生に興味を持ってもらうためにはどのような工夫が必要か。広報の仕方。資金収集の方法等。

蹴ろケロフェスタ (16054V)

受入団体名: 牛久チャレンジドットボールクラブジョイア (14006G)

活動内容

知的障がい・精神障がいのある社会人が、地域で、仲間とサッカーを楽しみ、社会参加への意欲と健康増進をはかる。

日時：12月10日（土）10時半から15時半

場所：筑波学院大学 T- フィールド

活動内容：サッカーアトラクション（キックターゲット、サッカーボウリング、ドリブルスピード、リフティング）の準備・運営・後片付け等々

活動実施日(期間)

12月10日（土）10時半～15時半

参加学生

T-ACT ボランティア：3名

活動報告

●受入団体担当者

サッカー大会の準備、運営、後片付け等。アトラクション（キックターゲット、ドリブルスター、ジャグリング）を担当していただきました。他大学の学生ボランティアスタッフと協力し、大会を運営してくださいました。



第5回子どものための救命教室 (16055V)

受入団体名：NPO 法人子どものための救命教室 (16020G)

活動内容

3歳～小学校3年生までの子どもたちを対象に、救命教室を行っている団体です。救命教室の中で、子どもたちと「いのちとはなにか、生きているとはどういうことか」を考え、救命の基礎を体験してもらいます。そしてプログラムを修了した子どもたちを、キッズ救命隊と認定しています。いのちの大切さを知り、自分やまわりの人を尊重できるキッズ救命隊が増えることで、子どもたちの心の成長や、社会全体の安全性、救命率の向上を目的としています。当団体は、平成27年10月に、小さな子どもを持つ母親たちが集まり発足しました。救急医の監修をうけながら活動しています。

【日時】12月11日（日）9時半～12時

【場所】つくば市消防本部3階多目的ホール

教室は1回完結、3歳～6歳の約15人が参加予定です。プログラムは、総合ガイド1人と救急医1人で進行します。子どもたちは5つの小グループにわかれ、それぞれに数名のボランティアの方に担当していただきます。ボランティアの方は、総合ガイドの進行に合わせて、教材を子どもたちに渡したり、子どもたちに声をかけて進行を補助したりしていただきます。救命教室の内容は、子どもたちの理解度に合わせて構成されていますので、特段に専門的ではなく、医療の知識や経験のない方でも無理なくご参加いただけます。

また救命教室には、救急医、医師が必ず参加します。また看護師や救命救急士が同席することもありますので、現場の声を聞くこともできます。ぜひ子どもたちと一緒にプログラムを楽しみ、「大切なのちを守りたい」と真剣に学ぶ子どもたちのサポートをしていただきたいと思います。

活動実施日(期間)

12月11日（日）9時半～12時

参加学生

T-ACTボランティア：1名

活動報告

●受入団体担当者

3～6歳の子どもたち計18名が来場した救命教室にて、子どもたちと一緒にプログラムにご参加いただきました。他ボランティアの方1人と一緒に、4人の子どもたちをご担当いただき、クイズや参加型ゲームのお手伝いや、目の前で誰かが倒れた時の「安全確認→声かけ→助けを呼ぶ」という救命の流れを体験する際に補助を行いました。常にこやかに、子どもたちに優しく楽しく接していただき、こちらも安心して進行することができ、助かりました。

今回の救命教室の様子は、H29年1月つくば情報局（フェイスブック）に掲載される予定です。

●学生参加者：匿名希望（人間総合科学研究科 D2） 活動の成果

三歳から五歳の子どもに周りのひとが倒れたらどう助けを呼ぶかを教える救命教室のお手伝いとして参加させていただきました。教える内容はすごく分かりやすいし、ひとを助ける前に自分の身の安全を先に守らないといけないという点が非常に大事だときちんと子どもたちに伝えるのはすごくいいと思います。

今後の課題

三歳から五歳の子どもはなかなか大人の言うことを聞いてくれないので、スタッフたちが上手に対応していました。自分もどう子どもとコミュニケーションすればいいか、今後もっと勉強したいと思います。



救命教室の様子

12月度きれいきれい大作戦 (16056V)

受入団体名：つくば市きれいなまちづくり実行委員会 (16005G)

活動内容

大好きなまち「つくば」をきれいなまちにします！
月に1度、たくさんの仲間と市内の清掃活動や環境イベントを実施しています。ぜひ一緒にごみのないきれいなまちを作り上げましょう！

- 日時 12月22日 (木) 15:30~17:00
- 集合場所 松見公園東側有料駐車場
- 活動内容 公園周辺の清掃活動
- 服装 汚れても良い服装でお越しください。また、御協力いただける方はぜひクリスマス関連のコスプレでお越しください。実行委員はサンタクロースの仮装をする予定です。
- 持ち物 必要な道具は実行委員会にて用意いたします。

活動実施日(期間)

12月22日 (木) 15:30~17:00

参加学生

T-ACT ボランティア：4名（団体参加 ボクシングサークル2名）
その他：1名

活動報告

●受入団体担当者

松見公園に集合し、クリスマスグッズを身に着けて、周辺のごみ拾いを1時間ほど行いました。飲食店街であるため特に煙草の吸殻が多い状況でしたが、トンネルを用いて細かいゴミまで丁寧に拾い、最終的には、50kg近いごみが集まりました。学生さんは他の活動者にも積極的に声をかけて交流しており、大変好ましい様子でした。また、通行人から感謝の言葉をかけられた方もいらっしゃいました。今後も学生さんに御協力をお願いしていきたいと思います。

T-ACT で御登録いただいた学生さんのほか、筑波大学斬桐舞の学生さんや、HPを見て直接申し込まれた学生さんもいらっしゃいました。

●学生参加者：祐本晋太郎（応用理工学類 3年 ※ボクシングサークル）

活動の成果

天久保一丁目周辺の清掃活動に参加し、たばこの吸殻・空き缶・瓶などを沢山拾うことができた。短い時間で広範囲に渡って活動できた。

今後の課題

活動終盤で雨が降ってきたので、雨天対策があるとよいと思う。

●学生参加者：匿名希望（心理学類 4年）

活動の成果

松見公園周辺のゴミ拾いを行った。傘、タバコの吸殻、ペットボトル、空き缶など落ちていた。ゴミ拾いをしていて感じたことは、ゴミ箱が少ないと感じたこと。ゴミ箱の設置も大切。しかし、一人ひとりの倫理観に尽きたと感じた。

今後の課題

街中ゴミの問題を議論する際、よく解決策としてゴミ箱の設置が挙げられるが、そもそも、ポイ捨ての問題は道端に残ることだと感じた。雨に濡れたら溶けてなくなるパッケージ開発など、ゴミを残さないような技術開発が進めば、倫理観という綺麗事で済まさず、より綺麗な街になると感じた。筑波大はそういった研究開発することで、清掃と同様の社会貢献になると感じた。



清掃活動の様子

第6回子どものための救命教室 (16058V)

受入団体名：NPO 法人子どものための救命教室 (16020G)

活動内容

3歳～小学校3年生までの子どもたちを対象に、救命教室を行っている団体です。救命教室の中で、子どもたちと「いのちとはなにか、生きているとはどういうことか」を考え、救命の基礎を体験してもらいます。そしてプログラムを修了した子どもたちを、キッズ救命隊と認定しています。いのちの大切さを知り、自分やまわりの人を尊重できるキッズ救命隊が増えることで、子どもたちの心の成長や、社会全体の安全性、救命率の向上を目的としています。当団体は、平成27年10月に、小さな子どもを持つ母親たちが集まり発足しました。救急医の監修をうけながら活動しています。

【日時】3月5日（日）9時半～12時

【場所】つくば市消防本部3階多目的ホール

教教室は1回完結、小学1～3年生の約20人が参加予定。プログラムは、総合ガイド1人と医師1人で進行します。子どもたちは4つの小グループにわかれ、それぞれに数名のボランティアの方に担当していただきます。ボランティアの方は、総合ガイドの進行に合わせて、教材を子どもたちに渡したり、子どもたちに声をかけたりして進行を補助していただきます。

プログラムは、「大人でも楽しめる」と毎回大好評！内容は子どもたちの理解度に合わせて構成されていますので、医療の知識や経験のない方でも無理なくご参加いただけます。

また救命教室には、医師が必ず参加します。看護師や救命救急士が同席することもありますので、現場の声を聞くこともできます。ぜひ子どもたちと一緒にプログラムを楽しみ、「大切な命を守りたい」と真剣に学ぶ子どもたちのサポートをしていただきたいと思います。



活動実施日(期間)

3月5日（日）9時半～12時

参加学生

T-ACTボランティア：2名



救命教室の様子

活動報告

●受入団体担当者

救命教室の参加者（小学校1～3年生）6名を、他1名のボランティアと共に担当し、クイズや教材を使った体験学習にご参加いただきました。子どもたちと一緒に、なごやかに、楽しみながらプログラムの進行をサポートください、非常に助かりました。こちらも安心して見守ることができました。ありがとうございました。

●学生参加者：匿名希望（看護学類 1年）

活動の成果

小学1年生～3年生を対象にした救命教室で、子どもへの声かけや活動の補助などをさせていただきました。自分の脈拍を確認して生き物とは何かを考えた後、救命の流れを学んだのはすごく効果的でした。将来、医療職に就きたいので勉強になりました。

参加してくれた子供たちも、人が倒れていたらすぐに何かしなければ命は消えてしまうということに気づいてくれたのではないかと思います。

今後の課題

自分の脈拍計測がうまくできなかった子に対して、上手にサポートすることができませんでした。相手は複数ですが、もっと注意深く観察できるようにしたいです。また、これから医学的知識をもっと学び、子どもに分かるように伝えるにはどうしたら良いか考えていきたいです。

その他

講師だった救命救急の医師や看護師の方に、救急救命を一般に広げる活動をしている団体について教えていただきました。ボランティアに参加して良かったです。

2016年度実施状況報告

つくばアクションプロジェクト（以下、T-ACT）は、学生が自らの関心に基づく多種多様な自発的活動を新たな人間関係を構築しながら実行するよう促進することで、学生の人間力を育成する筑波大学の人間力育成事業である（図1）。T-ACTには、学生が企画立案し展開するT-ACTアクション、教職員が企画立案し展開するT-ACTプラン、地域活動団体が実施する社会貢献活動に学生が自発的参加をするT-ACTボランティア（2012年度スタート）の3種類の活動がある。T-ACTが支援する諸活動は、学生・教職員・地域による共創的コミュニティをベースに、半年以下の単発的・短期的活動であるため、アクティヴな流動性をもつことを特徴としている。学生は、それらの活動を通して、様々な活動への積極的な参加力、経験から感じ取る体験力、他者と関わり協調するコミュニケーション力、人をまとめ率いる統率力、創造しそれを具現化する企画力といった「人間力」を養うことになり、自主性と社会性を備え、将来社会を担う人材として成長することができると期待されている。

1. T-ACTで申請された企画の状況

2016年度のT-ACTアクション・プランにおける企画申請数及び承認数、T-ACTボランティアにおける団体登録数及び活動承認数、それらへの学生参加者数は次の通りである（ただし、3月末日時点までにT-ACT推進室で把握できた数に限られる）。2016年度は、T-ACTアクション・プランの企画申請数は56件（アクション54件、プラン2件）であり、そのうち52件（アクション50件、プラン2件）が承認された（図2）。申請された企画における、学生プランナーは57名（重複者を除く実数は53名）、学生オーガナイザーは274名（実数は268名）であった（図3）。申請された企画における、教職員プランナーは2名（実数は1名）、教職員パートナーは56名（実数は50名）であった（図4）。企画のパーティシパントは、学内者・学外者の区別の難しさ、実数把握の難しさがかねてより指摘されていたため、各企画によって報告された概数を足し合わせた数のみを報告する。2016年度のパーティシパントの報告された総数は1741名であった（図5）。T-ACTボランティアにおける登録団体数は40であり、団体登録がなされた上での承認活動数は59件であった（図6）。T-ACTボランティアからの活動参加者（パーティシパント）は150名であり、T-ACTボランティアとは別に活動の情報を得て参加している学生も25名いることがわかった（図7）。

申請数、承認数ともに2015年度に比較して微増であり、企画運営側の学生参加者も微増した。特に実数が増加したことは、2015年度よりも多様な学生の参加があったことを示している。一方で、参加した教職員の延べ数は2015年度に比較して減少した。特にパートナー教職員の延べ数が実数に近づいていることから、一つの企画に参加する教職員の人数が減少していると考えられる。あるいは、2016年度よりT-ACTへの参加登録システムを廃したこと、教職員の参加も運営学生による報告に頼らざるを得ない状況となったことを鑑みると、学生の報告よりも多くの教職員にご協力をいただいている可能性は否定できない。

パーティシパントの総数は、2015年度に比較して大幅に減少した。ただし、パーティシパントの総数は学生の報告に大きく依存しており、そのため年度によって数字に大きなばらつきが出ることが指摘されている。たとえば、2014年度、2015年度は雙峰祭を舞台としたT-ACT企画が一般来場者をパーティシパントと捉え、概算で「1000名」といった形で報告している例があり、こういった企画が一つあるか否かで大きな増減が起こり得る。

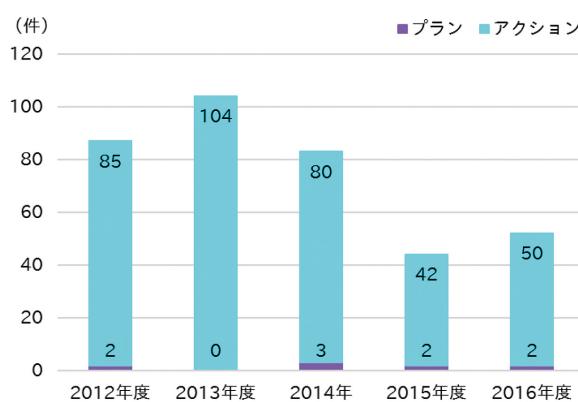


図2：過去5年間のアクション・プランの企画承認数

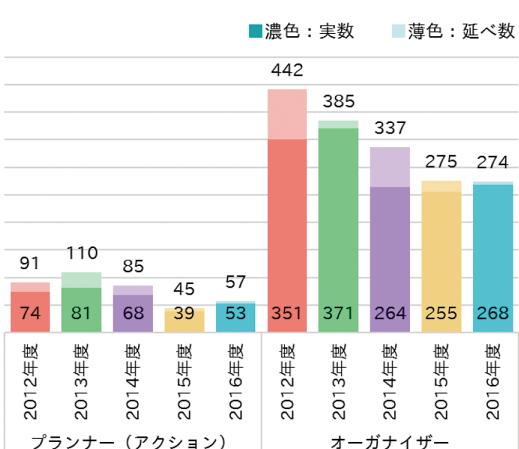


図3：過去5年間のアクション・プランを運営した学生数

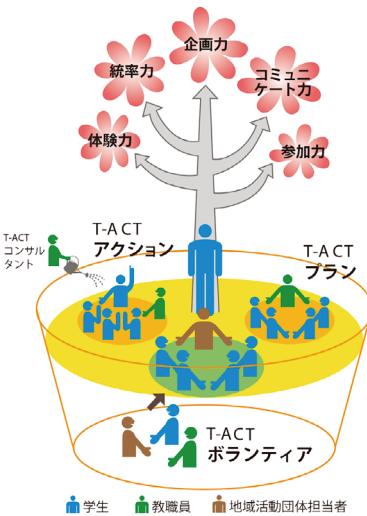


図1：共創的コミュニティ形成によるT-ACTの展開と学生の成長

学生にとっては、オーガナイザーやパーティシパントといった参加者の区分や、参加者の実数はあまり気にならない点であるという参加学生からの報告も見られる。したがって、パーティシパント総数の単純な大小で企画そのものの良し悪しや、T-ACT の実績の判断を行うのは妥当ではない可能性がある。

T-ACT ボランティアへの登録団体や承認活動、ボランティア参加者は2015年度に比較して増加が見られた。特にボランティア参加者は大幅な増加が認められ、独自にボランティア参加を行っている学生も増えていることから、筑波大学内に根づきつつあるボランティア精神が広がっていることがうかがえる。そうして生まれた学生のボランティアへのニーズと地域社会が持つ筑波大学生へのニーズをつなげる機能を、T-ACT が担っていると考えられる。

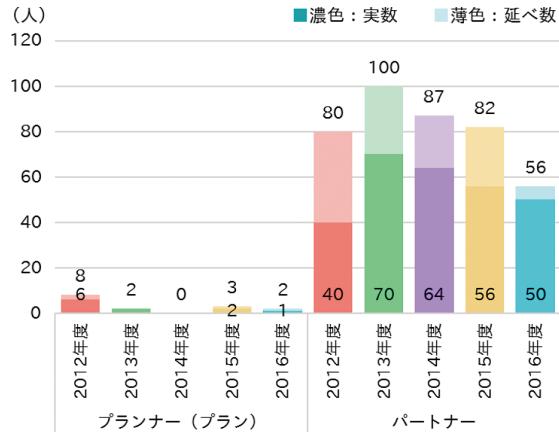


図4: 過去5年間のアクション・プランに参加した教職員数

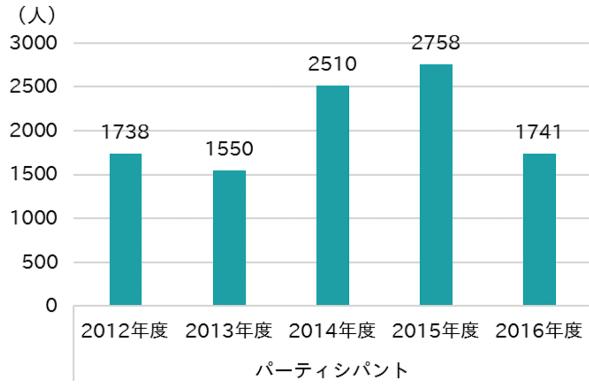


図5: 過去5年間のアクション・プランのパーティシパント数

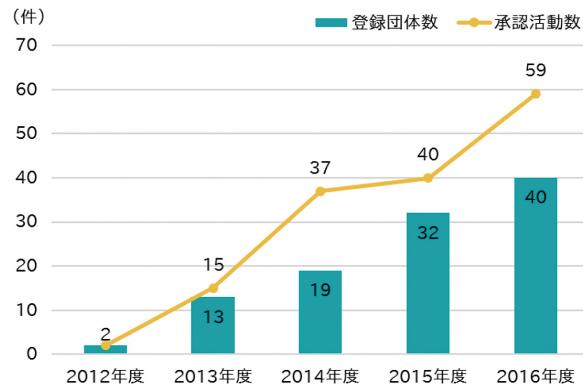


図6: T-ACTボランティアの登録団体数と活動承認数

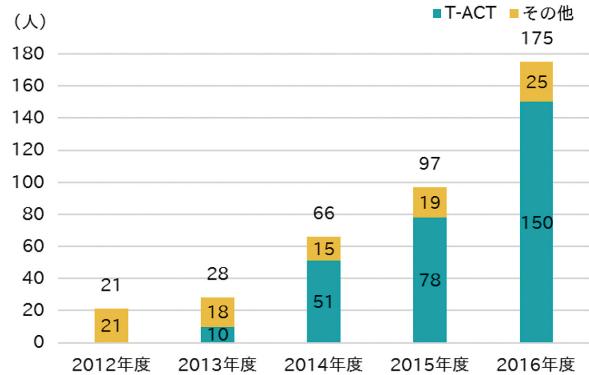


図7: T-ACTボランティア登録団体で活動した本学学生の参加者実数

2. T-ACT フォーラムの利用状況

2016年度のT-ACTフォーラム延べ来室者数は1320名だった(図8)。学生の来室目的を分類したところ、T-ACTアクションの新規申請に関する相談(A新規)が15.1%、T-ACTアクションの運営のための利用(A運営)が53.8%、T-ACTアクションへの参加に関する相談(A参加希望)が2.9%、T-ACTプランの運営のための利用(P運営)が0.1%、T-ACTボランティアへの参加に関する相談(V新規)が3.8%、T-ACTボランティア参加後の相談に関する利用(V運営)が4.1%、T-ACT サポーターの来室(サポーター)が4.4%、総合科目に関する利用(授業)が3.7%、T-ACTフォーラムでの雑談等その他の利用(その他)が12.2%であった(図9)。2016年度のT-ACTボランティアに関して来室した地域活動団体などの来室者数は76名であり、来室目的としてはT-ACTボランティアの団体登録あるいは募集申請に関しての来室が最も多かった(募集関連)。また、その他とされる訪問も多く、取材も含み訪問理由は多岐に渡っている(図10)。

T-ACTフォーラムへの来室者数は2015年度に比較して増加した。T-ACTアクションに関する利用割合は昨年度までとほぼ同様であり、T-ACTアクションの促進にとってT-ACTフォーラムが重要な役割を果たしていることがわかる。また、学生の来室者数が2014年度以前の水準に戻った一方で、企画の申請数は2015年度に比べての微増であることや、「その他」の利用目的の割合が増加したことなどから、企画の実施・運営以外の機能が活用されていると考えられる。特に「その他」を理由に来室する学生は、最近の学生生活の簡単な報告を気軽にしで帰っていくなどが多く、T-ACTフォーラムが「学生の居場所」としての機能を果たしつつあることが示唆される。

T-ACT ボランティアに関する地域団体の来室者は過去最高を記録した。2015年度以上に多様な目的で活用されており、特に地域団体の関係者と学生が共に活動についての打ち合わせに使用される機会が増えている。こういったことから、T-ACT ボランティアの認知度の広がりや機能の多様化がなされ、バンク型のボランティアのみならず、プロジェクト型ボランティアの発展にもつながる活用がなされつつあると言える。

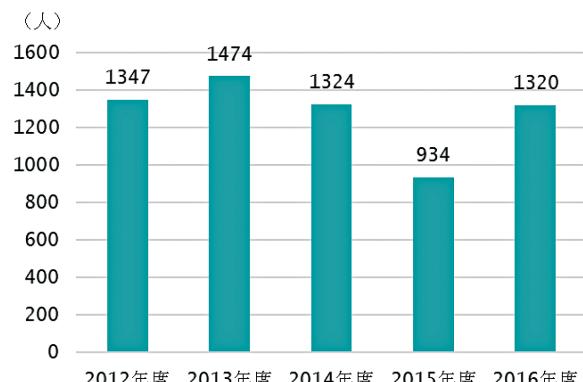


図 8：過去 5 年間の T-ACT フォーラム来室学生

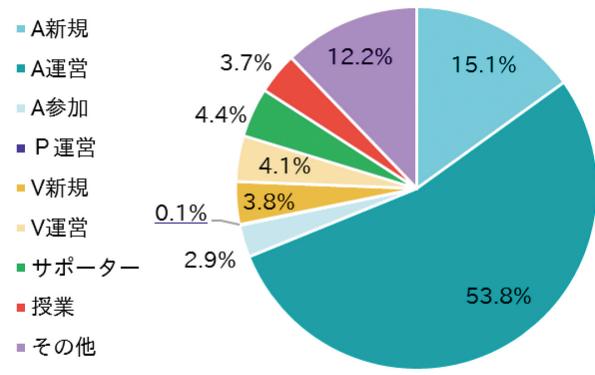


図 9：2016年度の T-ACT フォーラム利用目的

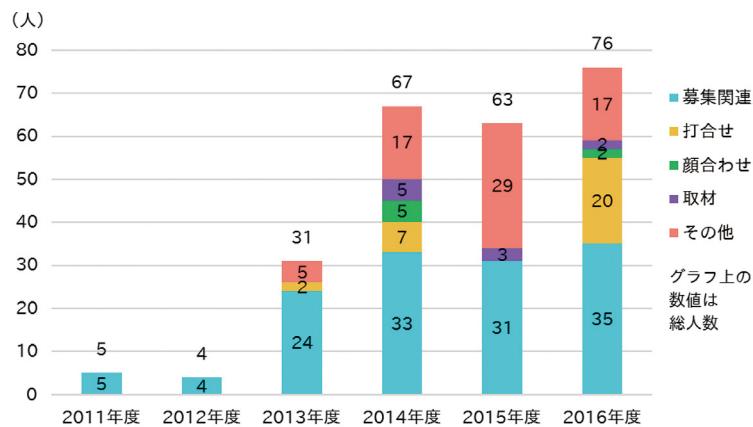


図10：地域団体等の T-ACT フォーラム来室者数

3. T-ACT による人間力の成長

2016年度に活動が終了した企画の参加学生のうち59名が、活動終了後の人間力の成長に関するアンケートに回答した。参加力、体験力、コミュニケーション力、統率力、企画力の達成度に関する自己評定は図11の通りである。参加力、コミュニケーション力について達成できたという回答（「とても当てはまる」「すこし当てはまる」）は全体の90%を越え、体験力についても90%に近い値となり、いずれも高い達成度が見られた。統率力、企画力についても達成できたという回答が全体の70%を越えていた。

参加力、体験力、コミュニケーション力に比較して、統率力、企画力の達成度が低いという結果は例年通りであり、後者2つの力は前者3つの力よりも達成が難しい、より高次の力であると考えられる。また、5つの力が軒並み例年よりも高い達成が見られた。2016年度にT-ACTを活用した学生は、より豊かな学びを得ることができたと考えられる。

4. T-ACT による学生生活の充実感

2016年4月中旬の健康診断時に行った調査（有効回答は学群生7493名、大学院生3727名、不明135名）では、T-ACTでの活動による学生生活の充実感への効果に関する回答を得た（図12）。「T-ACTでの活動によって学生生活が充実した」に対して「とても当てはまる」「少し当てはまる」と、T-ACT活動が充実感に寄与したと回答した学生は、T-ACT活動への参加が1回ある場合33.3%、2回ある場合63.9%、3回以上ある場合82.6%であった。また、T-ACT活動への参加がオーガナイザーとして1回ある場合33.9%、2回ある場合87.3%、3回以上ある場合86.2%、プランナーとして1回ある場合33.2%、2回ある場合88.8%、3回以上ある場合93.2%であった。T-ACTボランティアへの参加が1回ある場合27.5%、2回ある場合75.0%、3回以上ある場合91.6%であった。

T-ACT活動への参加の仕方がパーティシパートよりはオーガナイザー、オーガナイザーよりはプランナーである方が、T-ACTでの活動によって学生生活への充実感が高まりやすい傾向があると考えられる。また、いず

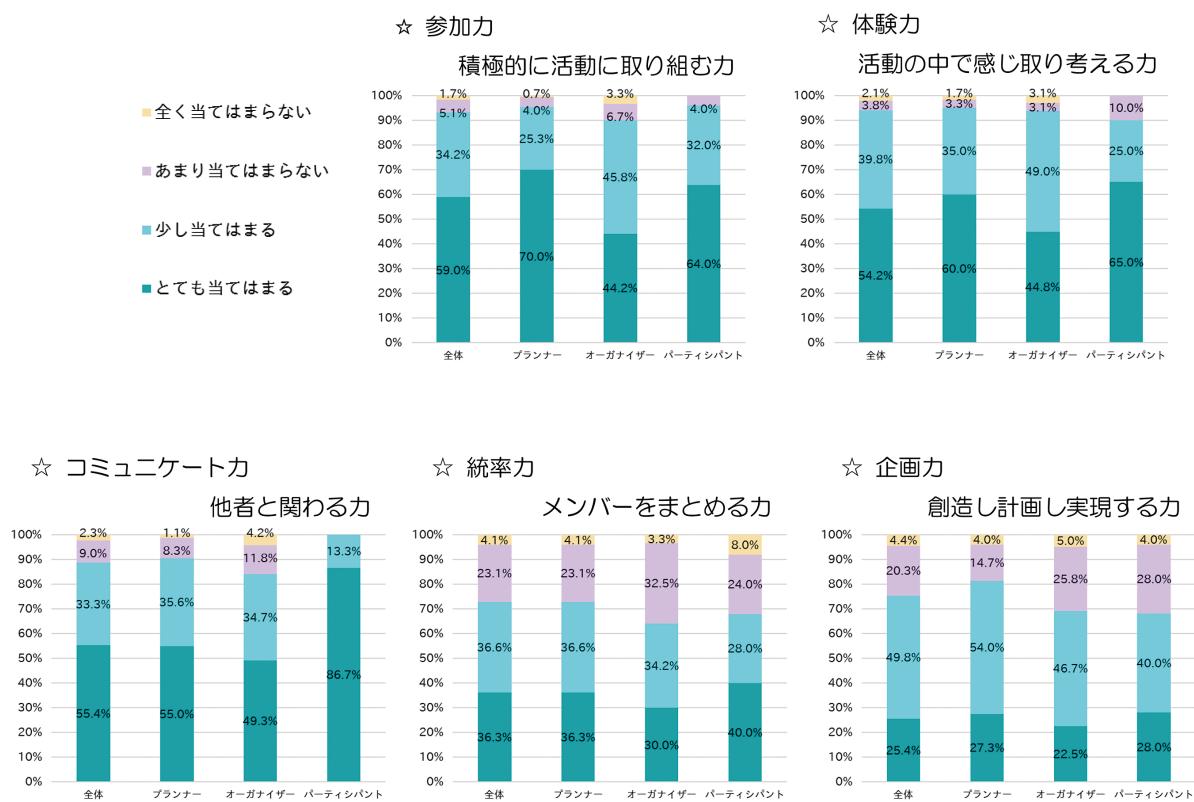


図11：人間力の達成度に関する回答の割合

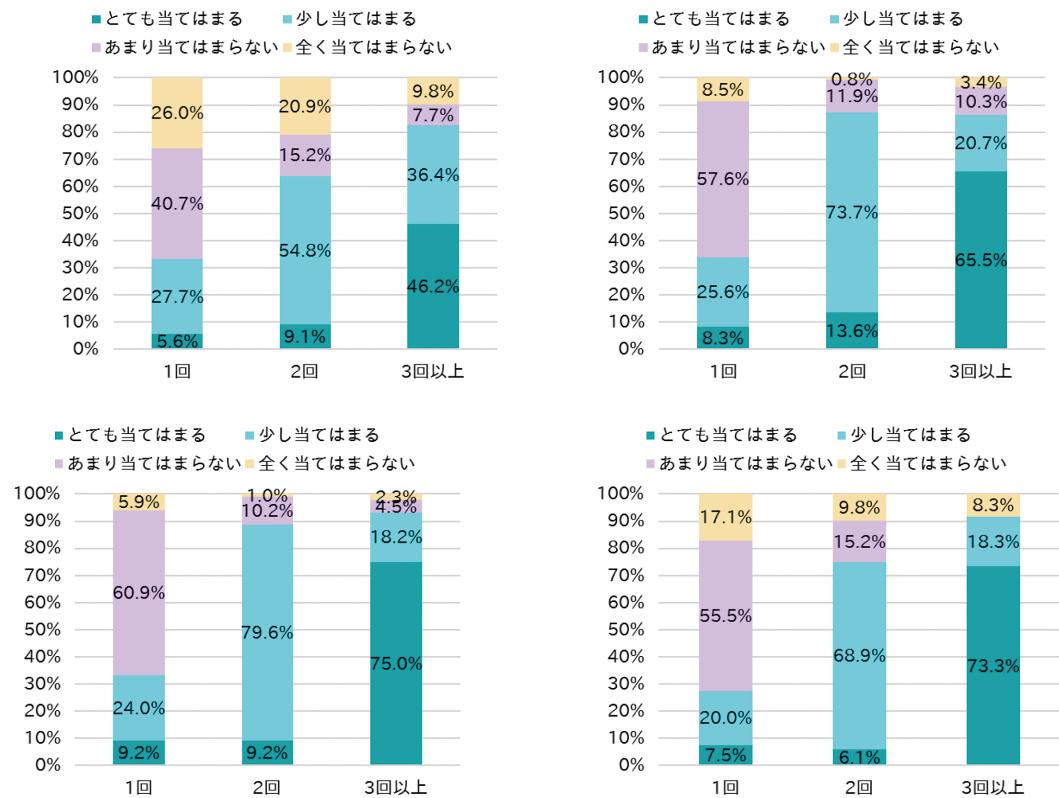


図12：T-ACT 活動による学生生活の充実感への効果

れの参加の仕方であっても1回のT-ACT活動では学生生活の充実感への効果は大きくなく、2回以上の参加によって学生生活の充実感への効果が大きく高まることが示唆される。これらの結果は例年とほぼ同様のものであり、T-ACTの効果の表れ方の特徴であると考えられる。

5. 全学レベルにおけるT-ACTの周知率・関心等

2016年4月の調査時の本学学生におけるT-ACTの周知率は、学群生で85.6%、大学院生で73.6%であり

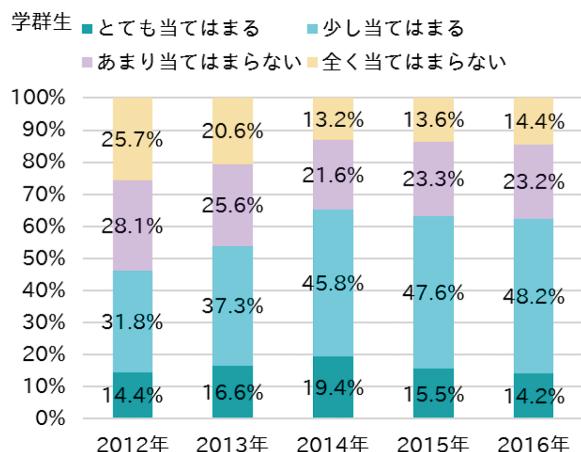


図13：過去5年間のT-ACTの周知率

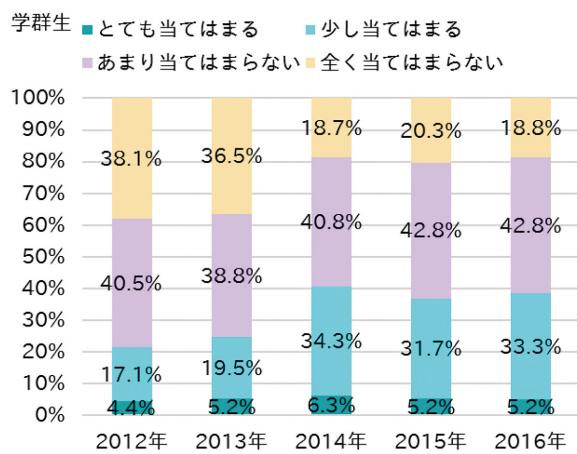
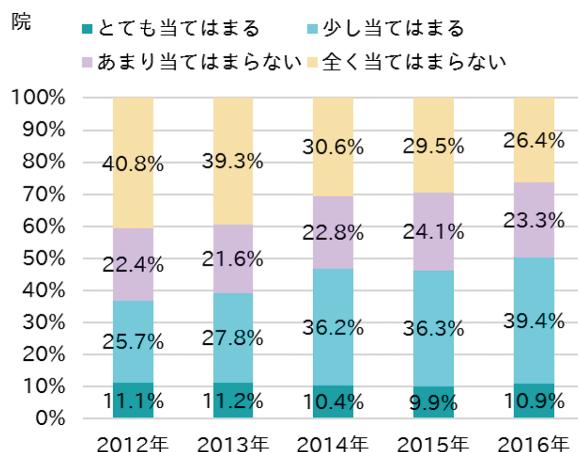


図14：過去5年間のT-ACTへの関心度

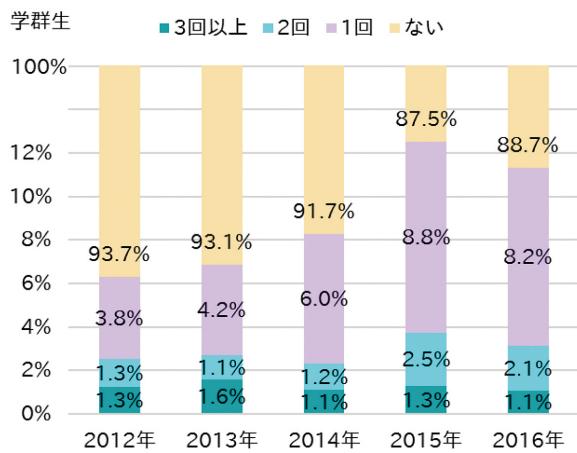
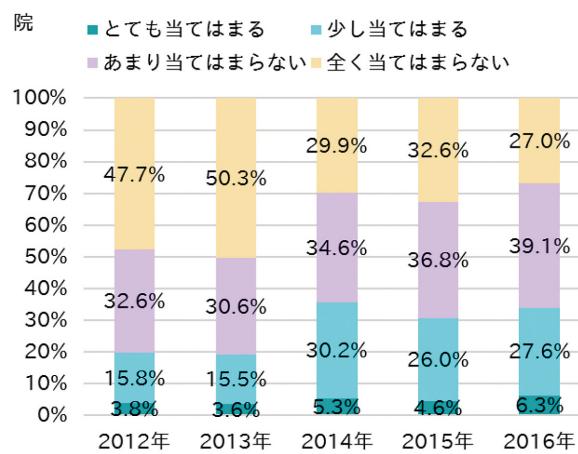


図15：過去5年間のT-ACTへの参加率

（「T-ACTについて知っている」に対して、「全く当てはまらない」以外の回答をした割合。図13）、昨年度と同等であった。また、「T-ACTの活動に参加してみたいと思う」（「とても当てはまる」「少しあてはまる」）と回答した学生は、学群生で38.5%、大学院生で33.9%であり、2015年4月時点より増加した（図14）。「T-ACTの活動に参加したことがある」（「1回」「2回」「3回以上」）と答えた学生は学群生で11.3%、大学院生で12.2%と1割程度を維持している一方、学群生の参加率は微減した（図15）。学生の社会貢献活動・ボランティア活動に参加してみたいという関心は、学群生で61.4%、大学院生で60.9%であり、2014年4月時点の健康診断時に実施した調査から微増を続けている（図16）。

T-ACTへの周知率は一定の高い水準を維持しており、本学内での周知および定着は十分になされていると考えられる。また、関心度および参加率の推移を見てみると、前年度の関心度が次年度の参加率につながっている

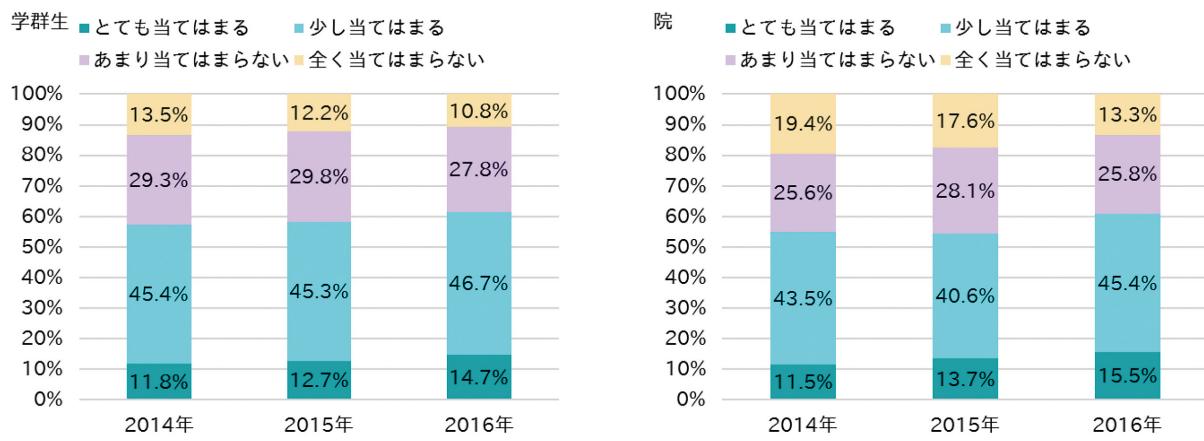


図16：過去3年間の社会貢献活動・ボランティア活動への関心

ようにも見える。ボランティア活動への関心は50%を越えながら微増し続けており、今後のT-ACTボランティアの周知と参加の促進により、学生によるボランティア活動の活性化が期待される。

6. 公開シンポジウムの開催

T-ACT推進室は、学生のさらなる活動の発展と地域参画を促進するため、筑波大学内外に向けて学生の活動とT-ACTの成果を発信し、意見交換や交流による関連組織との連携を図るイベントを開催している。

2016年度の公開シンポジウムは「つくばと世界をつなぐT-ACT—留学生と創る筑波大学の未来—」をテーマに開催された。その目的は、筑波大学における留学生の学生生活、特に課外での活動の現状を振り返り、日本人学生との交流や学生生活における課題を明らかにすること、および日本人学生と留学生が充実した学生生活を送るために、T-ACTと学内の関連組織がどのように連携し、支援していくかを検討することにあった。

第1部では、留学生と日本人学生との交流を目的のひとつとしたT-ACTの活動を行った学生による話題提供が行われた。これらの話題提供を通じ、留学生と日本人学生との交流について学生がそれぞれのニーズと問題意識を持っていること、それを満たすために自発的な活動を学生が積極的に行っていることが明らかになった。いずれの取り組みも、文化の違いを超えて一緒に楽しみ、充実した活動を行う工夫が見られ、それらは留学生と日本人学生との交流を図る上で示唆に富むものであった。一方で、より多くの学生に興味を持ってもらったり、積極的に参加してもらうことへの難しさを各企画とも感じていることがわかった。

第2部では、筑波大学の留学生支援を担う学生支援組織からの話題提供が行われた。T-ACT推進室専任助教の黒田卓哉氏からは、T-ACTの学生支援体制についての説明とT-ACT推進室が実施したアンケートの報告が行われた。アンケート報告では、留学生の実態として、31.2%の留学生がサークル参加しており、24.3%の留学生がアルバイトを行っていること、日本人学生との交流を求める留学生は確実により、日本人学生との交流の程度に満足しきれていない実情が明らかになった。そして、交流への満足感には、交流の機会を多く持つことが重要であること、交流の機会を阻む理由としては言葉の壁や交流のための情報が手に入らないことが、大きく影響していることが示された。グローバル・コモンズ機構（以下、GC）国際事業係長の諸橋祐二氏からは、GCの学生支援体制についての説明が行われた。GCでは、日本人学生のための留学情報提供や相談支援を行いつつ、筑波大学内における「国際性の日常化」のために留学生に対する総合的な相談窓口の設置や、スチューデント・コモンズをはじめとした学内各所での交流イベントを行っていることが紹介された。学生交流課課長の柳田なみ子氏からは、学生交流課の学生支援体制についての説明が行われた。現在の筑波大学の留学生受け入れ状況の解説とともに、学生交流課も「国際性の日常化」のための支援を行っており、特に留学生の受け入れ時の制度的な手続きやチューター制度の運用、地域交流イベントへの参加の情報提供を行ってことが紹介された。

第3部では、パネル・ディスカッションを行った。GCより諸橋祐二氏、学生交流課より留学生支援係長の寺沢三津子氏、学生よりRossin C. Angelica氏、薛承哲氏の4名にパネリストとして登壇いただいた。また、T-ACT推進室より黒田卓哉氏がパネリスト兼ファシリテーターとして登壇した。テーマは「留学生と日本人学生がつながることの楽しさ、難しさとは？」と「留学生と日本人学生がつながるためにT-ACTができるることは？」であったが、パネリストのみならずフロアからの積極的な質問や意見も見られた、テーマに縛られない活発な議論が行われた。その中で、留学生と日本人学生という分け方で考える以前に「仲良くなりたいから」「この人のことをもっと知りたいから」という、ひとりの人間同士としてシンプルなつながりたいという気持ちや好奇心の大切さが確認された。また、「交流をしないといけない」という義務感に縛られるのではなく、より広い人々とつながりたいという気持ちを、日本人学生だけではなく留学生も持てるようにすること、そうしてお互いが交流を求めたときに交流できる機会があることの大切さも確認された。そういう機会の提供という点でも、学生の活動、学生支援組織の取り組み、双方ともに協力し合って広報を続ける重要性が認識された。最後に、GCおよび学生交流課とは活動の広報面での連携や企画実施の際の協力を今後深めていくことを共有し、学生からは

T-ACT の言語面での充実と、より積極的に広報できる仕組みや人材の発掘、T-ACT が主体となった企画による新規参加者の獲得などが提案された。

シンポジウムの最後には T-ACT 推進室の田中博室長による総括の中で、世界の中で活躍する学生を育成するという筑波大学の方針をあらためて確認した上で、個々人が「好奇心」を持って様々な人とつながれることの重要性が示され、T-ACT 推進室による学生支援の意義と役割を確認できた。

日時 12月14日（水） 15：15～18：00（18：10～19：00 交流会）

場所 総合研究棟 A110公開講義室

7. T-ACT アクション表彰

年に二度、活動の奨励を目的に、参加者の人間力をより高めたと評価される企画を表彰している。2016年度は、2015年度に引き続き表彰する企画を、活動報告会において口頭発表（プレゼンテーション）に対する投票形式で決定した。文書での活動報告をもって最優秀賞等を決めるための活動報告会へのノミネートを決定した。その後、活動報告会でのプレゼンテーションに対する投票によって賞を決定した（表1）。

表1：2016年度上半期・下半期に表彰された企画

		上半期		下半期	
賞	承認番号	企画名	承認番号	企画名	
最優秀賞	15031A	投票所設置プロジェクト	16027A	つくばアイドル誘致プロジェクト	
優秀賞	15039A	つくば2016 土壤生物の観察を通じた体験学習	16018A	ゆめ花火プロジェクト 2016	
	16014A	Open University Life ～高校生×大学生による化学反応!! Part1～	16021A	re+ 学生生活で悩んだときに読む本@筑波大学 produced by 希死回生	
特別賞	15029A	Namaste Tsukuba (Supporting Indians Students) volume2	16023A	”留学生のための”、筑波大学サークルサイト	
	15040A	えがお咲く！春のつくしま交流会2016	16033A	MENA Week	
ノミネート賞			16041A	分野の垣根を越えた「人」の輪を広げる アカデミックパーティー！	
	15042A	TEDxTsukuba 2016	16017A	世界一大きな授業2016@TSUKUBA	
	15032A	UNICO～星空から笑顔の輪を vol4～	16002A	盆踊りプロジェクト -盆LIVE-	
	16009A	Young Americans つくばスペシャル2016に参加しよう！	16022A	宙（そら）見る？～暗いからこそ星空～	
			16035A	TEDxUTsukuba 2016	
ノミネート数		8		11	

8. 活動報告会の開催

2016年度の活動報告会は、T-ACT アクション表彰と合わせて上半期、下半期の2回実施した。2015年度から引き続き、活動報告を行う企画についてはT-ACT 推進室員による選考でノミネート企画を決め、報告会において企画実施者が活動報告をプレゼンまたは映像放映を行い、T-ACT 推進室員および来場者による投票で賞を決定する形をとった。上半期と下半期ともに、学外参加者にも多く参加してもらえるよう、つくば駅前の都市型商業施設 BiVi つくばにある筑波大学サテライトオフィス（つくば市つくば総合インフォメーションセンター含む）で開催した。

上半期においては8つのアクション企画が、下半期においては11のアクション企画の報告およびポスター発表を行った。また、上半期には2組、下半期には3組のT-ACT ボランティアで活動した学生の活動報告も行った。上半期および下半期において、特にT-ACTで活動する学生へのご支援をくださった教職員へのグッド・パートナー賞の贈呈も行った。また、下半期には、特に学生への教育的な配慮を行っていただいたボランティア登録団体への感謝状の贈呈も行った。

上半期、下半期ともに活動報告会終了後には、参加者による交流会も行った。学生、教職員、地域の方々などが、上半期には約45名、下半期には約52名が参加し、学生の活動を学内外に発信する良い機会となった。

【上半期活動報告会】

日時 9月27日（火） 15：00～17：00（17：00～18：00 交流会）

場所 BiVi つくば 筑波大学サテライトオフィス・つくば総合インフォメーションセンター交流サロン

【下半期活動報告会】

日時 3月23日（木） 15：00～17：30（17：30～18：30 交流会）

場所 BiVi つくば 筑波大学サテライトオフィス・つくば総合インフォメーションセンター交流サロン

9. 地域連携への取り組み

【つくば災害支援連絡会議への出席】

つくば災害支援連絡会議とは、平成27年9月に起こったつくば市の隣接市である常総市での洪水災害を受け、つくば市及び近隣地域で災害が起きた際の災害支援のあり方について、市民活動レベルから考えて地域が協力する体制を整えるため、つくば市市民活動センターが発起団体として開催されるものである。本学からはT-ACTボランティアアドバイザーの鈴木庸氏が参加した。

各回で話し合われた議題は以下の通りである。平成29年度以降は各団体の連携を保つために概ね2月および5月に会議を実施することとなった。

【参加団体】

つくば市市民活動センター	つくば市危機管理課
つくば市社会福祉協議会	つくば市消防本部
つくば市国際交流協会	つくば青年会議所
筑波大学 T-ACT 推進室	Tsukuba for 3.11
筑波学院大学 OCP 推進室	つくば市民大学
ラヂオつくば	消防士（アドバイザーとして参加）

【開催内容】

第1回 平成28年1月18日（月）18時から20時

1. 開催の経緯の説明
2. 被災時に行った支援活動等を交えての団体紹介
3. 当会が災害発生時の連携強化に役立つための形態等について

第2回 平成28年3月23日（水）18時から20時

1. 今回の実施内容とゴールについての確認
2. 過去に行った支援活動等についての報告
 - ・東日本大震災（8団体）
 - ・北条竜巻災害（5団体）
 - ・常総市水害（6団体）
3. 来年度の実施予定、内容についての検討

第3回 平成28年6月20日（月）18時から20時

1. ディスカッション
 - ・どのような情報があれば各自が動きやすくなるか
 - ・その情報はどのようにすれば団体間で共有できるのか

第4回 平成28年9月28日（月）18時から19時半

1. ディスカッション
『もしも常総水害が再度発生した場合』を想定した演習
2. 各団体の近況報告
3. 今後の実施形態の確認

第5回 平成29年2月2日（木）18時から20時

1. メンバーである青年会議所理事長変更に伴う、顔合わせ
2. 各機関による活動報告、および共有・連絡事項の確認
3. 次回開催についての確認

以上を通じて、つくば市における災害時の際の連携について意識が共有されたと言える。

編集後記

私事ですが、私が T-ACT 推進室に着任してから 1 年が経ちました。右も左もわからないまま「2008 年度に学生支援 GP からスタートした、つくばアクションプロジェクト（T-ACT）は 2012 年度と 2014 年度に支援体制が拡充され、現在は T-ACT 推進室として活動しております。それに伴って全学的に T-ACT の周知率と関心は高まりつつあります」といったことを記してから早 1 年、光陰の矢のごとしといった心持です。2016 年度は 2014 年度ほどの水準には至らなかったものの、企画の申請数や来室者が前年度より増加しました。1 年間という短い期間とはいえ積み上げた時間がありますので、今年はしっかり実体験を伴ったことを述べさせていただきますと、この数値の増加は「気軽に企画の申請数が戻ってきた」と捉えるよりも、「大きくクオリティの高い企画が質を落とすことなく増えていった」と捉えた方が実態に沿っていると、私は感じます。この 1 年は私にとって、学生の持つ可能性の力強さをあらためて強く感じさせる時間でした。楽しさや憧れといったポジティブな感情だけではなく、焦燥感や後悔といった一般的にはネガティブとされる感情さえも原動力にして、自分が本当に「やってみたい」ことを実現させていく彼ら、彼女らのエネルギーは、私にとっても刺激的であり魅力的です。そんな可能性の発露を促すため大切なことは何か？ と考える機会も増えました。現時点の私の答えはいたってシンプルなのですが「一人ひとりの学生に真摯に、かつ楽しく向き合うこと」です。学生にとって気軽で、身近で、頼りがいのある T-ACT であること、そのために必要な姿勢だと思います。「そんな姿勢が今の 2 倍の企画申請が来た時に可能なのか？」という不安もありますが、それは今後の私の、そして T-ACT 推進室の課題といったところでしょうか。幸いなことに頼りがいのある新しい仲間も増えました。さらに新しく変化していく T-ACT の中で、ますます身を引き締めて楽しんでいきたい所存です。

T-ACT 専任教員
黒田卓哉

今年度の 4 月よりボランティアアドバイザーとして着任いたしました。初めて関わる分野のため、分からぬことばかりですが、これから少しづつ勉強をしていきたいと思います。

学生にとってのボランティアというと、挑戦することへのハードルがとても高いものと考えていました。しかし、昨年の T-ACT の活動を見てみると、ボランティアに参加することで地域の方と関わりが増えたり、自身のコミュニティも広げたりし、より学生生活を楽しんでいる学生ばかりでした。ボランティアと言っても、規模や活動内容も様々です。ボランティアに参加するための高い壁を作らず、簡単に参加できる仕組みである T-ACT を学生には活用してもらいたいと思います。私も、微力ながら皆さんと一緒に地域と連携をして、皆さんのサポートをしていきたいと思います。

T-ACT ボランティアアドバイザー
飯島由香

平成 28 年度 T-ACT 推進室員一覧

所 属	職 名
室 長 田中 博 計算科学研究センター 教授	学生生活支援室長
副室長 加賀 信広 人文社会系	教授
室 員 朴 宣美 人文社会系	准教授
仲 重人 人文社会系	教授
杉江 征 人間系	教授
丹羽 隆介 生命環境系	准教授
中内 靖 システム情報系	教授
後藤 嘉宏 図書館情報系	教授
三輪 佳宏 医学医療系	講師
澤江 幸則 体育系	准教授
斎藤 敏寿 芸術系	准教授
田附あえか 人間系	助教
唐木 清志 人間系	准教授
黒田 卓哉 学生生活支援室	助教 T-ACT 専任教員
金井 浩紫 学生部学生生活課	課長

平成 29 年度 T-ACT 推進室員一覧

所 属	職 名
室 長 田中 博 計算科学研究センター 教授	学生生活支援室長
副室長 加賀 信広 人文社会系	教授
室 員 朴 宣美 人文社会系	准教授
仲 重人 人文社会系	教授
杉江 征 人間系	教授
丹羽 隆介 生命環境系	准教授
中内 靖 システム情報系	教授
後藤 嘉宏 図書館情報系	教授
三輪 佳宏 医学医療系	講師
李 燦雨 体育系	助教
斎藤 敏寿 芸術系	准教授
田附あえか 人間系	助教
唐木 清志 人間系	准教授
青柳 悅子 人文社会系	教授
田中 崇恵 人間系	助教
黒田 卓哉 学生生活支援室	助教 T-ACT 専任教員
金井 浩紫 学生部学生生活課	課長

つくばアクションプロジェクト活動報告書

平成 29 年 6 月発行

筑波大学 T-ACT 推進室
〒 305-8577 つくば市天王台 1-1-1
TEL 029 (853) 2222



平成29年度学生サポーターとフォーラムスタッフ

